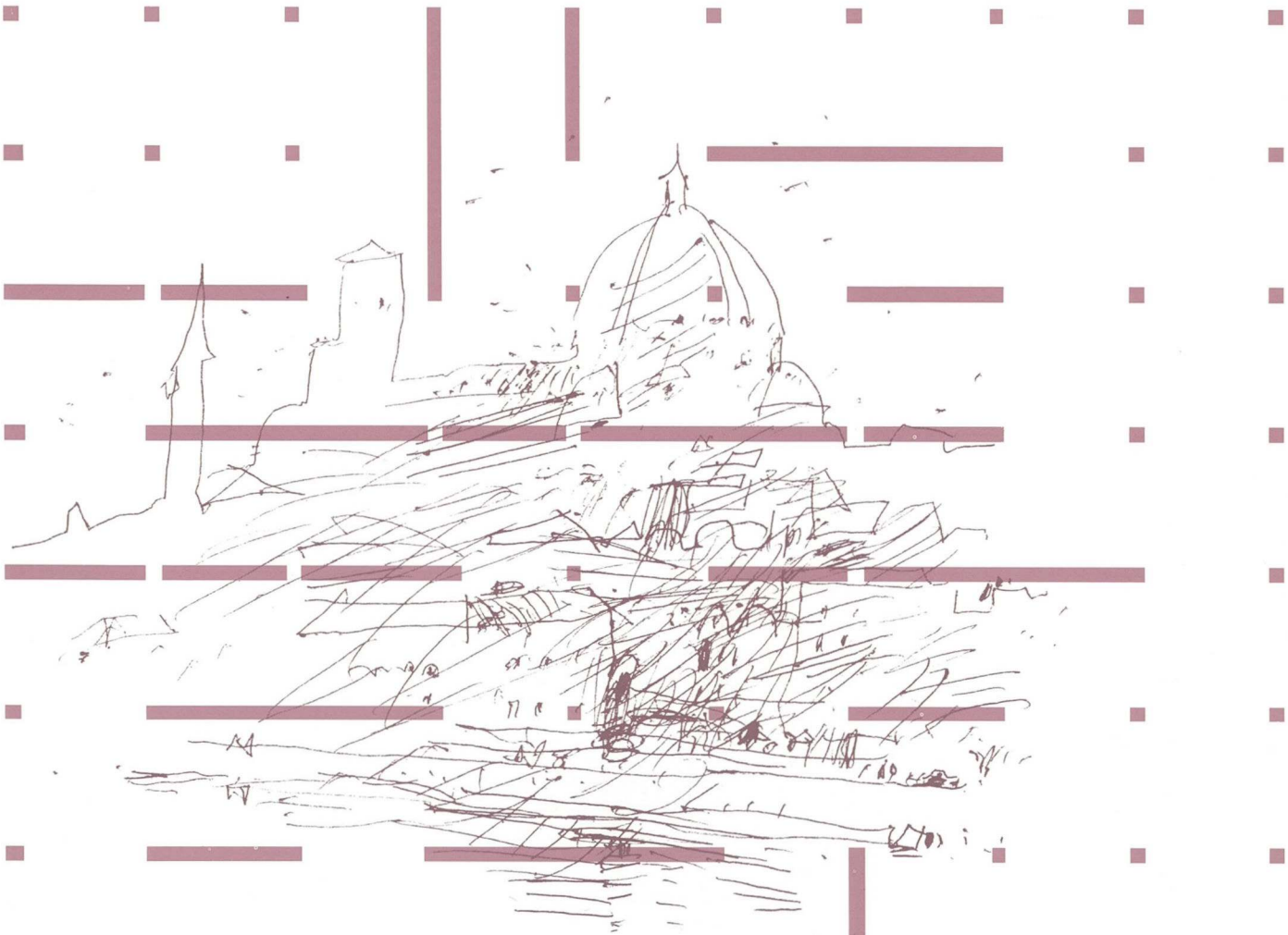
Vol. 66通巻762号

昭和60年9月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建　築　と　社　会

ARCHITECTURE AND SOCIETY 1985 9

特集●都市と健康・スポーツ



日本建築協会

大阪ガス

おかげさまで 80年
きょうもお役に立っていますか

無重力。プリオール人。



エックスプリオール

PRIOR

いま、住空間はお湯の心地よさに包まれます。お湯をフレキシブルに活用し、新しい快適さをお届けするプリオール。給湯、冷暖房はもちろん、便利な最新システムが勢ぞろい。足もとから暖かさを伝える床暖房、遠赤外線を利用した低温の温水サウナ、洗たく物の乾燥から冬場の浴室暖房まで幅広く活躍する浴室換気乾燥機など、お住まいに合わせて、プランをお選びください。

昭和60年度・茶室見学会

◀黄梅庵と伸庵の見学



黄梅庵

堺市百舌夕雲町の大仙公園にある黄梅庵は、堺の名茶人今井宗久好と伝える３帖向切下座床の席を持つ数寄屋住宅で、もと橿原市今市町の豊田敬高氏邸にあったのを小田原市に移し、耳庵松永安左衛門翁も一時期住まっていたことがある茶室です。

また、黄梅庵とならんで建つ伸庵は、325㎡の広い数寄屋住宅で、各室に炉が切ってあり、風流生活を楽しむのに理想的な構えとなっています。大正年間、東京の数寄屋師仰木魯堂の好んだもの。東京都港区芝公園１丁目の辻本邸より移築されました。

今回の見学は、茶室をただ茶会に使うだけのものでなく、住居の一部として日常生活にとけ込ませた数寄屋住宅の見学で、岡田先生の詳細な解説によりこの種の住宅を設計する上で良き参考となるものと思われます。多数の方のご参加をお待ちいたします。

なお、この企画には堺市博物館のご協力をいただきました。

日　　時　10月17日(木)　集合13：50 → 解散16：00
集合場所　国鉄・阪和線「百舌鳥」駅・西側（天王寺方面行）
改札出口前付近、目標会旗
〔参考〕大阪より……国鉄・阪和線「天王寺」駅より普通に乗車、「百舌鳥」駅下車（所要約20分・片道200円）
講　　師　工学博士　岡田孝男　氏
（帝塚山学院大学教授）
定　　員　30名
会　　費　会　員　2,000円
会員外　2,500円
（入館料、抹茶代、その他含む。当日受付にていただきます。）
申込方法　会誌発行の都合により電話にて申込受付をいたします。10月９日(水)までに氏名・勤務先名・連絡電話番号・参加証送付先・会員、会員外の区別及び催し名称をお知らせ下さい。定員超過の場合は抽せんにて決定の上参加証をお送りします。（日本建築協会事業課
TEL 06－348－0633）

◀加古川総合文化センター新築工事の見学会

東播磨の中核都市加古川に、この度、加古川総合文化センターが完成、11月３日の文化の日に開館の運びとなりました。

この施設は、その名の通り、多種の機能が籠められた複合文化施設で、博物館・美術館・公民館・図書館・視聴覚ライブラリー・プラネタリウムなどが広場を取り囲む２棟に構成され、「文化の森」と名づけられた公園と一体となった施設づくりがなされています。

また、広場はコロネードを持つ緩やかな３つの「照り」のある円弧状の壁に囲まれ、印象的な外部空間を形成しており、陽光に満ちたセンターロビーは、各種の用途の諸室に面し、居心地の良いアトリウムとなっています。

近年の地域の文化の充実には見るべきものがありますが、今後の地域の文化づくりを考える上で、参考にもなることを期待して、今回の見学会を企画しました。

さわやかな秋の午後、多数のご参加をお待ちいたします。

なお、この企画に際して、加古川市並びに株式会社日建設計および株式会社熊谷組ほか各位に多大なご協力をいただきました。

日　　時　10月22日(火)　集合14：00 → 解散17：00
集合場所　国鉄・山陽本線「東加古川」駅、改札出口付近、目標会旗
〔参考〕「大阪」駅より快速乗車、「東加古川」駅下車、（所要約80分・片道 1,000円）
定　　員　30名
会　　費　会　員　800円
会員外　1,000円
（当日受付にていただきます）
申込方法　会誌発行の都合により電話にて申込受付をいたします。10月14日(月)までに氏名・勤務先名・連絡電話番号・参加証送付先・会員、会員外の区別及び催し名称をお知らせ下さい。定員超過の場合は抽せんにて決定の上参加証をお送りします。（日本建築協会事業課 TEL 06－348－0633）

建築概要

所在地	加古川市平岡町新在家1224－７
発注者	加古川市
設計・監理	株式会社日建設計大阪本社
施工(建築)	株式会社熊谷組
施工(設備)	空調・衛生　川崎設備工業株式会社
	電　　気　日本電設工業株式会社
敷地面積	30,071㎡
建築面積	6,374㎡
延床面積	11,689㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造　地下１階、地上２階
用途	複合文化施設（博物館・美術館・公民館・図書館・視聴覚ライブラリー他）
工期	昭和59年４月 → 昭和60年７月



◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06—348—0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外¥ 750(58年4月号以降は¥ 950)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和41年(47集)	＊都市住居	地下街	空気調和設備	建具金物	建築法規	国立京都国際会館	第13回青年建築家	1970年万国博会場計画	＊造園	最近の地下工法	市街地改造	公害と都市・建築
昭和42年(48集)	＊国立劇場	建設機械	日本建築協会50周年記念号	社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年(49集)	都市生活	都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	都市交通施設	都市供給処理施設	群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	新都市計画法の諸問題
昭和44年(50集)	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民—中部からの報告	＊老人とすまい	建築史の方向—現代によみがえる過去—	建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	＊九州からの報告
昭和45年(51集)	現代社会とは何か	建築と安全	＊日本万国博と技術開発	＊設計のシステム化	＊グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	＊山陽・山陰からの報告
昭和46年(52集)	住宅—60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	＊軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年(53集)	冬季オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	＊量産住宅の設備	＊一般号(柱中学)		都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年(54集)	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年(55集)	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年(56集)	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76—建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	＊設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向—新旧のコントラスト	＊水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備・	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文—北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎(第1期)	音とホール建築	大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考えるとりくみ	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年(65集)	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う—	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル(アバンティ)	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年(66集)	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生みだす文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾 ●第32回青年技術者 ●東海特集	●住空間予定

雑誌の大きさは第48集からは現行のA4判変形、それ以前はB5判

1917創刊
1985
第66集
9
通巻762

■表紙デザイン
吉引顯久(竹中工務店)
記憶の断片ー黄昏に輝いて サンタ・マリア・デル・フィオーレーフィレンツェ
■特集予告
10月号／接合ー人体と建築にみる
これからの住空間(予定)
日建設計創立35周年記念特集
11月号／第32回青年技術者
村野藤吾追悼集
東海支部復活25周年記念特集
12月号／屋根(予定)

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和60年度）

編集委員長
◎井上　滉
編集理事
井上　滉
今井潤之介
金井　弘次
金多　潔
木内　清三
竹中　錬一
武田　恭一
長谷部朔郎
松村　慶三
渡辺　忠
編集委員
(特集小委員会)
■計画分科会
足立　啓
岡田　信幸
奥村　礼子
金澤　成保
杉本　章子
田附　尚
＊田中　直人
中山　徹
藤田　治彦
舟橋　國男
本多　友常
山根　勝利
■構造分科会
日下部　馨
阪本　隆敏
田中　茂樹
西田　理
＊真塚　達夫
俣野　博
山田　裕治
■設備分科会
磯田　憲生
＊遠藤　進
加賀和伊久男
柿内　隆雄
川戸　敏雄
河津　隆之
久須美高朗
中尾　信之
拳　學
■施工材料分科会
荒木　弘之
田中　光紀
西牧　恵吉
前田　松和
＊水口　譲
横井　征夫
■法令分科会
押川　兼宏
＊広江　雅樹
松田　洋三
南出　和延
(投稿欄小委員会)
赤井　富弘
伊藤　郁郎
小林　正純
○中馬　博良
永原　守
堀畑　裕一
(作品作風小委員会)
荒川　朱美
浦山　哲
大泉　研二
小椋　豊久
加藤　俊明
菊池　稔
○北村　恭一
黒川　省二
浜崎　彰
松村　孝治
湯地　龍一
(広告企画小委員会)
○伊藤　敬祐
池渕　俊男
大墨　正
木原　幹雄
北村　潤
嶋田　聖二
中井　進
原田　常介
平等　一之
広田　和正
藤田　孝吉
山下　修司
⊗吉田　健次
○渡辺　忠
○副委員長　⊗副委員長代行　＊幹事

編集人　松井昭光
印　刷　昭和60年9月20日
発　行　昭和60年9月25日
発行人　吉田悦二
発行所　(社)日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111(代)
大信印刷株式会社
電　06－451－7631
定　価　950円（送料共）

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

特集●都市と健康・スポーツ
SPECIAL FEATURES ON URBAN LIFE, HEALTH AND SPORTS

会告　昭和60年度・茶室見学会黄梅庵と伸庵の見学．加古川総合文化センター新築工事の見学会…… 1
作品作風　北野阪急ビル……設計監理：竹中工務店　施工：竹中工務店・鹿島建設共同企業体… 4
殖産安田ビル……設計施工：清水建設… 8
日丸名古屋ビル……設計施工：竹中工務店… 10
大阪明浄女子短期大学……設計監理：A.R.I 建築事務所　施工：間組… 12
姫路市立養護老人ホーム……設計：安井建築設計事務所　監理：姫路市　施工：鹿島建設… 16
リバーサイドさぎす……企画・基本設計：住宅・都市整備公団関西支社　施工：飛島建設ほか… 18
Gallery－まち・建築・ひと　矢口浩悦庵美術修復工房(設計・高口恭行＋造家研究室)…… 22
スケッチブック　最近竣工した新建築9点(No.1891～1899)…… 24
法令コーナー209　京都市の「暮らしの指針」―住環境の変容に臨んで―／木村喬而…… 25
新建材紹介コーナー　透光性断熱板『ルームラック』／西川純一…… 26
レポート　国際会議「都市と水路空間」から／加藤晃規…… 27
読者の頁　先輩からの一言2―日本の建築は何処へ行くのか／佐藤重夫．日本建築と私／浅野清．
夕暮に思う／長谷川哲之助．最初の言葉／鬼頭寿郎．社会に出る前後の友人・先輩・恩師／光安義光．
建築に参加する意義を考える／高田重清．若い建築技術者に望む／川崎敬三．ひとりごと／大井弘治郎 … 28
書評　『ゴシックの大聖堂』―西洋建築の本質を展開／加藤邦男
私が読んだ本　何となく…読んでます／太田隆信．御堂筋景観図．…… 30
この人　土屋寿満(光の芸術家)／聞き手・中馬博良…… 32
日本建築総合試験所だより　UJNR(United States Japan National Resources＝天然資源開発利用に関する日米会議)防災専門部会第8回日米合同会議及び第4回日米加毒性専門家会議報告…… 33
設計者のプロフィール　谷　淳之介(東畑建築事務所)氏を訪ねる／インタビュア・水川尚彦…… 35
見学記　現代のクリスタルパレス―インテックス大阪をみて／本多友常…… 36
書評　水辺は都市の中の"カラッポ空間"／上田　篤…… 37
建築の眼　ヒューマンスケープ・アーキテクツ／嶋田勝次．当字について／生田喜一郎．
天の恵み／土肥耕一．兵馬俑／狩野忠正 …… 38

特集　都市と健康・スポーツ

総論　余暇市場も成熟化の時代……平本一雄… 40
健康づくりの戦略
各論 1.　健康づくりの歩み―ＹＭＣＡ体育よりさぐる―……世戸俊男… 42
2.　フィットネス産業の展望……牧川　優… 43
・エグザス／長峰　登
・日本エアロビクスセンター／布施木信之
3.　都市ホテルの健康戦略……舛田英樹… 46
・都ホテル大阪／小西捷司
4.　スポーツイベントを契機とした都市経営……宮岡寿雄… 48
5.　自治体のスポーツ振興・健康づくり施策……大阪府／大阪市／神戸市… 49
事例　都市生活と健康・スポーツ施設…… 51
1.　神戸市立北須磨文化センター／サンシビック尼崎／CITY　SPORTSすみのえ／フィットネスクラブオキシー阪急／瀬田パークアベニュー／関西サイクルスポーツセンター／日本エアロビクスセンター／大阪府立体育会館(仮称)
2.　健康・スポーツ施策一覧―近畿を中心に…… 58

休載します
設備の頁　KPMAT工法／阿川清二…… 61
施工材料の頁131　高架水槽の耐震設計―容器構造設計指針案・同解説を踏まえて―／松田充啓…… 62
構造の頁133　日本建築協会月間の動き(昭和60年7月分)…… 63
月報

北野阪急ビル

設計　竹中工務店
施工　竹中工務店・鹿島建設共同企業体





成熟した今日の都市生活の中で、遊びと寛ぎの場には、より一層の多様化と個性化が求められつつある。

北梅田の阪急ターミナルゾーンの北端に位置するこの建物は、夜型の飲食レジャー店舗街と302室のホテル、そして健康づくりのためのフィットネスクラブがジョイントした都市空間のコンプレックスの1つである。外観のデザインは曲面を繰返し用いて、優しさと動きの中にこの建物の遊び心を表現した。阪急電車軌道からの見えがかりに対応した水平のプロポーションが端部のカーヴで伸びやかな流動感を加えている。

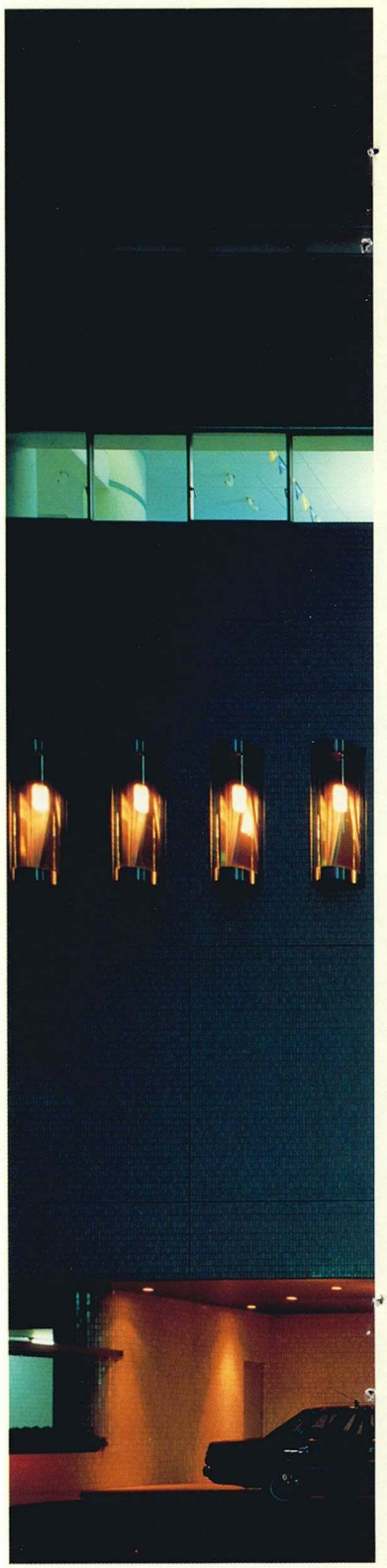
高層部ホテル棟はバルコニーを巡らせ、安全性と同時に軽やかな陰影を得ることができた。外装は白い磁器タイルを張り、頂部に薄く曲面の金属庇をのせている。

低層部の外壁はピロティで浮かせ、赤いネオンのストライプを流した。建物の輪郭を大胆に縁取ってライトアップする手法を用いて夜の楽しさを表現するためである。外壁の白いタイルや柱型のネオパリエ、鏡面仕上の金属材や反射ガラス等、いずれも照明に清潔に映え合う素材を選んだ。阪急三番街からアプローチしてくると、この建物のメインエントランスの広場・サンクンガーデンがある。

長大なステンレスの双子柱とそれによって支えられる大きな架構でカバーされた空間である。光のゲート、光の樹があり、双子柱の頂部には巨大なネオンのシャンデリアが渦巻いて夜には様々な光の演出があり、街に開かれたアトリウムとなる。サンクンガーデンからゆったりとした階段で地下の店舗街へ導かれると江戸情緒をテーマとした和食の街である。ここでは瓦庇の連なりや堀割、常夜灯篭のあるトリッキーな企みをもった店舗構成がとられている。

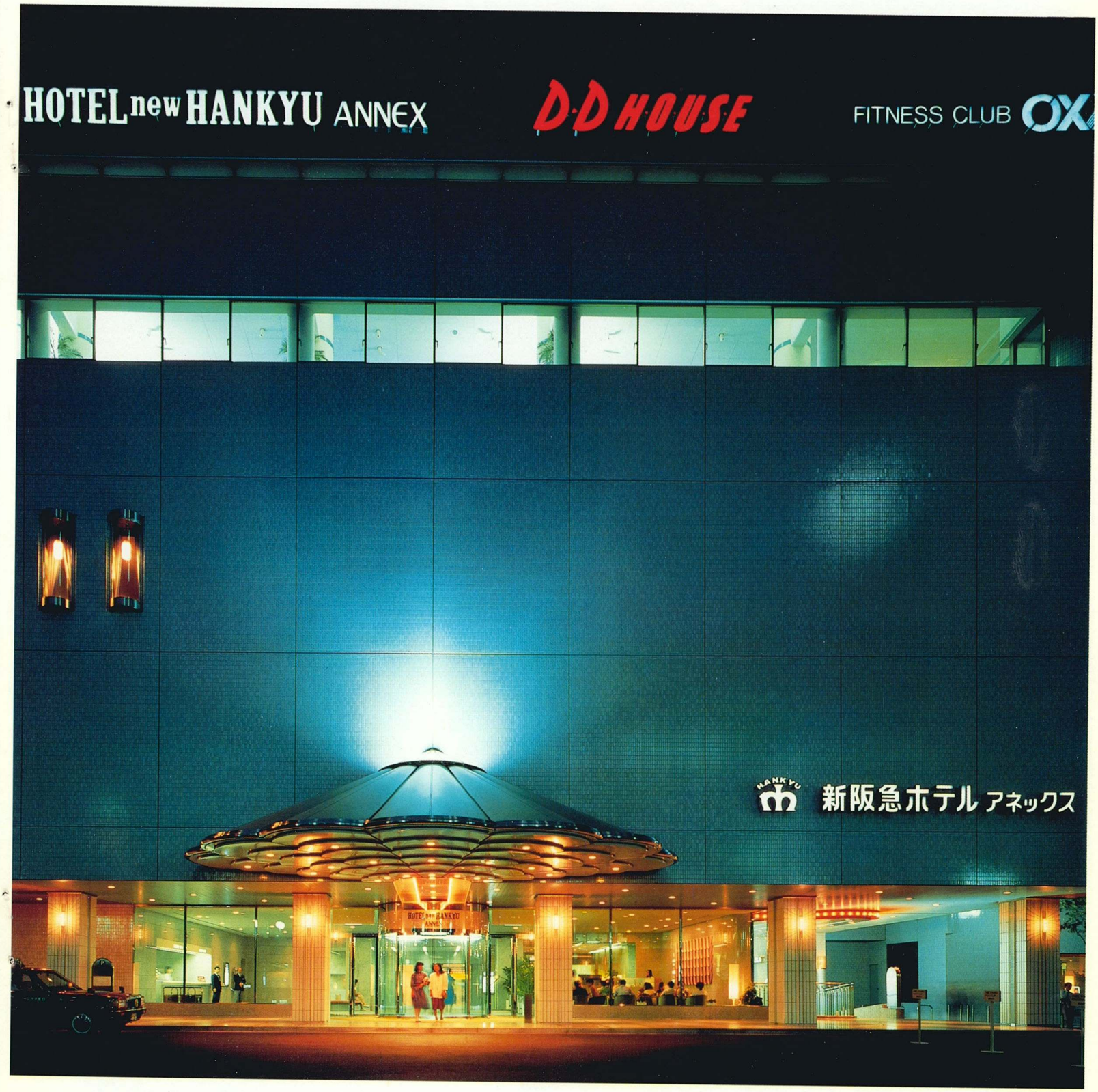
ホテルやフィットネスクラブと一体となった「夜の街」創りでは、同時に周辺の街区の整備も行われた。「街に開かれたアトリウム」を中心に新しい界隈がすでに生まれつつあるようである。

（村上元康／竹中工務店）



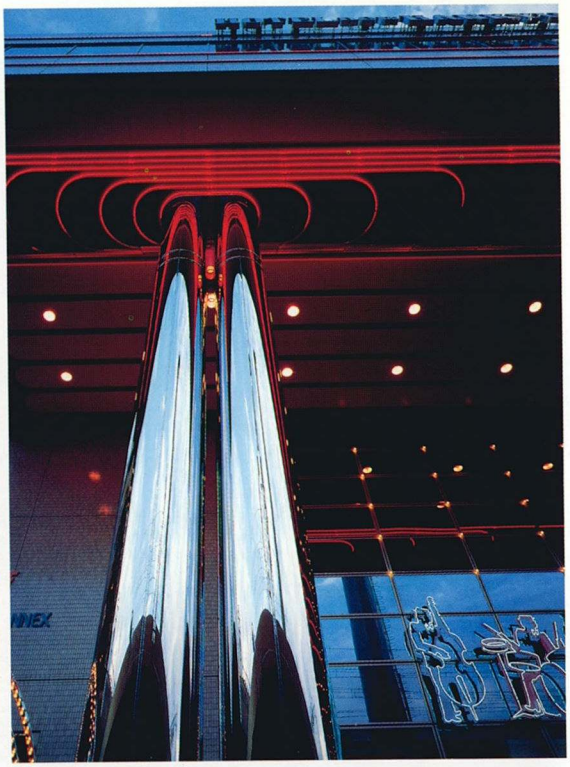
左上：西面全景
左下：ホテルラウンジよりフロントをみる
上：西側よりホテル正面アプローチ

計画・監理　阪急電鉄株式会社
所　在　地　大阪市北区芝田１－８－１
敷地面積　4,514.74㎡
建築面積　3,230.72㎡
延床面積　28;846.10㎡
構造規模　SRC、B２、17F、P３
工　　期　昭和58年１月～昭和60年７月



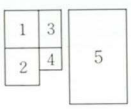
撮影　東出清彦





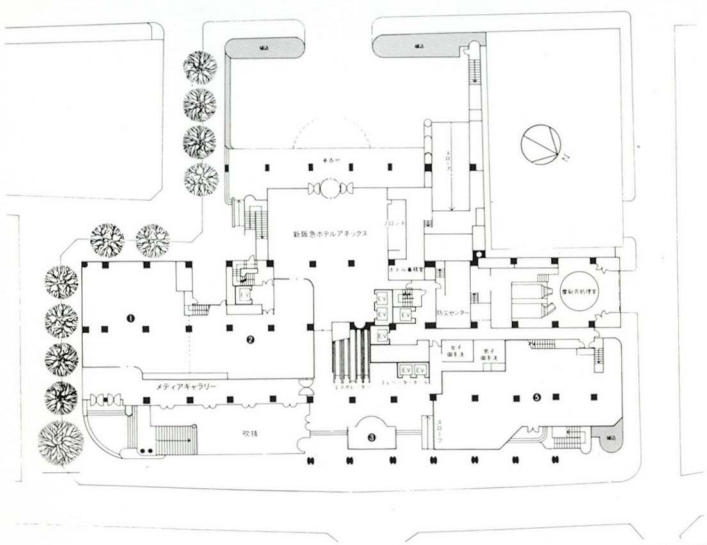




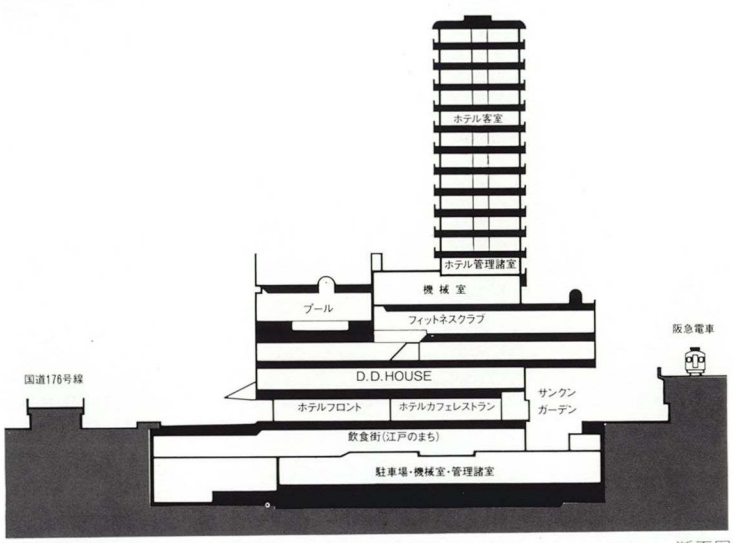


1．東側よりサンクンガーデン吹抜をみる
2．地下1階飲食街（江戸のまち）
3．サンクンガーデンのステンレス双子柱を見上げる
4．東側1階エレベータホール附近
5．南東面夕景

4階フィットネスクラブについては本文特集記事53頁を参照。

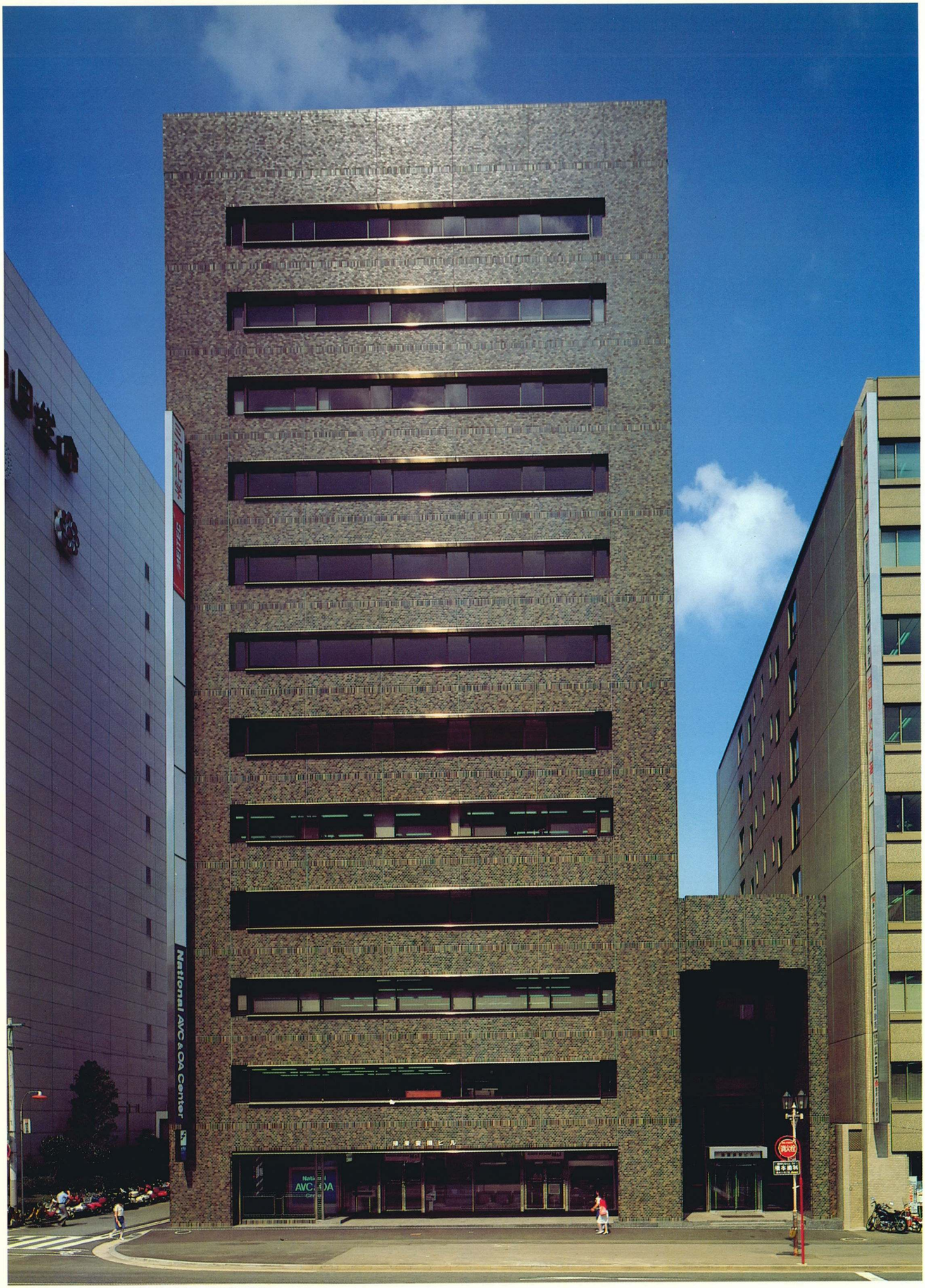


1:1100　1階平面図



断面図


HOTEL new HANKYU ANNEX
D-D



正面全景　　外装仕上　磁器小口タイル現場打込

撮影　河野　博之

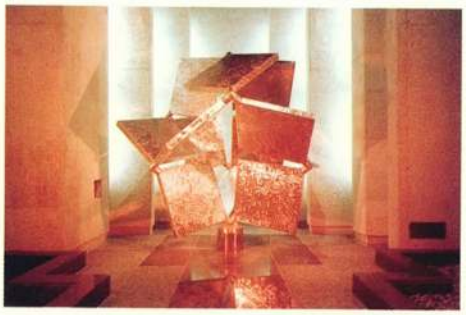
殖産安田ビル

設計施工　清水建設

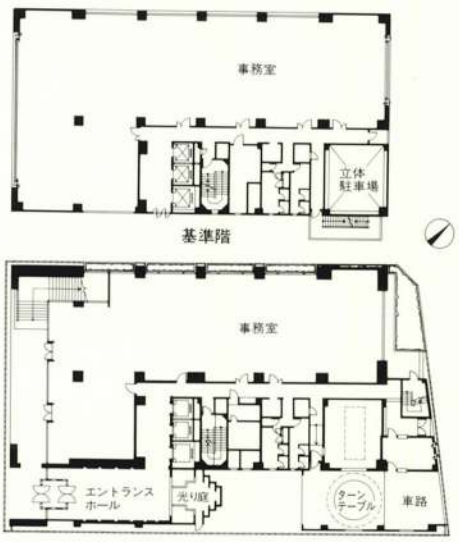
所 在 地　福岡市博多区博多駅前１－４－４
敷地面積　1,215.24㎡
建築面積　1,053.19㎡
延床面積　9,883.70㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ１、12Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和58年10月～昭和60年６月
最 寄 駅　国鉄鹿児島本線博多駅

この建物は国鉄博多駅、地下鉄祇園駅に近接して位置し、西側には出来町公園に隣するオフィスビルとして、良好な環境にある。
オフィス空間は独立柱を無くし、ロングスパンにより広い空間とし、オフィスレイアウトの多様化、ＯＡ化に対応できるようにした。また地域性を考慮し、雨水利用の節水システム、中水道など新しいシステムも導入した。
当ビルの特色は、合理性と高効率性を追求する投資型ビルでありながら、展示空間を持った潤いのあるエントランスホールを試みたことである。奥行15m、幅６m、高さ 5.2mのこのホールは、両側壁に10個の作品用ポケットをくりぬいたアートポケットと、ガラスを隔てた〝光の庭〟という天井のない半屋外スペースから成っている。
〝光の庭〟には福岡出身で金属を自由にあやつる多彩な制作活動を続ける望月菊磨氏制作の「光の舞」を設置し、エントランスホールの軸とした。ポケットギャラリーには若手作家のオブジェを展示し、素材の違いによるユニークな造形美の競演と楽しさを演出した。ビルの来訪者だけでなく街路を通行する人達にも美的な空間が開放され、ビルの豊かさを表現している。

（原田好和・本田忠芳／清水建設）



望月菊磨作「光の舞」

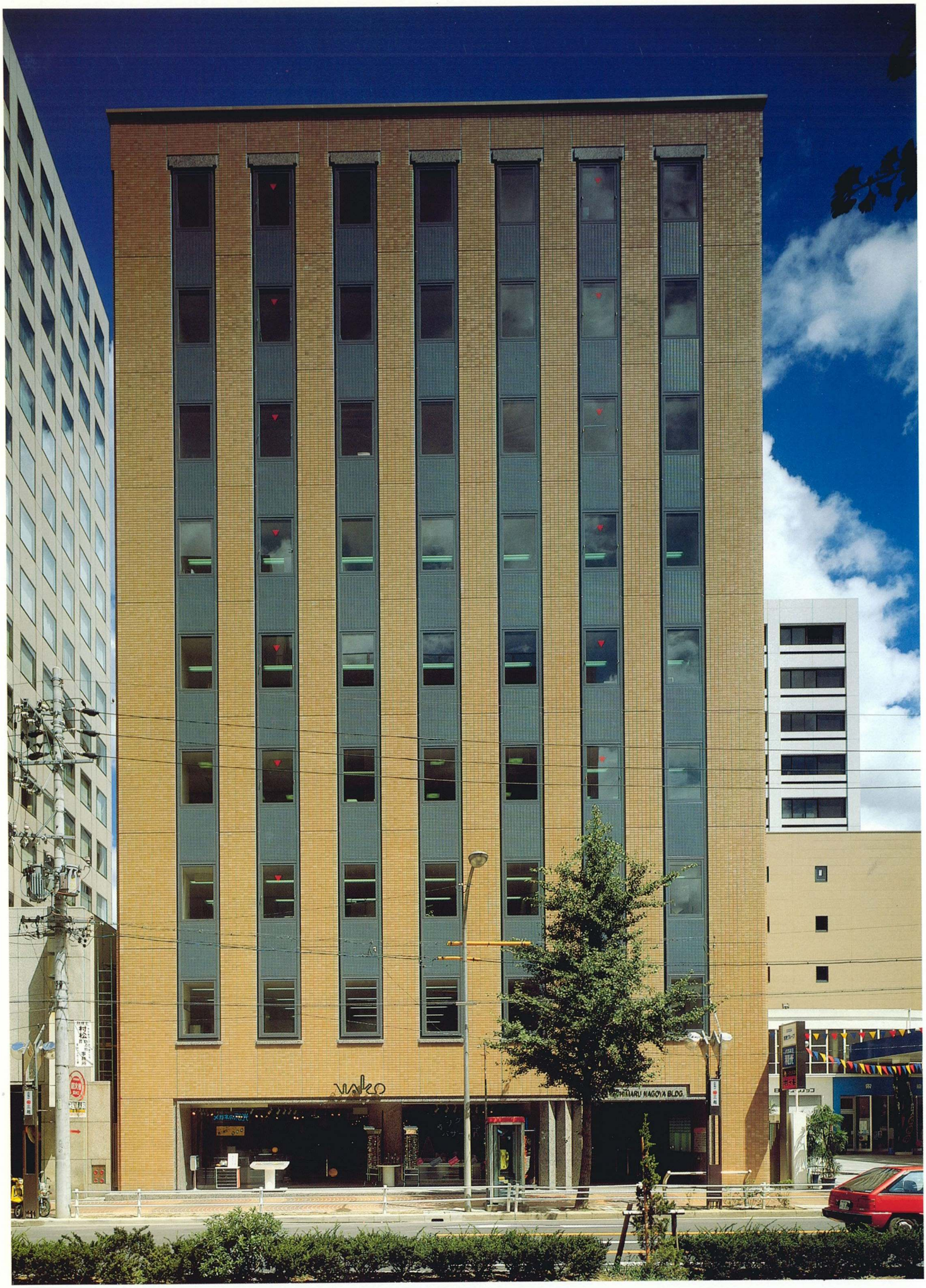




北東側全景



エントランスホール



正面全景

外装仕上　小口タイル打込オムニア版　アルミジュラクロンテ軸回転サッシ

撮影　田中　昌彦

日丸名古屋ビル

設計施工　竹中工務店名古屋支店

所 在 地　名古屋市中区新栄町１－３
敷地面積　955.84㎡
建築面積　870.95㎡
延床面積　8,840.42㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ２、９Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和58年１月～昭和60年６月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅

この建物は、名古屋市の中心地にあり、東西に延びるメインストリート「広小路通」に面し、周囲は比較的高層のテナントビルが建ち並び商業の中心街区を形成している。近年、この地域はテナントの小規模化傾向が強く、そのニーズも多様化してきている。

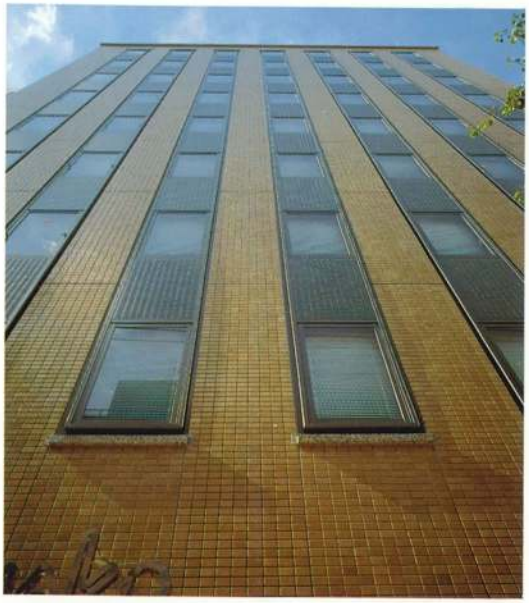
計画にあたり、敷地の状況、法的制約等から、高さを31mにおさえた「効率の高いテナントビル」を基本構想とした。

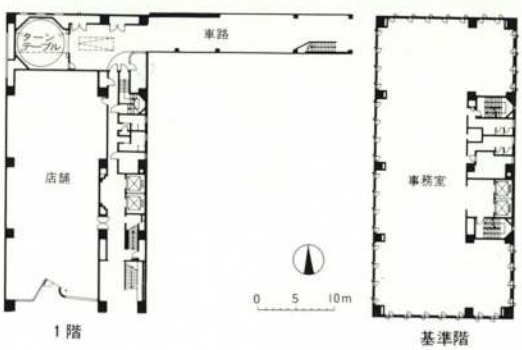
平面計画は、サイドコア方式とし、小割りに対応し易い単純な形にすると共に、長大スパンによるフレキシブルな無柱空間を確保し、多様化するニーズに対応できるようにした。また、L字型の変形敷地を生かし、車の出入口を東側とし、正面の店舗の間口を敷地一杯にとり、広小路通側の車による分断をさけた。

周辺の建物と対比させるため、外壁はベージュ系のタイルを用い、外観のモチーフとしてタテ連窓を選んだ。貸室部分は、アルミサッシュと花崗石のまぐさ、水切により、コア部分は、スリット状のＰＣ版の内側に窓及びガラリを納め、統一された外観を構成した。

すでに数多くのクリニックの他、飲食店などが入居しており、この周辺では小規模ではあるが密度の高いテナントビルとなっている。

（古島利夫／竹中工務店名古屋支店設計部）





1階　　基準階



南東側全景



正面玄関

大阪明浄女子短期大学

設計監理　A.R.I建築事務所
施　　工　間組
外装タイル　オリベ

所 在 地　泉南郡熊取町大字大久保1216－1
敷地面積　33,058.00㎡
建築面積　4,031.92㎡
延床面積　8,889.58㎡
構造規模　ＲＣ４Ｆ、ＳＲＣ10Ｆ
工　　期　昭和58年10月～昭和60年３月
最 寄 駅　国鉄阪和線熊取町駅

沖合５キロメートルに関西国際空港の建設が決定し、21世紀に向けて国際交流都市ゾーンとしての大きな発展が期待されている。このような立地条件にふさわしく、当女子大学も語学の単科大学として新設された。
敷地は、水と緑に恵まれた理想的な環境である。
設計のテーマは、この自然環境とオーガナイズしながら、建学の精神である「女性の自立」を涵養し、「世界にはばたく近代女性のロマン」が展開される教養の空間を提供することであった。
基本計画は、南北にのびるコリドールを軸として、東側に動的領域である体育館棟、グラウンド、テニスコート、メモリアルプラザを配し、西側に静的領域である学究ゾーンとしての研究棟、図書館棟、教室棟を配した。10階建の研究棟は、この地域の今後の発展をふまえたランドマークであり、モニュメンタリティーを意図した。最上部からの見晴らしは、遠く四国、淡路、神戸など大阪湾が一望できる。
外観を特徴づけ、キャンパス全体の骨格ともなっているコリドールは、太陽光や風雨をコントロールする外部空間と、吹抜けを内包する二層の廊下を並列させている。四季折々にキャンパスの中で人と人との交流を増幅させ、次なる場面への心の準備空間として中庭から池へと視野を連続させながら自然環境と融合するだろう空間づくりを意図した。
また、タイルの色彩やディテールの細部にいたるまで、緩やかな曲線の流れを連ねることで、優美さ、柔らかさ、女性のロマンのはだざわりが感じられることをデザインポリシーとしてまとめた。
今春スタートしたばかりのこの新しい女子大学が、「私学の時代」を到来させる上で、一役を果たすものと確信している。

（亀井晃治／A.R.I）

撮影　黒田青巌

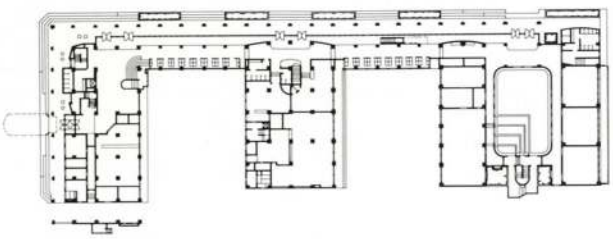




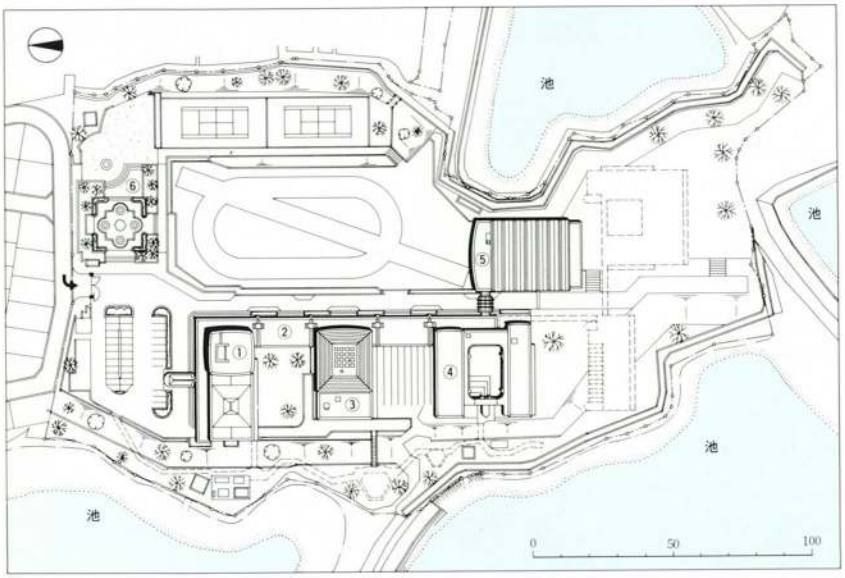




正門前より



1階



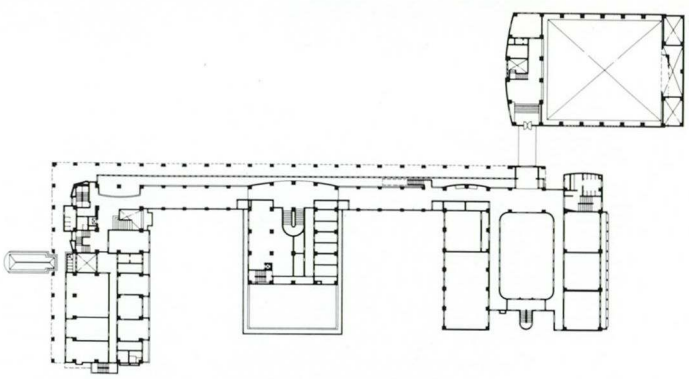
①管理棟　②コリドール棟　③図書館棟　④教室棟　⑤体育館棟　⑥メモリアルプラザ



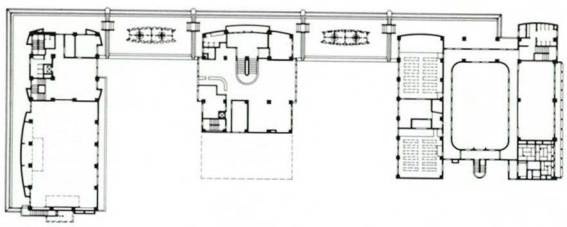
図書館棟とコリドール棟



東側外観



2階



3階(一部4～10階)



学生入口ホールと中央メイン階段



多目的ホール(400席)



学生ラウンジ



図書館一般閲覧室



体育館兼講堂(730名収容)



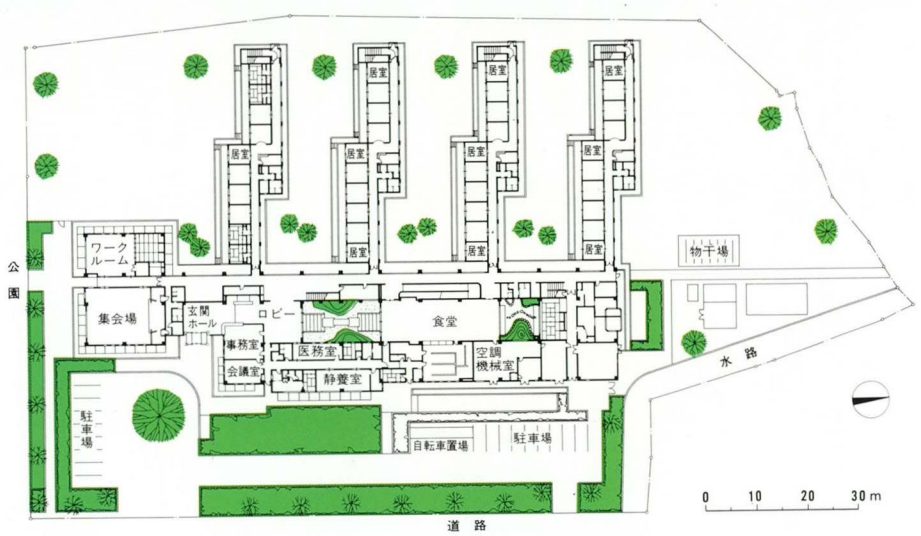
ＬＬ教室

姫路市立養護老人ホーム

設　計　安井建築設計事務所
監　理　姫路市
施　工　鹿島建設













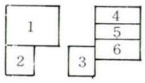
所 在 地　姫路市船津町三又字高町
敷地面積　14,286.90㎡
建築面積　3,637.59㎡
延床面積　5,003.11㎡
構造面積　RC、2F
工　　期　昭和59年3月～昭和60年3月
最 寄 駅　国鉄姫路駅

当施設は、老人福祉の社会的ニーズの増大と、福祉思想の質的転換に対応するため、“憩の村”のメイン施設として計画されたものである。
敷地は、姫路市の北側、市川沿いの田園地帯にあり、恵まれた自然景観の中に溶け込みうる外観として勾配屋根を採用し、施設構成は単純明快に自然光と通風を最大限に活用する計画とした。

□敷地利用計画・平面計画のポイント

○敷地東側（進入路側）を管理および、サービス部門とした。
○自然光と通風が確保できる敷地西側（市川東岸沿い）を居住部門とした。
○地域関連施設の展開される敷地南側に、社会的交流の場としての集会室・ワークルームとした。
○明るく解放的な中央廊下を設け、全体の動線軸とし、娯楽・談話のスペースとして活用した。
○生活の中心として食堂を中央に配置し、多目的な利用の可能性をもたせた。
○居住棟は、養護の利便と生活の快適さをともに満足させるものとした。

（安井建築設計事務所）



1. 西よりみる
2. 航空写真
3. 光庭より談話室をみる
4. 南東よりみる
5. 中庭
6. 食堂

撮影　島　修一　他



電　　気	ミナト電機工業	姫路市飾磨区宮町16－2　TEL0792－35－8444
空　　調	水　交　社	姫路市楠町76　TEL0792－25－2465
防火シャッター	文化シャッター姫路営業所	姫路市四郷町本郷字金市51－1　TEL0792－53－2671
金属製建具	吉田商事大阪支店	大阪市東区両替町1－2　TEL06－945－0568
鋼製建具	兵　庫　機　工	姫路市飾東町豊国字仲田790　TEL0792－53－2225
内　　装	大興物産大阪支店	大阪市東区谷町5－27　TEL06－762－5661
ステンレスサッシ	田島順三製作所	大阪市東区平野町2－10　TEL06－203－4151
木　工　事	板　　文	姫路市綿町67　TEL0792－82－0031
木製建具	藤井建具製作所	神戸市須磨区須磨浦通2－3－26　TEL078－732－6262
浄　化　槽	日　管　工　業	姫路市北今宿2－1－35　TEL0792－96－3345

リバーサイドさぎす

企画・基本設計　住宅・都市整備公団関西支社



1 3
2 4

1.3. 団地内広場の景観、人のメインアプローチとなっている。
2. 団地の玄関である２層吹抜ピロティの陶壁。
4. 団地南側奥からの景観。

撮影　ＳＳ大阪(稲住泰広)



配置図





リバーサイドさぎすは、大阪駅から約1.5㎞という都心立地の利便性の高い地域にあるが、この地域は工業地域で、各種の工場が多く見られる他、敷地北東部には阪神高速道路、国鉄東海道線があり、住宅建設にあたり環境に対する十分な配慮を必要とするところである。しかしながら近頃ではマンションの建設もさかんで、除々にではあるが住宅地域化されている。今回の公団住宅の建設などにより、いっそう活性化が図られ、環境の変革につながっていくものと思われる。

設計は、地域の複雑な条件を踏まえながら〝安くて住みよいちょっと洒落れた都市住宅の創造〟をテーマとし、主には次の項目に配慮してとりくんでいる。簡単にいえば、現在における集合住宅の都市形成上のデザインの追求と、新しいスタイルの高密度都市型集合住宅の実現をめざしたもので、都市整備が重視されつつある公団の既成市街地での今後の住宅建設の手法を模索したものである。

1.中高層高密度の中での良好な環境づくり

近年の高密度団地では駐車場率を上げる必要から、広場や植栽などの屋外空間がいじめられ環境の低下につながっているが、ここでは敷地外周にループ道路と主な駐車場を設け、車のサービスを行っている。歩行者動線は、団地中央部にとり、車の進入のない安心した空間を広場と通路・植栽・遊び場などを重複して設けることにより確保している。その歩行者動線は2層吹抜けのピロティより広場へとアプローチしているが、床のテクスチャーはレンガ敷としピロティーと広場には横幅10ｍほどの大陶壁を、またメインの広場には、沈床広場とくすのきやけやきの大樹を配することにより、環境づくりを行ない、各種機能の重ね合せによる市街地の街並形成手法を提案している。

2.共通のモチーフを基調とした特色あるデザイン

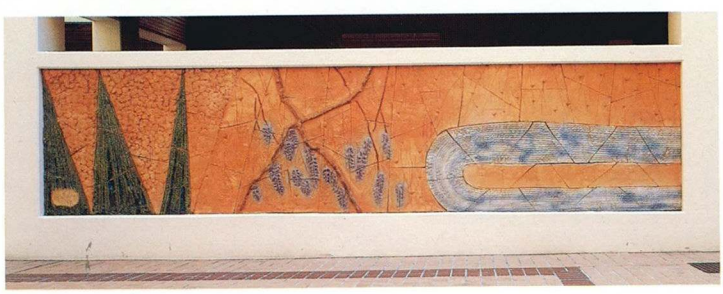
各住棟の外観はレンガタイル調で、縦・横の白のアクセントラインがくっきりと映えたシンプルなデザインで構成しており、広場と緑と建物が融和した、需要者のニーズにマッチした特色のある街並を考慮したデザインとしている。

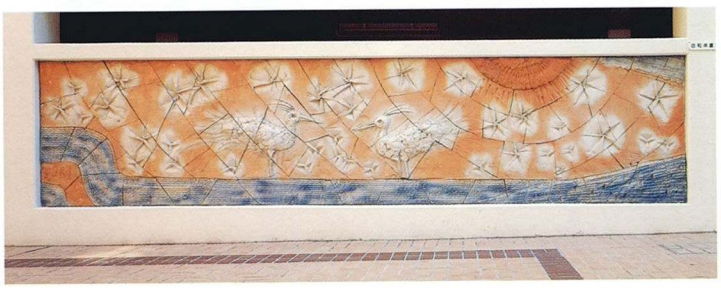
3.周りの騒音対策を考慮した配置および住棟設計

敷地北東部に高速道路・鉄道が隣接しており、かなりの騒音源となっている。これらの騒音に対しては、高層住棟を遮音棟として配置することにより団地内の居住環境を確保している。この高層住棟は1ＤＫで計画、主開口面を団地内側に設け、各住棟には防音サッシ、空調換気扇など設置し、遮音性能の確保を図っている。

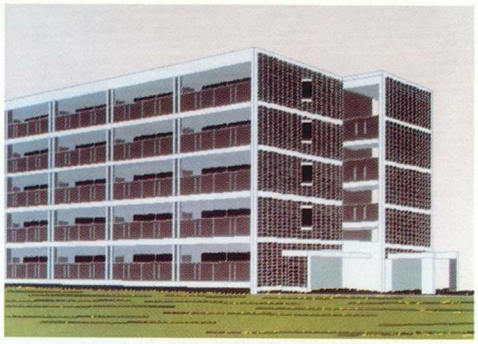
4.30歳代前半の入居者層が半数をしめる市街地住宅特有のニーズに対応

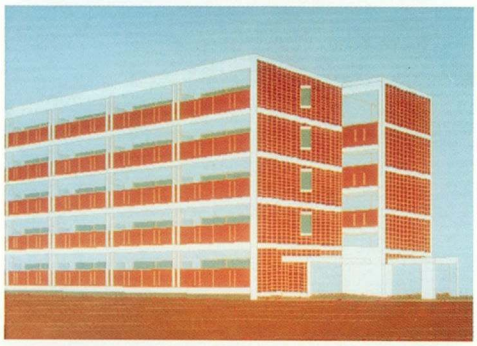
街並形成上のデザインは先に示した通りであるが、住戸計画についても都心型の巾広い複雑な需要者に応えるため1ＤＫを中心に単身就労者向きの家具付ワンルーム住宅（収納式ベッド・設置洋服ダンス・折りたたみテーブル・浴室乾燥機などが設置）。手持のボックス家具などで自由に仕切ることにより各種の住まい方に応じる



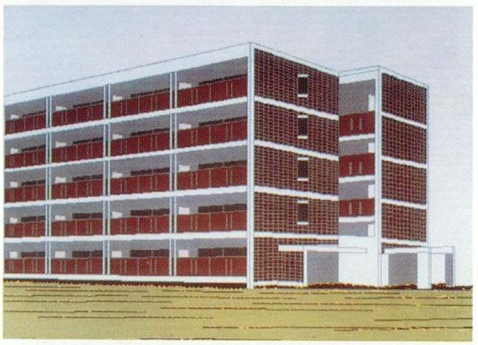


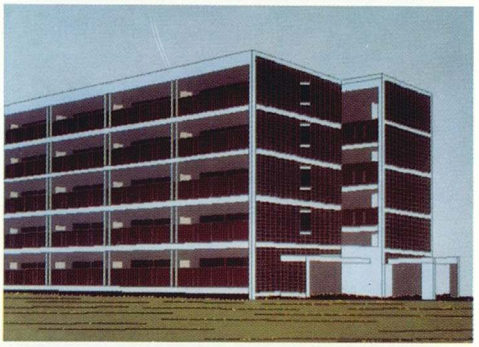










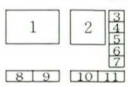


ことができるフリールーム、ファミリータイプの２ＤＫ・３ＤＫとさまざまな住宅造りを行っている。また、１ＤＫ規模の住宅は将来２戸でもって３ＬＤＫにできるしかけも施しており、将来のニーズにも対応できるようにしている。

5.より低廉な家賃の住みよい住宅建設

高地価の都市部において、需要者のニーズに合ったより低廉な家賃の住みよい住宅を供給することは必然である。そのためにも、計画・設計・施工は合理的でシンプルに行なっている。安かろう悪かろうではなく、文化的で、郷愁心を感じさせる住みよい住宅をめざしている。

（佐々木正次・川村真次・角方利幸）



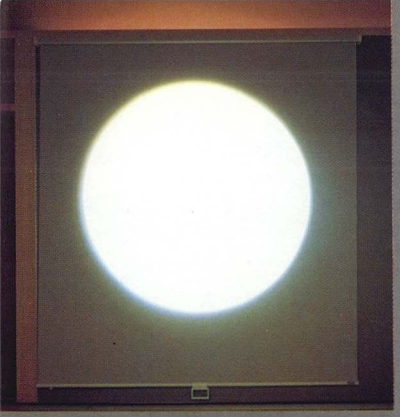
1．　団地玄関であるピロティからの景観
2．　家具付ワンルーム住宅
3～7．カラーシュミレーションによる色彩計画
8～11．アプローチに設けられた陶壁、さぎすの昔の姿を題材にしている

外装仕上	外壁：吹付タイル、妻壁：50二丁掛タイル、バルコニー手摺：ＧＲＣにウレタン塗装
外構	ピロティ広場：耐圧レンガ敷、駐車場：インターロッキング敷

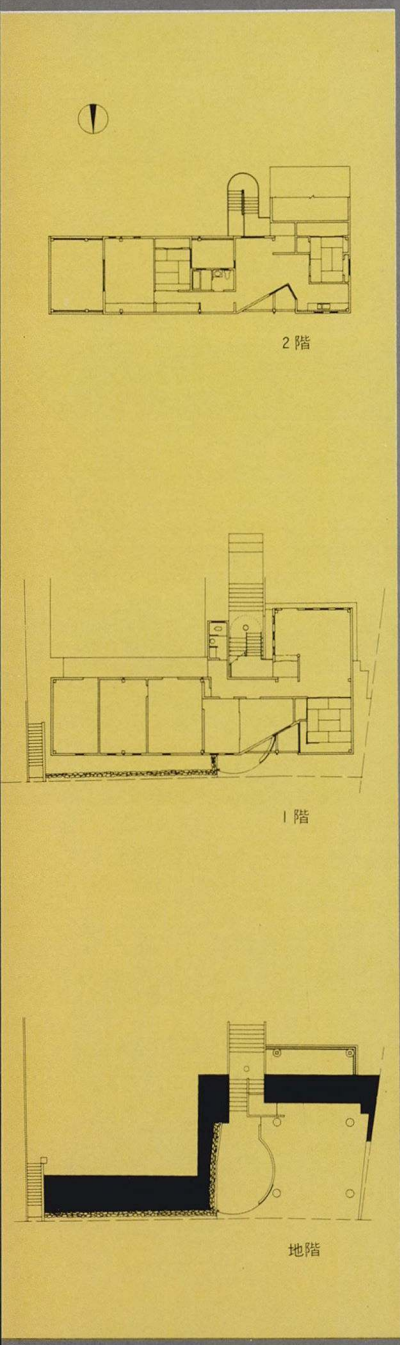
所在地	大阪市福島区鷺洲６丁目29番
建築主	住宅都市整備公団関西支社
企画・基本設計	住宅都市整備公団関西支社都市再開発部市街地設計課（建築）：佐々木正次、川村真次、小堀隆治、角方利幸（電気）：萩野冨三男、足立守、（衛生）：稲田智博、（土木）：金沢保文、原田悟、（造園）：横山義正、再開発企画課（計画）：肝月雅昭、森下和之、辻和雄
実施設計	ジャス（配置）、九段建築研究所（建物）、飛島建設、鴻池組、新大阪設備企画（電気・衛生）、全土木設計監理事務所（土木）、ランテック計画事務所（造園）
構造	ＳＲＣ、11Ｆ、ＷＲＣ、５Ｆ
施工期間	昭和58年５月～昭和59年11月
敷地面積	14,280.00㎡
建築面積	4,873.75㎡
建ペイ率	34.12％
延床面積	28,112.48㎡
容積率	196.86％
総戸数	５棟、542戸
駐車台数	174台
用途地域	工業地域、一部準工業地域（建ペイ率60％、容積率200％）、準防火地域







Gallery



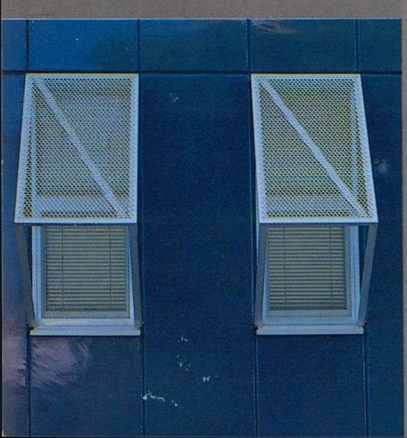




春になると黒い壁の前にコブシの花が咲く。



アプローチ



京阪墨染駅から東に向かう急勾配の道を延々と登ってゆくと、緑に囲まれた住宅の合間に、この建物は次第に姿をあらわす。ほとんど黒色に近いグレーにウレタン塗装されたその外観は、何か不可思議な力に導かれてこの深草の山中に漂着した黒い方舟のようにも見える。

これは、軸物や障屏の表装および国宝級のものを含めた美術品の修復を行う工房と、そのオーナー一家のための住宅を複合した建物である。構造は鉄骨ＡＬＣ造２階建、敷地と道路とのレベル差を利用して一部ピロティが設けられ、駐車スペースになっている。１階には仕事室・研究室・資料室などの工房部分と、和風と洋風の二つの応接室があり、２階はすべて家族の居住に当てられている。

道路側開口部に半ば突き出した形で固定されたパンチングメタルの雨戸は、質感を消された外壁の硬く冷たい印象を強めるのに一役買っている。三角形に切り込まれた吹き抜け部分の軒裏の朱色が鮮かに目を奪う。浅春、敷地北西隅に植えられたこぶしが無数の白い花を開く時、この建物はまた新しい表情を見せるに違いない。

１階の応接室において、畳、障子、床、鴨居といった和室を構成する要素は、あたかも演劇の舞台装置のように





環境への異質物の投入。そして共存。



カーヴした門扉、柱、アルミのしとみ、赤色。



シェルター内部への木組み装置の投入。そして共存。

矢口浩悦庵美術修復工房

所在地　京都市伏見区深草大亀谷
主要用途　美術品修復アトリエ＋住宅
設計
建築　高口恭行＋造家研究室
構造・設備　近畿建築構造研究所
監理　造家研究室
施工
建築　来光工務店
設備　奥村工業
電気　中島電工株式会社
面積
敷地面積　453.18㎡
建築面積　190.62㎡
延床面積　349.91㎡
地階　52.53㎡
1階　172.72㎡
2階　124.66㎡
構造規模　鉄骨ＡＬＣ、Ｂ１－２Ｆ
外装仕上
外壁　ＡＬＣ版〈100〉
パテしごきの上ウレタン塗装
屋根　木毛セメント版〈25〉
耐水合板〈15〉
下地アスファルトルーフィング 15kg
クボタコロニアル葺

高口恭行氏略歴
昭和15年6月13日京都市生まれ
京都大学修士課程修了
現在、奈良女子大学助教授、京都大学講師、造家研究室主宰、一心寺住職

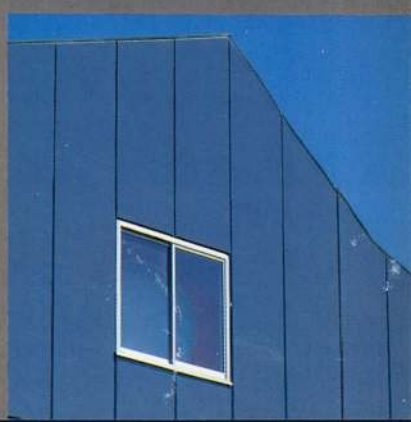
造家研究室
大阪市天王寺区逢坂2－5－11
Tel 06－773－4905

企画編集　作品作風小委員会　北村委員
撮影　喜多章

記号化されたものとして設置されている。こうしたいわば様式の装置化は、設計者である高口恭行氏の一連の作品（一心寺単信庵、妙香院等）に見ることができる。大正以降の日本の建築、特に住宅においては、その機能上、和風と洋風を完全に切り離して扱うことが困難であったために、意匠的にも両者があいまいな状態で混在したまま現在に至っている。建築デザインにおける無秩序な様式の混乱を打開し、共存をはかるためのひとつの方法として、こうした様式の装置化が有効なものであるというひとつの考え方であろう。

外壁のグレーが光を反射するハードなものであるのと対照的に、応接室の壁面には光を吸収して仄かに輝く柔らかな灰色が選ばれている。ジュラクサテン吹付による仕上げは本じゅらく塗の壁面と同様に、微細な粒子の翳りに色彩の深みを感じることができる。
硬く冷たい外殻に装置化された様式と「かげの色」により演出された空間を内包したこの建物は、自らそうであることを選んだひとりのノアのための方舟といえるのかもしれない。

荒川朱美（編集委員）



■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1891 ペンション・アルビレオ

設　計：ルックファイブ
施　工：谷垣建設
a．兵庫県城崎郡日高町山田147-1
b．5,068.04㎡
c．　481.90㎡
d．1,118.38㎡
e．S(一部RC)、B1、4F、P1
f．昭和59年10月～昭和60年5月
g．国鉄播但線江原駅



1892 サローネ・デラ・ピアンタ

設　計：中島龍彦建築事務所
施　工：かねわ工務店
a．京都市左京区上高野
b．628㎡
c．212㎡
d．212㎡
e．RC(一部木造)、平屋建
f．昭和58年12月～昭和59年4月
g．京都市バス同志社高校前



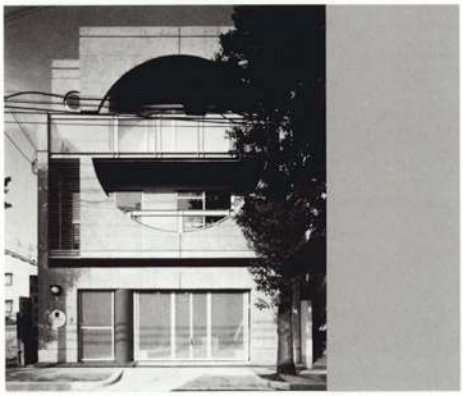
1893 西淀川生活と健康を守る会会館

設　計：合同設計
施　工：掛谷工務店
a．大阪市西淀川区姫島2
b．123.69㎡
c．　71.73㎡
d．213.12㎡
e．S、B1、2F
f．昭和59年9月～昭和59年12月
g．阪神姫島駅



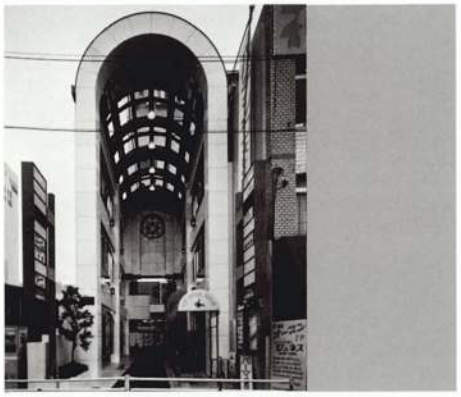
1894 田中ハイツ

設　計：北村陸夫＋ZOOM計画工房
施　工：東昌住建
a．大阪市東淀川区上新庄町3-1
b．　439.92㎡
c．　149.27㎡
d．1,056.92㎡
e．SRC、8F
f．昭和59年9月～昭和60年4月
g．阪急上新庄駅



1895 原邸

設　計：北村陸夫＋ZOOM計画工房
施　工：東昌住建
a．大阪市東淀川区豊里6-26-10
b．152.41㎡
c．　91.00㎡
d．228.94㎡
e．RC、3F
f．昭和60年1月～昭和60年7月
g．阪急上新庄駅



1896 福本ビル

設　計：ユソニアン1級建築設計事務所
施　工：湯浅商事＋錢高組大阪支店
a．高槻市北園町15-15
b．　605.74㎡
c．　541.52㎡
d．1,920.27㎡
e．S、5F
f．昭和58年8月～昭和59年3月
g．阪急高槻駅



1897 若松台コーポラス

設　計：合同設計
施　工：西田工業
a．堺市若松台1-3-3
b．1,838.35㎡
c．　868.6 ㎡
d．3,324.99㎡
e．RC、5F
f．昭和58年10月～昭和59年11月
g．泉北高速鉄道泉ケ丘駅



1898 精神薄弱者通所授産施設ひびき作業所

設　計：内山進設計室＋合同設計
施　工：阪神土木工業
a．東大阪市中小阪5-249-2
b．734.36㎡
c．380.13㎡
d．522.89㎡
e．RC、2F
f．昭和58年10月～昭和59年3月
g．近鉄八戸の里駅



1899 センチュリーM

設　計：ユソニアン1級建築設計事務所
施　工：浅川組大阪支店
a．守口市大日町2-49-1、50、59-3
b．1,072.59㎡
c．　540.93㎡
d．2,124.75㎡
e．RC、5F
f．昭和59年2月～昭和59年10月
g．地下鉄大日駅

日本建築協会法規委員会
編集委員会法令分科会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

209

京都市の「暮らしの指針」－住環境の変容に臨んで－

京都は、平安建都以来1200年の歴史的重層性のある市街地を形成しているまちである。

その中心部は、他の大都市と比較して人口密度が高く、また、非戦災都市であることから、木造建築物が未だ多く存在している。

近年、住宅の老朽化や住環境の変容とともに、これら木造建築物の建て替えが急テンポで進行し、また、共同住宅をはじめとするビル化の波も押し寄せてきており、ワンルームマンションも市内北部を中心として多数建設されてきている。これは、京都が全国各地から多数の学生の集まる「学生のまち」であることもその理由の一つであると考えられる。

京都市内における共同住宅の建築状況

	共同住宅	ワンルームマンション（左のうち）
57年度	9,246戸	2,766戸
58年度	11,835	4,152

共同住宅については、しばしば「日が当たらなくなった」「テレビが見えなくなった」等の問題が発生していることから、昭和54年11月から「京都市中高層建築物に関する指導要綱」を実施し、これによって問題解決を図ってきたところであるが、近年、「自転車・バイクが放置されている」「ゴミが路上に放置されている」「夜間、入居者の騒音が近隣に迷惑をかける」などの問題が増加してきた。これは、主としてワンルームマンションに関連して発生し、その建築をめぐって建築主と近隣住民との間の紛争が絶えない状況となっている。

これらの問題は、建築物の大きさ等、建築物そのものから生じる物理的な問題というより、主として、そこに居住する人が守らなければならない、市民生活を営むうえでの相互の住まい方、いわばルールの問題であり、このルールを順守することによってその多くは未然に防止できるものと考えられる。

「京都市共同住宅建築に関する指導指針」

京都市では、住民間により良い相隣関係を築くとともに、良好な住環境を確保することを目的として、「京都市共同住宅建築に関する指導指針」を定め、昭和60年４月１日から実施した。

この「指導指針」は、建築主が共同住宅の建築を計画するに当たって、建築主に周辺の住環境に対する配慮を求めるものであり、具体的には、建築計画および管理について、必要な理解と協力を求めるものである。

「指導指針」の概要は、つぎの通りである。

1. 適用建築物
　民間の共同住宅で、その階数が３以上かつ住戸の戸数が15戸以上のもの。
2. 建築計画に関する事項
　(1) 管理人事務室を設けること。
　(2) ゴミ集積場を敷地内に設けること。
　(3) 鉄製階段等の防音措置を講ずること。
　(4) 別に定める規模の自転車等の駐車場を敷地内に設けること。
　(5) 別に定める規模の外来者用駐車場を設けること。
　(6) 近隣住民のプライバシー保護について留意すること。
　(7) 通行の安全を確保するため、上階からの落下物の防止に留意すること。
3. 管理に関する事項
　(1) 建築主は管理人をおいて近隣住民からの苦情等に対し、すみやかな対応ができるようにするものとする。
　(2) 建築主は、玄関入口近くに管理人の氏名、連絡先及び管理人事務室のある階等を明記した表示板を設置するものとする。
　(3) 建築主は、次に掲げる事項を含めた管理規約を作成し、入居者に順守させるものとする。
　ア．近隣への不快行為または迷惑を及ぼす行為を行わないこと。
　イ．ゴミは、指定日に指定の場所に搬出すること。
　ウ．周辺道路等へ自転車および自動車を駐車し、近隣に迷惑をかけないこと。
　エ．区役所に住所変更の手続を行い、地域活動に参加すること。
4. 事前協議
　建築主は、住戸の床面積が20平方メートル以下のもので、かつその戸数が15以上のものにあっては、建築計画に関する事項及び管理に関する事項について、法令等に定める申請等を行う前にあらかじめ市長と協議するものとする。

「指導指針」には、別に実施細目を定めている。

この「指導指針」に対しては、市民からは「生活権の侵害ではないか」「プライバシーへの干渉ではないか」等の声もあるが、京都市としては、建築主の理解と協力を得て、この「指導指針」の精神を生かしていきたいと考えている。

住環境の変容に応じた住宅政策の推進を

はじめに述べたとおり、とくに都心部においては、住宅の老朽化や住環境の変容とともに、人口減少、コミュニティの弱体化が進んでいる。

この点について、昭和55年、京都市住宅審議会から、「都心部での魅力ある居住地の形成と、都心定住の促進」「市民の創意と工夫による京都らしい新たな都市住宅の創造」を住宅政策の大きな柱とするべきであるとの提言を受け、その方針を具体化するために、昭和58年「新しい都市住宅研究会」を設置し、昭和59年３月には研究会から研究成果の報告を受けた。

また、昭和60年３月には、『「京都市地域住宅計画（ＨＯＰＥ計画）」指針』を策定し、主として「まち通り」（大路以外の通り）でのハウジング・マナーを提案するなど、愛着と誇りの持てる京都をつくるために、市民の創意工夫、協力を得て、調和のとれた住宅政策の推進をめざしているところである。

（京都市住宅局建築環境課主幹　木村喬而）

用語解説

防火区画の壁・床に設ける エキスパンション・ジョイント 部分の取り扱い

エキスパンション・ジョイントを防火区画の壁・床に設けることは、設計上可能であれば避けるべきであるが、設ける場合、エキスパンション・ジョイントとしての機能を確保しつつ、防火区画の性能を損なわない措置（耐火性・遮煙性等）を下記のとおり講ずること。

(1) 両面を1.5㎜以上の鉄板（ステンレスを含む）で覆い、内部にロックウール等の不燃材料を充填すること。

(2) 上記以外の場合で、耐火時間に応じた耐火性能があると認められる製品については、日本建築センターの防災性能評定を活用すること。



日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

あなたの「声」をお待ちしています。

○紹介建材、掲載内容に対するあなたのご意見・要望をお寄せ下さい。
○(社)日本建築協会建材委員会　Tel 06－348－0635
〒530 大阪市北区梅田１－１－３－2100
大阪駅前第３ビル21階

《新建材紹介　№124》

熱を通さず、光を通す
透光性断熱板『ルームラック』

ダウ化工株式会社

本　　社　東京都港区虎ノ門１－６－12住友虎ノ門ビル　Tel03－502－5521～7
大阪事務所　大阪市北区太融寺町3-24日本生命梅田第二ビル　Tel06-315-9541～4
札幌・名古屋・福岡・鹿沼(栃木)ほか



近年、住宅に対する断熱は、かなり普及してきました。壁・床・天井あるいは屋根に各種の断熱材が使用されています。ところが、開口部には特に断熱材は使用されておらず、寒冷地にて、二重サッシ・ペアガラスが採用されている程度です。また、カーテン・ブラインドでは、和室にそぐわない欠点があります。むろん雨戸では、透光性がまったくありません。

今回紹介する「ルームラック」は、住まいの断熱をトータルに考えるダウ化工が、住宅開口部用に研究開発した**熱を通さず、光を通す**画期的な新素材です。以下、ルームラックと、ルームラックを使用した断熱障子、断熱内戸について紹介します。

■特徴

1．断熱性に優れている

熱伝導率は、0.027kcal/mh℃で、図Ⅰのように、ガラス窓の内側にルームラック６㎜を取りつければ、窓を通る熱量は約37%に減少します。冬は、窓からの冷気及びそれに伴う冷気対流を防ぎ、暖かく快適な室内環境をつくります。夏には、西日等の強烈な日射熱の侵入を遮り、冷房効果を高めます。

2．和紙と同等の透光性がある。

透光率は約26%（ルームラック６㎜）で、図Ⅱのように、和紙障子と比較しても暗くなることはありません。

3．耐候性に優れてる

長期間、日光に曝しても、黄ばみ等変色はありません。屋外曝露・サンシャインウェザーメーター・ＵＳＡアリゾナテストの結果、10年以上、品質に変わりはありません。

4．破れにくく、汚れにくい

ルームラック10㎜は、2.5㎜の合板と同程度の曲げ剛性です。面倒な張替えも不要です。

5．水洗いができる

吸水はしません。ほこりやタバコのヤニなどが付着した場合、水洗いができますから簡単に清掃することができます。

6．日焼けを防止

光は透しますが、日焼けの原因となる紫外線はカットしますので、畳・カーペット・家具を日焼けから守ります。

7．軽量

発泡体ですので、非常に軽量です。６㎜×910㎜×1,820㎜の重さは、約550ｇです。ガラスなどと比べると、障子の開け閉めが楽にできます。

8．加工が簡単

カッターナイフで簡単に切断できます。

9．有害ガスを出さない

燃える素材ですが、燃えた場合に有害ガスの発生はありません。

■製品規格

６㎜×910㎜×1,820㎜	10枚/ケース	3,950円/枚
６㎜×910㎜×1,370㎜	10枚/ケース	3,500円/枚
10㎜×910㎜×1,820㎜	20枚/ケース	4,350円/枚
10㎜×910㎜×1,370㎜	20枚/ケース	3,900円/枚

発売以来４年の実績があります。寒冷地と特に暑い地域で、冬の断熱・夏の西日除けに使われています。温暖地にては、うすい製品の要望も高く、近日中に４㎜厚の製品化がされる予定です。

■使用方法

1．和室に、シックな断熱障子（木製障子・アルミ製障子）として。内障子としての使用方法が効果を発揮します。
2．洋室・風呂場の断熱内戸として。
3．その他、サンルーム・トップライトの日除け材料として。

■加工方法

ガラス障子と同様に、縦框、上框、下框の溝へルームラックをはめ込みます。姿図を参照(図Ⅲ)。

ルームラックと組子の固定方法には、乾式工法と湿式工法があります。

①乾式工法
　ａ．押え桟工法（釘止め・ビス止め）
　ｂ．プラスチック座工法（ビス止め）
②湿式工法
　ａ．接着工法

接着剤は、エマルジョン系の接着剤（木工用接着剤）を使用します。

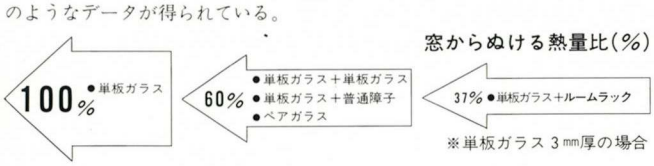
乾式・湿式工法ともに組子との固定は数ヵ所点づけするだけで十分です。

以上のように、**熱を通さず、光を透す**画期的な新素材「ルームラック」は、これまで避けられなかった開口部からの熱ロスを防ぎ、省エネルギー効果を高め、より快適な居住環境を実現します。

建材委員／西川純一（昭和設計）

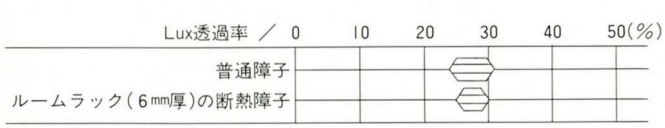
図Ⅰ　断熱性

ガラス窓の内側に、ルームラック６㎜の断熱障子を取りつけた場合、下記のようなデータが得られている。

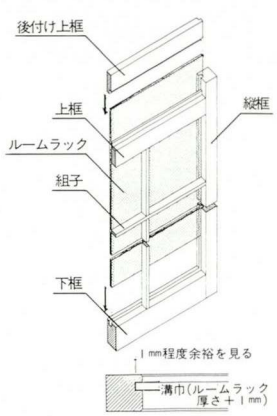


図Ⅱ　透光率

ルームラックの透光率は、従来の障子とほとんど変わりない。閉めきっていても、今までとイメージを変えることなく快適に過ごすことができる。



図Ⅲ　姿図



●レポート

国際会議「都市と水路空間」から

―第2回東アジア建築都市計画国際会議―

加藤晃規



さる9月2日・3日の両日、大阪大学において第2回東アジア建築都市計画国際会議が開かれ、テーマ「都市と水路空間」のもとに興味深い議論が展開された。会議の開催は、ＭＩＴの建築学部に設けられている同名のプログラム運営組織と、大阪大学環境工学科、それに世界都市研究会が共催し、大阪府、大阪市、大阪21世紀協会が後援、財界7社の協賛を得ての実現であった。

東アジア、つまり中国、韓国、日本を中心に据え、これにアメリカを加えた4カ国で、各国における文化的・物理的伝統とその近代的変容、そして将来の変化にかかわる議論を比較論的にやろう、というのが会議の目的である。第1回は昨年4月にＭＩＴで開かれており、そのテーマは「ストリートライフ」であった。

今回、東アジア地域での最初の開催が実現し、開催地が大阪に決定したときから、水の都・大阪にふさわしいテーマが模索されたのである。

*

会議の基調講演では、上田篤（大阪大学）氏が新しい水路の意味を指摘し、水路の空間的利用、つまり、カラッポで何もない水路こそ、高密度な都市における人間回復の場所であり、情報源ですらある、という趣旨の講演を行い、議論の骨組みを示された。これに続いて3つのセッションにしたがってパネル発言が進められた。それらは、「川が見えるか」、「川から何が見えるか」、「川に何を見るべきか」という、水路と都市との相互関係を修辞的に問う設問を設け、それらにパネリストが答えるという形式で行われた。

「川が見えるか」では、まず渡部一二（多摩美術大学）氏により歴史的な水網都市の事例が紹介され、それをふまえて、水の音に耳を傾けることの重要性が提案された。

重村力（神戸大学）氏からは水系によりまとまりをもつ沖縄の集落等が紹介され、隅田川・水上バスネットワークづくりでのデザイン事例も報告された。

中国蘇州からこられた兪縄方（ユー・シェン・ファン・蘇州市建設局）氏からは、蘇州が運河の繁栄とともに町の発展をとげてきたこと、そして更なる発展を期すために埋めたてられた運河を復元する意欲に燃えていること、あわせて蘇州の歴史的都市の全貌が紹介された。

康炳基（カン・ピョン・キー・漢陽大学校）氏からは、風水説が韓国の生活環境形成のなかで歴史的役割を果たしてきたことが紹介され、ソウル市の形成史と漢江との関係が分析・報告された。

Ｒ・キャンベル（ボストン・グローブ）氏からは、ボストンのフォートポイント運河を取りあげて、その整備がモノカルチャー的であることの批判的紹介が行われた。

これに続いて、久隆浩（大阪大学院生）による大阪の水辺調査と、シェリー・ウェンデルケン(ＭＩＴ院生）によるチャールズ川調査の報告がなされ、日米の実態に大きな差異があることを印象づけられた。

第二セッションの「川から何が見えるか」では、Ｆ・ショーエ（パリ大学第7大学）女史からセーヌ川の事例、および地域的広がりで展開する運河沿いの田園的風景が紹介され、それらの詩的な景観に参加者一同が感嘆させられた。

罗小未（ラ・シャー・ウェイ・同済大学）女史からは、上海の黄浦江から見える町の景観と、そこに埋め込まれた都市形成の歴史の紹介があり、水辺に歴史公園を拡張してゆく将来計画が報告された。

康泓淋（カン・ホンビン・大韓住宅公社・住宅研究所）氏は、都市の景観イメージの問題をとりあげ、漢江を「ノン・プレイス（Non　Place)」と位置づけ、そこからもたらされる水辺の変遷を報告された。

加藤晃規（大阪大学）は、日本において都市の水辺が有していた場所の意味を、西欧との比較のなかで性格づけ、大阪の江戸期以降の水路景観の変遷を紹介しながら、水の都・大阪の再生戦略を提案した。

リチャード・ウィルキンソン（ノースカロライナ州立大学）氏は、造園家が水および水路空間を扱う場合の方法論の問題をとりあげ、いかにして大スケールの問題と小スケールの問題を両立・調整するか、多数のスライドの紹介を通してそれを示された。

さて「川に何を見るべきか」のセッションでは、樋口忠彦（新潟大学）氏から、日本における川の年中行事が報告され、それらに見られる女性との関わり、季節性などが指摘され、そうした伝統行事を受け継いでゆくなかに、将来の水路空間の意味を示唆された。

呉良鏞（ウー・リャン・ヤン・清華大学）氏は、中国の都市水路の伝統的な機能および意味を整理報告され、水網都市の再開発を、単なる都市美の問題として把えるのではなく、新しい経済、社会条件のもとで、歴史的継承を図る都市デザインの実例として意義づけうることを提案された。

岩崎駿介（筑波大学）氏からは、身近な川をきれいにすることが他の川の汚染につながっていることの指摘があり、地球的規模で水路空間の課題を扱う認識力の重要性が指摘された。

ウェイミン・ルー（ミネソタ州セントポール再開発公社）氏からは、ミネアポリス市のミシシッピー川の再開発事例が報告され、そこでは再開発にかかわるさまざまなレベルの問題が調整され、まとめあげられたことが紹介され、結果的に、川が、都市のまとまりを象徴する役割を果たしうることを報告された。

以上の3セッションをふまえて、3日の午後から総括セッションが開かれ、鈴木信宏（東京理科大学）氏とローリー・オリーン(ハーバード大学)氏の両氏による総括講演が行われた。

鈴木氏からは、各セッションのなかで取り上げられなかった水そのものの諸様相について補充報告がなされ、都市のなかでの水が、人々を結びつける「ユニティ」と、空間様相上の「ダイヴァーシティ（多様性)」をつくり上げる要素として意義づけられることを結論された。

オリーン氏は、水路空間に対して将来何をなすべきかについての試案を示され、①親しみやすさをつくること、②水路空間につくられるアメニティの共有、分配の新しい原則の確立、③精神的に満たされる場所としてデザインすること、の3点が結論づけられた。

このあと、パネリスト諸氏18名による討論がもたれたが、そこでは各国の社会、経済条件の差が微妙に反映され、いわゆる異文化間の問題がテーマになった。

こうした国際会議においては、テーマが一国の文化・社会・経済条件と密接に関わるほど、その議論の内容のなかで共有できない部分を相互に確認してしまう傾向にある。今回は、きわめて友好ムードのうちに差異の相互理解がなされたが、それも、「都市と水路空間」というテーマの話題性と、各セッションごとに4カ国の代表選手が登場してパネル発言をするという、新しい会議進行の故かと思われた。

*

今回の会議には、金寿根（スー・ジェム・キン国民造形大学校）氏の参加も予定されていたが、氏が過労から入院されたために出席を願うことがかなわなかったことは残念であった。

この会議の成果をもとに、9月5日には、科学技術センターで同テーマの公開シンポジュウム(主催・世界都市研究会)が開かれ、300余名の参加者が集まり、大阪の将来について活発な議論が繰り返された。こうした会議を契機に水の都・大阪の飛躍がありうることを期待する次第である。

（大阪大学工学部環境工学科助手・工博・建築家）

●第2回東アジア建築都市計画国際会議・報告資料集
（当日追加資料を含む）
日本語版（Ｂ5判 119頁）1500円
英 語 版（Ｂ5判 157頁） 1500円
申込先：送料を添えて下記へ（残部少々）
〒565 吹田市山田丘2の1
大阪大学工学部環境工学科上田研究室内、第2回東アジア建築都市計画国際会議事務局
Tel 06－877－5112㊟5269・5151

読者の頁

あなたの「声」をお寄せください

編集・投稿欄小委員会では、現在、「若い会員の声」を募っています。内容はどんなものでもけっこうです。締切は10月15日まで。みなさまからの投稿をお待ちしています。

日本の建築は何処へ行くのか

佐藤重夫（広島大学名誉教授・広島工業大学教授）

古くは羊羹、近世ではカステラと、我々は東西から多くを学び消化して日本のものを作ってきた。これも今に始まったのではないが、ポストモダニズムと称して、盛んである。国際化の中で民族性、地域性、個性など大切であるが、商業主義や自己主義がからむことも多い。それらは事務所、商店から住宅にまで及んで、形やイメージに捕われたものが多く、ロマンとか、人間性とか環境作りなどといっても、その程度のものが眼についていやである。外国は別として、日本に建つ建物にはなんとか日本らしさを求めたいのは私一人ではないと思う。

しかし、その日本らしさとは、伝統とか、いわゆる形やディテールのことではなくて、それらも含めての合理非合理の中にある心の問題であると思う。私はその日本らしさとは一歩控えた、落ち付いた、ちょっとやそっとでは見えない心の中の問題であると思っている。それがあると日本のものになるのではないか。それが心にひびく建物になってゆくと思っている。

近来、マスコミはすぐにロマンがあるとか、なんとか言うが、ロマンが文化向上に結ばれないものも多く、フリーという格好よさは浮流であることも多く、風流がそのまますべて文化ともいえぬこともある。要するに私は、海すこし見ゆる木の間かな、の心が思い出され、巧みでもなく、いかに恣意を見えなく消すかということの結果の建築が日本のものになると思っている。絶えず心が通って次々にできた桂は、やはりその心が日本の誇りえるものになったのであり、その心は決して形やディテールのヒントの問題では全くない。このことをよく我々は考えねばならない。歯の浮く形や格好に捕われないで、心のことを思わないと本当の日本らしい建築になりにくいと思う。日本の建築は何処へ行くのかとも案じている。

日本建築と私

浅野　清（愛知工業大学教授）

1920年代の終り頃、私は名古屋で工芸学校の教師をしていました。歴史を辿ってみますと、その頃ヨーロッパでは、グロピュースやコルビュジーが近代建築の方向を確立していた頃であります。しかしやっと私達に分かっていたのはもう少し前の時代のことで、今後の建築はどうあるべきか、全く暗中模索するのみでした。

その時、脳裏にあったことは、学校の最終学年に、奈良・京都を見学して歩いて、日本の古い建築の良さをこの目で見たことでした。これをもっと掘り下げて見たら眼が開けるかも知れないと、それに望みを托する決意をしたのでした。そして縁あって法隆寺国宝保有工事事務所に勤め、解体修理に従事しました。はたして思いにまさる日本建築のすばらしさを知ることができましたが、どの建築も初めに造られたまま残されていないことが分かり、その復元をしない限り、その真の姿は明らかにならないことが判明して、その仕事に打ち込んできました。はじめにそれは避けて通れない道草のように思われましたが、そうしているうちに、少しずつ日本建築の良さが分かってきました。詳しく書く紙面がありませんが、何か体得できた思いがしてきました。

先輩からの一言 2



中村義雄画「大阪府立中之島図書館」

その後大学につとめるようになって、多くの建物を見たりしらべたりするうちに、日本建築の流れが段々はっきりしてきました。しかし何と言っても大きい流れで、内容の豊富なヨーロッパの歴史的な建築を見てきたい思いがつのり、1963年に望みがかなって、半年余りヨーロッパを廻ってきました。もとよりざっと見て歩くだけの旅行ですから、日本の建築を見て歩いたようには理解できませんでしたが、大きい糧となりました。そして今、日本建築の良さを身につけることが、デザインの大切な修練になることを皆さんに、はっきりお伝えすることができるのです。

夕暮に思う

長谷川哲之助（曽根組）

建築は、人間の生活に必要な三大要素の衣、食、住の一つに深くかかわっているため、一般の人々にもいろいろと意見の多いものである。また建物は、その物のために造られるのではなく、何らかの使用目的の性能を確保するために必要な一つの手段として造られるものである。だから設計者は、その用途を満たす要素を、機能面でも、デザイン面でも、しっかりと摑む必要がある。そのためには、建築家たるもの、平素からできるだけ多く、幅広く体験をし、見聞を広めておく必要がある。それがあってこそ、オーナーの考えと専門的な考えとをうまく結び付けられると思う。しかし自己の体験には限度もあり、そこに謙虚さが求められる。考えてみればこの職業は大変なものだと思う。

大変といえば、建築で取り扱う材料は無機、有機取り混ぜて相等な品目である。またそれらは、千差万別の性能を持っており、天然材料の枯渇、技術開発と工業の発達により変化もして来たし、今後も続くと思う。我々は、それらをいろいろの情報手段により知るが、その一つにメーカーのパンフレットがある。今頃は内容のりっぱなものもあるが、ときには聞かれなかったから言わなかったといった面もある。だから眼光紙背に達するためには、やはり専門書により基本的なものをしっかりと身に付けておく必要がある。材料、工法等に疑問を持ったらすぐに本を見よう、うんと身に付くはずである。よく、学校で学んだことは、実社会では役に立たぬと言うのを聞くが、とんでもないことだと思う。実際の現象を真に理解する。そのことに対する現在での人智の限界を見極めて対策を取るのには、やはり基本的な学問が身に付いていないといけない。経験というものは、知識をいかに使うかということを知ることだと思う。

最初の言葉

鬼頭寿郎（元清水建設）

昭和17年、私が建築を目指す学生としての受講ノートの最初に記されたのは—— Architecture とは人間の実生活の容器である。——の簡潔な一句であった。期待と興味を抱いていた私は一寸がっかりしたことを覚えている。後日、上級生にこの印象を話したところ、彼曰く「庵のノートにも記してある。大変な言葉だと思う。建築本質の原点と理解され、賛成している。社会生活の中に〝良い容器〟を俺なりに表現し、展開する方向を見い出そうと思う。長い時間の俺自身の体当たりが必要であろうし、結果として部分的にしか表現できないかも知れない。ただ〝忘れまい〟と思う」と。

大平洋戦争、敗戦と十数年間は極端に言えば、精神的その日暮らしであって、あの「言葉」を反省し追求することもなかった。その後の復興と繁栄、社会生活レベルの向上に対応し、建築界も種々の条件を吸収、融合し、個々の建物だけでなく、面的集合の開発に於いても目を見張るばかりの規模と自由で豊かな表現の作品を発表した。設計側にも施工側にも収獲の多い時代が来た。

私は長く企画設計側を離れ、施工側に従事していた為か、あの「言葉」との接触に、どうも追求

実践側でなく、批判側に坐ったようで心がふらふらしている。最近、目新しいデザインと平面計画ながら、使用勝手を初め実生活との対応諸点に凝問の指摘される作品にお目にかかることがある。建築主の要請か、設計企画者の未来性の先取りの強制か、あるいは思い上がりかは、ちょっと判らないが、その度にあの「言葉」が強く蘇って来る。

先日、関係各位の長年の御努力の結果、兵庫県公館と名称を変え、用途三転、県の顔として在来の場所に再生された旧兵庫県南庁舎を見学した。古い建物でも生きた使い方をしながら保存できることを実証していただいたことに感謝しながらも、建物そのものが山口半六氏の豊かな作品であり、その時代に沿って再生可能な点を多く含んでいたことも見逃せないだろう。この時私は、あの「言葉」が声を出したような気がした。

社会に出る前後の友人・先輩・恩師

光安義光（建築家）

私は戦争の暗雲漂う時代に在学していた。京城高工（韓国）時代に、村野藤吾先生「そごう」に目を奪われたり、谷口吉郎先生「慶応幼稚舎」などに啓発されて日を過ごすうちに、同級生だった恩師葛西重男先生の教導を受けて東工大に進学することになった。芸術家の秘めた情熱を授業の中に惻々として感受したのは忘れられぬ思い出であり充実感を伴った。

その頃、私は抽象絵画に精を出し、それが建築の中心に迫る有効な方法だと思っていた。仲間との議論に弱い私を援護してくれたのは井上充夫君（学会賞受）で、デザイン志望の私を、理論武装で後顧の憂をなくしてくれたのだった。その頃教室前の廊下に張られている課題設計の中で、清家作品が光っていて多くの刺激を得たものだった。

東工大を卒業（昭17）し、ビルマに派遣されたが、輸送船撃沈による漂流、戦斗参加に地獄を見る思いであったが、デザイナー志望の私の夢を潰してはならぬと、自らを励ます試練と心得た。輸送船、塹壕の中で有り合わせの紙片にスケッチや住宅プランを描いては、そこに自己存在を認識しようと努めた。敗戦後の捕虜収容所での壁新聞を担当し、カット画描きで憂を晴らしている時、故人となられた福田朝生氏（私の二ヵ月教官）と廻り会い、ビルマ建築スケッチは良い思い出である。その後、大阪にでてきた私は、日本建築協会で双星社社長、福田さんに再々見したのだった。

私は青春を戦争でつぶしたかに見える。しかし多くの友人、先輩に支えられている。また苦しい試練を身を以て経験してきたドン底に生きる人生感をもっている。これは設計にふれる人間性の問題でもある。良い設計はこれからだと思っている。

建築に参加する意義を考える

高田重清（小堀住研）

建築物は、その時代の文化を表現するものといわれている。

「その時代の文化」を構成するものとして、表現していく手段として、設計の業務があり、その具体化の方法として、施工業務があり、その施工業務を監理する工事監理が行われている。

「建築物の注文主」の意図と要望を専門家としての役割と責任によって応えること。「住宅・ビル・銀行・学校・博物館・病院・娯楽場」etc の建築物の目的に沿った建築行為が行われていく。

「建築物」のもつ本質として、経済性、利便性、耐久性、保全性はもちろん、形態のもつ美観性、その周辺環境との適応性が社会的に評価され、社会性の意識が重要となっている。

私達は建築に参加するものの一人として、その建築物の大小を問わず、またその建築物のもつ目的の如何を問わず、社会的な責任があることは当然として、「この時代の建築文化を担う誇り」に答えられる立場にある。建築参加における「この時代の構築者の一人として、供給する立場で、社会そのものの文化活動に大きな影響力を持っており、つくっていることを静かに考えてみることが重要と思われる。

若い建築技術者に望む

川崎敬三（近畿建設社長）

最近の建築界は、新建材、新工法と目まぐるしい進歩があり、それに対応するため技術者は勉強することが大変多くなりました。高度な性能技術の発展や、コンピューターを駆使する時代においても、建築工事は技術者が手をかけなければ現場は進まない、現場はあくまで手づくりであります。それは初歩的に図面を読み、寸法をチェックし、レベル、通り芯を確かめる等、基本の作業から始まるのであります。現場は、あらゆる新しい機械器具を活用しながら技術者の綿密な手順の実施になるものであります。案外この段階において、寸法関係に駄目押しが足りない。例えばそれが、コンクリートの斫り工事発生となり、工程の進行と共に随所に無駄が起こることになるのであります。普段の日常の仕事において細かな注意を積み重ねての細心の心配り気配りが大切であります。ミスを防止するため、確認し、ダメを押す。念には念をいれる。こまごまとした仕事の面においても手を抜かず細心の注意をもってあたる。こうした心構えがあってこそ重要な場面においても万事手抜かりのない仕事ができるものであります。簡単なことがらをミスすることによって大きな失敗につながってしまう事例がよくあります。必ず念を押すという態度を普段から習慣づける必要があり、この基本的な姿勢、心構えが今の若い技術者には最も大切なことだと思うのであります。

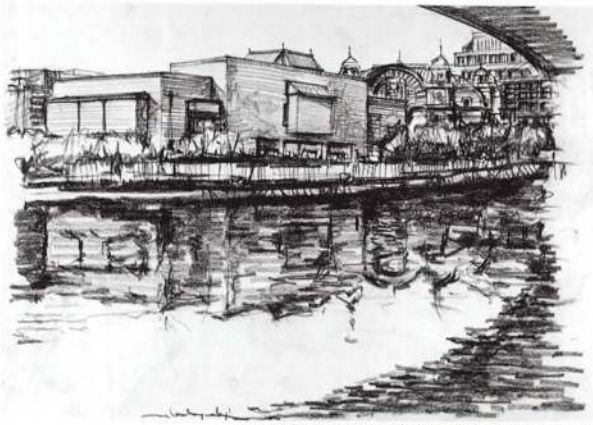
ひとりごと

大井弘治郎（大井建築設計事務所所長）

コンピューターの必要を感じてＤＥＭＯＳの申し込みをした。今迄ＩＢＭの門を叩いたがそれ程の必要性を感じていなかった。40年代に電卓が出初めた頃に日立のＲＩＣＯＭＡＣを28万円で購入した。その頃の初任給の４倍位だったと思う。それがポケットに入る小型となり値段も数千円程度で性能のよいものが多数出ている。数年間の生産技術の進歩に驚かされて、それ以来、初物は高い、もう少し辛抱すれば安く良いものができるんだと強く感じた。コンピューターも同様であろう。事実、各メーカーが新機種で競争している。値段も容易に入手しやすくなった。プログラムも利用範囲も広くなって非常に有効である。

そこで考えさせられることは、今日コンピューターを使えない人は技術者としても一つの資格に欠けているように思われていることだ。聞く所によると専門学校、私立大学等で、教育の過程でコンピューターが大きい部分を占めているそうで、複雑な理論よりもコンピューターの実習で物事を簡単に理解し且つ実用的であるということらしい。学校を出たての人が機械の前に座ると立派な一人前の技術者で通るようになっている。

いうまでもなくコンピューターは、他人の作った計算式やデーターを使うことにより、手数と時間を省略することが目的であって、実物の安全が保証されたわけではない。根本の考え方やデータをチェックする必要がある。コンピューターを使ってやりました、結果はこれこれですと言って持って来られても直ちに承認するわけにはいかない。ちょっと心配になることは、コンピューター技術者の数が増えて来るとそれで用が足りて、老技術者は不要視されることである。



小林正純画「東洋陶磁美術館と中之島中央公会堂」

冗談ではないよ。我々年代の古い技術者が、大正・昭和の幾十年間で大地震、台風や火災の経験と幾多の実験と新理論で啓発され、また実地の訓練によって造り上げた魂を抜かれてたまるものか。理論がいくら精微を極めても、実際とのギャップがある。更に経済の問題がある。工事や仮設の問題がある

書　評

西洋建築の本質を展開

加藤邦男（京都大学助教授）

夏休みに入ろうとするころ、O・フォン・ジムソン著『ゴシックの大聖堂』（前川道郎訳、みすず書房、昭和60年6月発行）が私の手許に訳者の御厚意によってとどけられた。以来、仕事のあい間にこの本の頁を繰って、快い知的興奮に伴われて西洋中世の建築的世界に遊ぶことが出来た。私にとって本書は、すでに20年ほど前から折にふれてその原書を開いてみるという付き合いであったが、完全な翻訳のおかけで一気に読み下せることは大きな喜びであった。1956年初版のそのような古い本が、いま私に新たな感激を与えるのは、この本のもつある種の普遍性に由来していると思われる。実証的な史実の検証に関しては恐らく新しい研究成果に基づいて修正されるべき個所があるかも知れない。しかし本書の価値はむしろ著者の態度の方に由来していると思われるからである。本書が論じる問題は、まさに建築論として、西洋の建築的思考そのものを具体的に展開している。しかしそうした本書の主題から離れてみて、素直に行文を読み耽けるとき、著者が歴史的な諸事実の実証を通して、イール＝ド＝フランス地方を中心に幾つかの中世の古典といわれる大聖堂を、中世人がつくった建築作品として眺める、その眼差の確かさ、あるいは建築的なものをまさぐってゆく原動力たる精神の強靱さに感心させられたのである。それは、建築論という専門的興味に応えながら、なおかつそれとは別に、知的読書というものの醍醐味をあじわうことができ、この夏の一種の避暑法ともなり、そして夏休みまえの計画では予測しなかった充実感を私の心のなかに産み出してくれたのであった。

ヨーロッパに旅行して、彼地に競いあうように建てられた各都市の大聖堂や集落の教会堂の思い出を持つ方は多いことであろう。ヨーロッパ的建築の本質は、大聖堂の建築にこそ見い出されることは疑うべくもないように思われる。しかしわれわれが旅して眺める大聖堂は、見馴れない奇怪かつ巨大な構築物であったり、異国趣味をそそり、そこから歴史のロマンの夢想を誘われる手づくりの建築物にみえるのである。あるいはそれは、現代社会では少なくなってきた工芸的な美的対象物であったり、職人の技巧的所産であったりして、もっぱら考古学的分類の対象となってしまっている、そのようなものとしてしか見ないことが多い。つまりわれわれは、ある種の盲目になってしまっていて、建築そのものを見る眼が、われわれにおいて頽落していることに、われわれが気づかないのである。ジムソンのこの本は、われわれ現代人に、このような自己忘却を自覚させ、中世人にとって活きいきと現前した大聖堂の世界を、現代の歴史的方法によって想起させ、それをわれわれの裡に蘇生させてくれるのである。そうして活きた眼を回復した読者は、本書の内容に導かれて、ふたたび彼の地で大聖堂を眺めるとき、以前の平板で混頓としたその建築像が深い理性によって秩序立てられ、人格的相貌をあらわす活きた建築の生命の出現に立ち会われることにもなるのではなかろうか。そうすれば、この一冊の専門書は、より広い建築愛好者にとって西洋建築の良心的なガイド・ブックとなるのではないだろうかと思われた。

本書では、ゴシックの建築を超自然的実在、つまり神性の表出として理解しようとする。そうしてその意味と構造を、光の秘儀的解釈と、ユークリッド・ネオプラトニズム的な数、比例、調和の神秘的解釈によって説明する。しかしそこには、人間にとって根源的な生の経験――中世人にとってはキリスト教的宗教経験――の自覚が前提されてあって、可視のものの背後に不可視なる意味の領野を直覚する心と目を開いていなければならない。つまりゴシックは、この意味で光への感受性と幾何学的構成における直観に基づいているといえる。そうしてそこから観念化される形象や言葉



から、逆説的に、神秘的ないし超越的なるものへの同一性を、著者の用語でいえば、アナゴジガルな原理として、ゴシック的世界が説明されることにもなるのである。このとき中世の宗教、哲学、神学から政治、社会、経済にわたる広範な知識を駆使して一つ一つの事柄を論証してゆく著者の精神の働きが躍如たる感を私はその行間に覚えざるを得なかった。

著者が中世人の心性を解き明したように、よくよく反省してみれば、われわれも光輝あるものの現前に魅了される。幾何学性ということは、感覚的な実線などで便宜的に描かれる図形とは別ものであることを幾何学の定義によってわれわれは知っている。たとえば、点とは位置があって面積がない。そうした点の連続が線である……。そうして実際の誤差をまぬがれぬ図形から正確な正方形性や正三角性を誤らずに直観している。ただそうしたことの意味の深さに気づかないでいるだけである。個別的問題としてもいろいろな指摘とその解明が本書にはみられる。建築と音楽とが共に幾何学に基づけられ、われわれの視点と聴覚が相互浸透しあっていること、具象的な図像の物語性に依拠する絵画・彫塑的なロマネスクと区別されるゴシックは、光と幾何学の抽象性に基づけられているということ、また同じゴシックの枠内に世俗の感覚的趣味に適合される大聖堂――その意味でロマネスク的伝統を保存している――と禁欲的で厳格なシトー派修道会の建築観の矛盾が実はみかけだけのことであって、音楽的な幾何学的数・比例、調和を体現する点で共通であることなど興味ある事項は枚挙にいとまがない。特にこの感覚主義と禁欲的理性主義との対立は、詩人プラトンの著作『国家篇』における逆説的な詩人・芸術家追放の議論を想い出させるものである。このようなゴシック大聖堂の本質にかかわる諸問題を解きほぐし組み立て直して、ゴシックの記念碑的建築物、主としてパリ郊外のサン＝ドニ修道院付属教会堂とシャルトルの大聖堂の建設が取りあげられ、同時に12世紀のイール＝ド＝フランスのもっとも重要ないくつかの大聖堂建設と関連づけられて、あれほどわれわれには異国的であった大聖堂が、その生きた全貌を顕わしだすことになる。そこにはシャルトルの大聖堂建設を指揮した建築家・工匠についての歴史的記憶が忘却されている歴史的事実に言及しながら、歴史的実在として活躍した個人としての建築家・工匠と、作品としての大聖堂の吟味から、自ずと想定されてわれわれの心に蘇生する、作品の制作者たる建築家の普遍性を論じ、この普遍性こそがゴシックの大聖堂の「古典性」の実質であることが指摘される。ここに到って私は、この著者が、単なる考古学者とは別の建築・美術史学者という立場すらも越えて、より積極的にゴシックの作品を創造的に見る能力を示す、建築論的立場に自ずと移行しているように思えたのであった。

中世に関する膨大な博学的知識を要求する本書の訳業を、精確で明快な訳文をもって完成された訳者の御苦労を多としたい。西洋中世建築入門には、フランスの碩学アンリ・フォションの『西欧の芸術――ロマネスク、ゴシック』（上、下2巻、S.D.選書、鹿島出版会）の訳書が、ゴシックという形の生命の通時的な詳細かつ具体的解説をわれわれに与えてくれるとすれば、本書は、そのゴシックの本質の把握が好何なるものであるかを示唆する良書である。専門研究者のみならず、建築術というもの、建築家というものについて、いま一度考え直してみたいと思われる方に、多少手強いけれども、お薦めできる本であろう。

かとう　くにお
1935年8月21日大阪生まれ
京都大学（1958）、エコール・デ・ボザール（1961）を卒業
エコシャール都市建築設計事務所（フランス）を経て
1964年京都大学に戻る、1966年より助教授、現在に至る
論文「ポール・ヴァレリーの建築論的研究－構築について－」で昭和59年度日本建築学会賞を受賞

私が読んだ本

何となく…読んでます

太田隆信（坂倉建築研究所大阪事務所長）

毎週木曜日には「週刊文春」、金曜日には「週刊新潮」を読むことが私の読書にはずみをつけてくれる。文春の「今夜も思い出し笑い」がいい。林真理子は、今一番乗っている感じ。新潮の「夏彦の写真コラム」「男性自身」も、マンネリのようで、マンネリに落ち込まない、そこんところの間が実にいい。文春の「タックル右往左往」「テレビGスポット」も、野坂昭如、胡桃沢耕史が、この人達でなければ書けない体験をきちんと書いている。後者の方が、小説に似合わず迫力のある感じだが、やはり焼跡派とシベリア帰りの体験の差であろうか。雑誌それも週刊誌はこういう欄では取り上げないのがルールという向きもあろうが、いずれ単行本にまとめられて、ベストセラーなんてことも間々あることだから、あまり気にせず、書かせていただく。柳田邦男著「零戦燃ゆ」—週刊文春—は、最後の部分、6月から7月にかけて、台湾沖海戦が丁寧に取材されていたが、私の台北での体験と重なる部分があって、折しも夏、感慨深いものがあった。いずれ単行本になるよし、ベストセラー間違いなしであろう。

それから、週刊誌のニュースを真面目に読む。TV、新聞、週刊誌とマスメディアがセット化されつつある昨今、三つともに目を通さぬと、ニュースの全貌がなかなかなぞらえない。それも、それぞれを複数で見なければならないのは、実にわずらわしい。そうやってみても、何ほどもニュースの核心にはせまりえないのだが……、あくまでも、好奇心の問題である。

私の場合、この好奇心と、本に対する衝動とが、読書の最大のインパクトである。書店の新刊書コーナーにどっかと積み上げられている本の香りに、思わず引きつけられてしまう。村上元三著「田沼意次」—毎日新聞社—もそういった本のひとつである。いわば歴史上の悪役として、中学以来教科書に登場してくるおなじみの人物について、全3巻たっぷりと善玉、悪玉のレベルを通してではなく、意次の一生を淡々と話してゆく。その語り口が絶妙。江戸末期の話しではあるが、行間に、まがうかたなき現在が感じられる。といって、意次を、今日の政治家の誰かに短絡させてはいけない。語り口に引かれたついでに、前から読みたかった川口松太郎著「歌舞伎役者」—講談社—を読む。ちょっぴり演劇博物館の思い出にもつながるこの人のこういう話しぶりを継ぐ人は、これからは出てこないと思うと少し寂しい気がする。

大阪芸大からの帰りに、阿倍野のユーゴー書店で、三浦哲郎著「春の夜航」を買う。ゆっくりと、一節一節味わって読む。先に進むのがもったいない気がして、ゆっくり丹念に読もうと思っても、次は何だろうと先が気になってしようがない。やっぱり一気に読んでしまう。「白夜を旅する人々」「少年讃歌」と、問題作を隔年毎に発表しつつ、一方で、コンスタントに短編を続けておられる姿勢は、大変なものだと思うが、この人の場合、それが少しも力みになっていないところが、かえってすごい。コンスタントな短編の仕事が全仕事のペースメーカーの役割を果たしているのであろうか。私達の場合も、コンスタントな住宅の仕事をベースに、かくありたいと思う。

V.A.スチュアート著、ハザード・シリーズの「黒海の嵐」を読む。ホーンブロワー・シリーズ以来、手堅い人気のある海洋冒険小説のひとつであるが、舞台がクリミア戦争であること、蒸気船が帆船と共に活躍すること等、私達にはなじみうすい内容が好奇心をかきたてる。クリミア戦争、ナイチンゲール、帝国主義と教わりはしたが、クリミア戦争の具体的なディテイルとなると、まったく何もわからない。クリミア戦争に限らず、もっと身近なことでも、小説の中から、真実とはいわないが、小さな出来事のひだを拾ってゆかねばならないこは、しんどいことではあるが、読書の楽しみでもある。

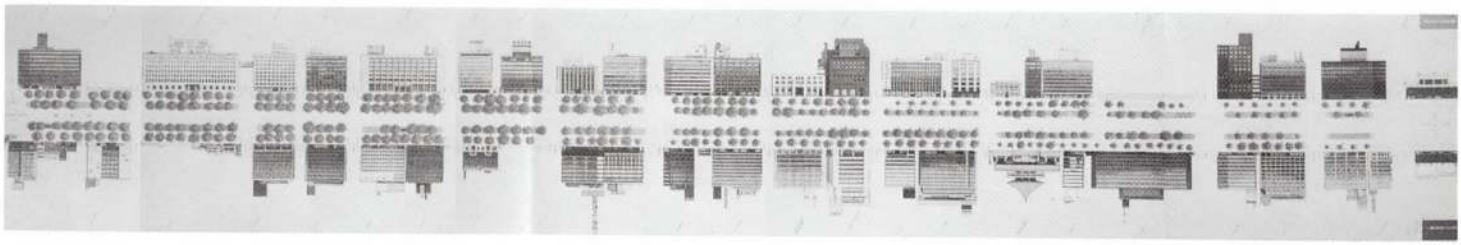
建築に関する本が最後になってしまったが1冊だけ、樋口文彦著「数えてみよう！　数と単位」を紹介させていただく。「初めて建築を学ぶ人のために」とサブタイトルを付けたこの本は、建築計画設計演習の2冊目として出版された。文章だけではなく、本人によるイラスト入りの、読むと同時に見て学ぶ、この本のアイデアがいい。高校時代の教養から、いかに空間を探ってゆくか、建築にアプローチするか、大阪芸大で建築学科開講以来学生と共に、建築の魅力を追及してきた樋口文彦講師の、なるほどと共感を呼ぶ入門の書であるが、ミクロから宇宙迄、生活の関心が大きく広がりつつある昨今、誰が読んでも楽しく面白い本でもある。

このところ、読書が少しイージーにすぎるようだ。少しく反省……。

おおた　たかのぶ
1934年9月4日台湾生まれ
早稲田大学卒業(1958)後、坂倉準三建築研究所に入所
1974年より坂倉建築研究所取締役、現在大阪事務所長
主な作品「大阪府総合青少年野外活動センター」「大阪府立青少年海洋センター」「グリーンピア三木」など

御堂筋景観図　Townscape MIDOSUJI

毎日新聞社刊　定価 7,500円



大阪の御堂筋といえば、連想するものとして、いくつかがすぐ浮かんでくる。いちょう並木、関一、地下鉄、24間（43米）の幅員、高さ百尺（31米）の建築群。それらは、大阪が自慢していたものだ。景観としてもすぐれている。

戦後は、一定の高さを保っていた建築群も、容積制移行に伴い、昭和50年頃より、高さも31mを超える建物もひしめくようになった。それは、それなりに、時代の変遷をあらわしていようが、すぐれた都市景観に、またひときわ変化と趣きを加えた。

本書は、そのすぐれた景観をもつ御堂筋沿道の両側（東面と西面）の建物を縮尺650分の1で精密描写した立面展開図である。御堂筋の長さは4.4キロあるから、650分の1の縮尺でも、当然、紙の長さは7mぐらいになる。この長い紙を折タタミ式にして色刷で刷っていて、見た眼にも楽しい。おしむらくは、印刷の色のあがりが、もうひとつ正しく刷れていない点。それでも、建築群の様式、石、ガラス、金属、カーテンウォールなど、壁面のもつ特質が順次展開していくのは、連続のパノラマをみる思いがする。

本書は毎日新聞社大阪支社と沢村デザイン研究所の企画制作になるものであるが、昭和59年9月現在の姿の描写である。約10年前に、「建築と社会」（昭和50年6月号）でも、この御堂筋の沿道の建築群を同じように描写（縮尺は1：2000、単色刷）した折込み図を収録している。この両方を合わせてみると、この10年間に、何が超高層化され、どこが埋まっていったかがよく分かり、興味深い。

なお、本書の折タタミ式の裏面は、梅田からナンバまでの「御堂筋散歩」として、名所旧蹟、まつり、パレードなど紹介されていて、なにわっ子にも来阪の外国人にもすぐれた道案内となっている。(M)

この人。 土屋 壽満 光の芸術家

ちょっとおじゃまします

聞き手　中馬博良（長谷川工務店）

「この人」シリーズの連載にあたって

建築にかかわるあらゆる分野の人々を訪問し、その人と仕事を紹介しています。読者のみなさまから、いろいろな「この人」を募集していますのでよろしく。

光がつくる感動空間

光・太陽……。子供の頃から興味が人一倍旺盛であった光の魅力に取り付かれ（ガラスの欠片を太陽にきらめかしたり、水の中に鏡を入れてゆらしたりするのが好きであった）、光のみを追い求めて16年。画布と絵具によってのみ表現されてきた絵画を、全く未開発の分野である光で描けないものだろうかが、彼女の出発点であった。「光は、ひたむきに直進し、反射し、屈折し、分光する。しかも、一つひとつの光は、それぞれの速度と波動と波長をもつ。この光を思うぞんぶん駆使して……。」と眸がキラリ輝き、語る口調も若々しい。

彼女は、①スマ・ブライトアート（光学的な設計により絵画が無限の彼方に映像化する）②ブリリアン・イマージュアート（透明体の組織構造を変形させ、そのプロセスを通して生み出す絵画）③メタリカルアート（ファンタジックな世界、アリスの体験の絵画）④コスモアート（スクリーンなしで映像を虚空に結像させるもの）⑤スマ・サンアート（南方のギラギラする強烈な太陽のトロピカル効果を日本の都市空間、建築空間にあざやかに現出させる）と無限に夢を追いつづけている。そして、これからの建築は、使い易さ、住み良さに加えて、美しく楽しく豊かな空間としての感動空間、コミュニケーションの空間が大事と、力説する。

彼女の作品は、文面で色々説明するよりも、「百聞は一見に如かず」で、手にふれ、のぞいて見ると、その不思議さに何んともいえない衝撃を覚える。作品一つひとつが、初体験のものばかりで、建築空間との接点が楽しみである。また彼女自身、与えられた空間の一部を何んとかするのでは物足りないと、計画段階から参画し、設計者の意図にマッチした、より空間を活用させるもの、例えば、窓を壁に変更し、その壁にミラーを貼り、無限の映像の拡がり等、空間全体を光と色で包み込んでしまいたい……と少女っぽく（失礼？）語る。



つちや　すま

略　歴　伊賀上野生まれ
三重大学卒業後教師を20余年
昭和44年にスマ・ブライト・アート研究所を開設、現在に至る

主な作品　日本万国博覧会・生活産業館の空間映像(1970)、大阪・帝塚山幼稚園「森のファンタジック」(1972)、東京新宿・レストラン・パピヨン「花と蝶」(1973)、石川山中温泉・河鹿荘「木匠」(1975)、埼玉県勤労者福祉センター「武蔵野」(1979)、松元市美ケ原温泉・国際観光ホテル「信濃旅情」(1980)、大阪・日航ホテル「翼よあれがパリの灯だ」(1982)、諏訪湖ロイヤルホテル「竹の園」(1982)、東京銀座・有楽町西武「メルヘンの奇跡」(1984)、筑波学園都市・筑波西武店「神々のECHO」(1985)ほか多数

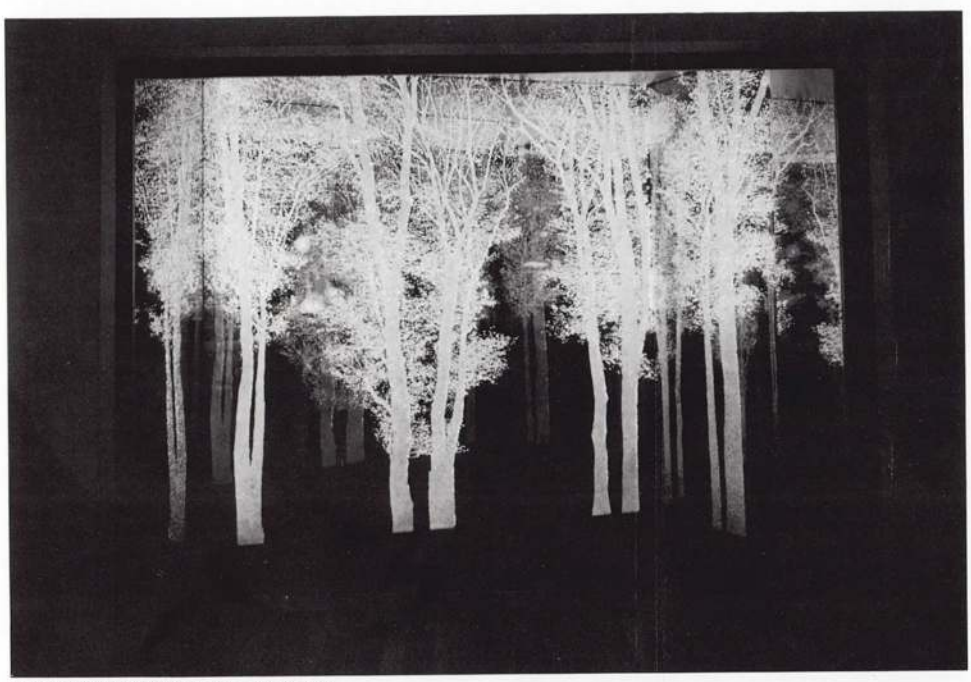
スマ・ブライト・アート研究所
大阪市住吉区杉本２―10―14　☎06―698―2525

彼女の作品には、メルヘンな、万華鏡の世界が感じられる。自分の楽しみを一生の仕事とできる人の幸せを感じさせる作品群である。それら個性豊かな作品創りについては、経験と膨大な量のスマ・メモ、設計図面、模型等が活躍し、実際の制作には、自ら細部について指示を出す。職人さん（電気工事も含む）とも意気投合しなければ、いい作品は当然できない、少しの隙間（５㎜程度）も影となり、作品が死んでしまう、という。

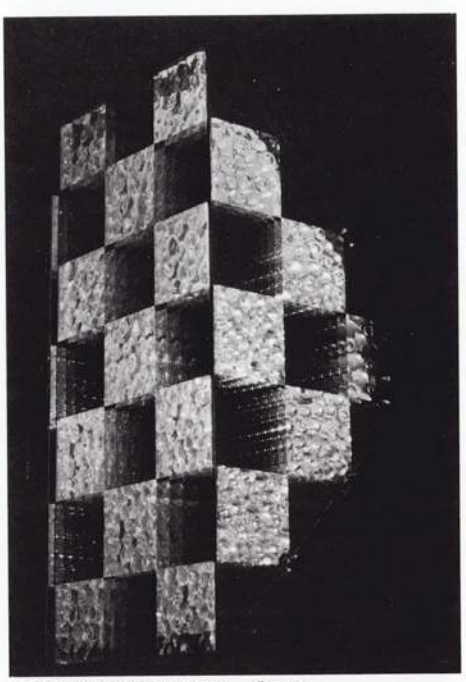
今年６月には中国北京市へ、中国建築学会主催の「現代照明技術と建築展」作品「月下の竹林」のため、単身で中国へ乗り込み、現地の職人さんを使って組み立てる等、バイタリティー豊富である。

これからも、世の中の人に、いままでにない豊かさ、楽しさを与えることが、最大の目的でもあり、喜びでもある……。だから新しい建築空間、特にパブリックスペースに……と燃えている。

今回のインタビューで残念だったのは、スマ・サン・アート（21世紀に向けての新しい建築空間への提案・空の芸術）という何百個もの太陽が見れなかったことである。ぜひ晴れた日に、再度アトリエを訪ねたい。



有楽町西武の映像壁画「メルヘンの奇跡」



山中温泉河鹿荘の映像オブジェ「木匠」

UJNR(United States - Japan National Resources＝天然資源開発利用に関する日米会議)防火専門部会第8回日米合同会議及び第4回日米加毒性専門家会議報告

昭和60年5月13日(月)～21日(火)に亘って筑波研究学園都市の建設省建築研究所に於いて開催された上記会議に当試験所より協力委員として藤川慧が参加したので会議の概要を報告する。

1．はじめに

UJNR防火専門部会第1回は昭和51年4月にワシントンで開催されその後、開催場所は日米両国で持ち回りとなり、両国の合意を得て一年、又は一年半毎に各研究課題を持ち寄って研究発表が行われるもので今回が第8回目であった。また日米加毒性専門家会議は、毎年開催されているが昭和58年10月にワシントンで開催された第7回UJNR防火専門部会と同時に第2回目を兼ねたのに引き続き、今回（第4回）は日本で同時に開催されることになった。

2．会議日程概要

○開会式（昭和60年5月13日）

日本側事務局長が開会の辞を述べて、日米両国の部会長の挨拶があり、それぞれの部会長が両国のメンバーを紹介した。引き続き第7回合同会議の承認、第8回合同会議日程確認と会議運営方針の確認等が行われた。

○研究発表（昭和60年5月13日～16日）

6つの課題についての日米両国のプログレスレポート（前回から今回までの研究経過の報告、又は主な研究の報告）と7つの課題についてのワークショップ形式の研究発表がA、B2つの会場に分かれ、4日間にわたって行われた。

なお7つの課題についての概要は**表－1**に示したが個々の研究及び研究者等は、当試験所機関誌「GBRC39号」を参照されたい。

○研究所見学（昭和60年5月17日）

- 建設省建築研究所施設見学（実大構造物実験棟及び防耐火実験棟等）
- 通商産業省工業技術院製品科学研究所施設見学
- 農林水産省林野庁林業試験場施設見学

○科学万博施設見学及び自由行動等（昭和60年5月18日～20日）

○閉会式（昭和60年5月21日）

各研究課題において議長を務めた両国の議長が報告を行い、つづいて合同部会参加者により決議された。次に日米両部会長の挨拶があり、日本側副部会長が閉会の辞を述べて当会議は解散した。

3．おわりに

今回の部会で両国で合意を得た目的を要約すると次の通りである。

(a)最新の技術的な情報の交換を行うこと。

(b)火災科学・安全に関して共同研究を振興すること。

(c)新しい試験方法、設計及び基準の開発に必要な新技術の開発を奨励すること。

(d)電算機ベースの火災解析の分野における多国間の合意を図ること。

(e)性能的防火規定の開発について可能性を探究すること。また次回（第9回）のUJNR防火専門部会日米合同会議は、1987年春マサチュウセッツ州ボストン、又はワシントンD.C.に於いて開催されるようになっている。

（防火耐火試験室　藤川　慧）

表－1　UJNR防火専門部会第8回日米合同会議及び日米加毒性専門家会議の課題

課　　題	内　　容	研　究　発　表
1.火災危険度の分析方法	(1)防火安全性の評価手法	日本：プログレスレポートを含む5題 米国：プログレスレポートを含む3題
2.火災成長の予測	(1)単室及び複数室内における火災性状、煙流動性状の予測 (2)上記(1)に関連する火災の成分過程に関する研究	日本：プログレスレポートを含む6題
3.材料の火災特性と測定法、試験方法	(1)火災成長の予測に必要な材料の火災特性 (2)試験法の開発	日本：プログレスレポートを含む4題 米国：プログレスレポートを含む4題
4.避難と煙の制御	(1)火災時における居住者の避難挙動と避難計画 (2)避難空間の安全確保のための煙制御方式とその設計	日本：プログレスレポートを含む3題 米国：プログレスレポートを含む4題
5.燃焼生成物の毒性	(1)燃焼条件の設定 (2)燃焼試験装置の開発 (3)動物実験と化学分析の相関性 (4)動物の機能障害及び生理作用	日本：プログレスレポートを含む6題 米国：プログレスレポートを含む3題 カナダ：プログレスレポートを含む4題
6.感知、消火のモデリング	(1)感知器、消火器（スプリンクラー等）の作動環境 (2)スプリンクラー作動に伴う火災性状の予測	日本：プログレスレポートを含む4題 米国：プログレスレポートを含む3題
7.自由研究	(1)部会長の裁量による適時の興味深い課題	日本：7題 米国：2題

●所 在 地……〒565 吹田市藤白台5－8－1（阪急北千里駅より北西約1km、国立循環器病センター西隣）
●電　　話……(06)872－0391(代)
●営業時間……平日：午前9時～午後5時、土曜日：午前9時～正午



●写真はインテックス大阪・管理棟ロビー

トータル・コーディネーション・インテリア。
公共空間、ホテルにも、信頼のスミノエ。

さまざまなライフスタイルに対応する幅広い商品群。
時代のニーズを適確にとらえたフレッシュな感性。
My Quality Lifeをテーマに、
スミノエは、ゆたかなインテリアライフづくりをめざします。

スミノエ

カーテン・カーペット・壁装・美術織物

ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド
住江織物株式会社

本社・大阪支店●大阪市南区南船場3-11-20 TEL.06(251)0081
東京支店●東京都港区三田3-13-16 第43森ビル8F TEL.03(456)3011

営業所●札幌/仙台/静岡/新潟/金沢/名古屋/岡山/広島/福岡
連絡所●盛岡/大宮/千葉/横浜/京都/神戸/松山

設計者のプロフィール　38　関西の昭和生まれの建築家

谷　淳之介　東畑建築事務所

聞き手・編集幹事　水川尚彦(安井建築設計事務所)
プロフィール撮影　島　修一(STUDIO A・T)

略歴	たにじゅんのすけ
生年月日	昭和16年8月19日生(44歳)
出身地	兵庫県相生市
最終学歴	京都工芸繊維大学建築工芸学科昭和40年卒業
職場	東畑建築事務所設計課長
事務所所在地	〒541 大阪市東区伏見町5-19
おもな受賞	建築業協会賞(小林ビル「ホリディイン南海大阪」・1980)、大阪府知事賞(同・1979)
関連した代表作品	岡山県立倉敷温水プール(倉敷市)　小林ビル「ホリディイン南海大阪」(大阪市)　大阪国際見本市新会場(大阪市)
好きな建物	グルントヴィ教会(コペンハーゲン)
好きな空間	旧い街並
趣味	音楽


岡山県立倉敷温水プール


大阪国際見本市新会場



街角のデザイン

話題の国際見本市会場インテックス大阪の東畑事務所の担当者である。このほか、代表作としては、ホリディイン南海大阪などが挙げられる。いずれも「建築家は環境を守る」という信念によって、造られている。とくに、ホリディイン南海をつくりあげていく過程では、人間と街と建築のからみの中で、かなり強烈な意識をもって「建物の御堂筋化」をすすめたと語る。街の中にたつ建物は「街と同化し、街角をつくる」という発想で建築をつくっていきたいと抱負を語る。

デザイン志向としては「岡山県立倉敷温水プール、関西ペイント鹿沼工場などの、のびやかでかつ清々しさをもったものが、私らしいデザインであると思う」とし、その志向性をもった最近の作品が、インテックス大阪である。「街中で建物をつくるだけでなく、広い野原のようなところで建築をつくりたい」と当初、意気込んだが、「水平線と船と港というイメージばかりが先行し、巨大な風景に対応する建築はかなりむずかしかった」と述べる。ホリディイン南海もインテックス大阪も良い人間環境の中で仕事をすすめることができたのがラッキーだったという。

「いきづまったときには、頭の中をまったく自由に解きはなすことも必要」とし、一枚の写真・絵から発想を促すこともあるという。とくに古地図や古建築の写真をみたり、街を歩いて歴史に思いをはせるといったことも好きで、所員と街の中を歩きまわることも多いと語る。

京都会館の空間構成に感動し、大学卒業後東畑事務所に入所して20年が経った。そのころは、高度経済成長期の真只中であり、かなり忙しい思いをしながら、先輩の指導を受けてきた。自由な良き時代を過ごしてきた世代である。「従来は集合住宅・ホテル建築を手がけることが多かったが、インテックスにかぎらず、これからもいろいろな分野の建築に挑戦していきたい。ひとつの分野にかぎるよりは、さまざまな分野を手がけていった方が、結果としてよいのではないかと思う」と意欲的である。

性格は、おおらかでさっぱりとしたように見うけられるが、こと建築に関しては、かなりネチっこい。ディテールや、スケッチについても「自分の感覚にピタッとくるまで、納得しない」という。実施設計の段階では、詳細などすべてをあらかじめおさえきり、現場の段階では、さらに、それを高めるというすすめ方をしていきたいと語る。

設計事務所の役割については「とにかく良い建築をつくっていくことが使命。しかも自由な発想で」と明快である。同時に「みずからがよい建築をつくることによって、街や人になにがしかのインパクトを与えることができるのでは……」と建築の可能性を語る。組織と個の問題に関しては「まだまだ模索の段階であるが」と前置し、「社会の動きは、個人の能力を超えたものを要求している。一人一人の能力を集めた集団としての機能を発揮できれば組織事務所の存在性も十分にある」と認識している。設計課長として若い人と接するとき、必要以上に指示はしないという。「一緒に仕事をすることによって何が大切なことかが自然と伝わっていくと思う」。建築教育は、自分自身で解答を見つけだすべきであると厳しい面ももつ。

「関西育ちであるが、経済優先の風土にはあまりなじむことができない。しかし、現在はこれまでの状態の反省期にあり、変っていくと思う。地に足のついた建物が多いのではないか」と、関西の建築風土を分析する。

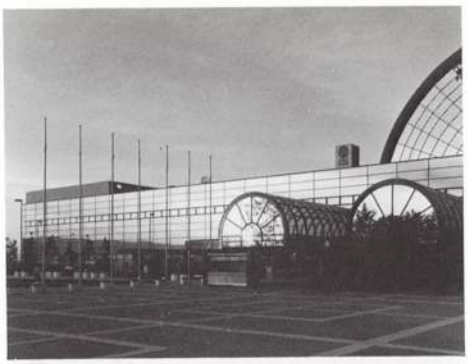
「建築とくにデザインは、非常に個人的なものである」とし、美しいもの、優れたよいものを、ふだんみることが勉強のひとつであると述べる。ことに、建築作品では東畑謙三氏の設計した奈良の寧楽美術館をみた時、街並みと調和した瓦屋根の重厚さに感動したという。学生時代と社会人になってからの各1回、中之島のフェスティバルホールの舞台に男声合唱で立っただけに趣味はクラシック音楽。とくにバッハが好きで、その理由は〝構成が建築的〟とやはり建築家としての一面がのぞかれる。

〔次号の登場者は吉羽逸郎氏(大阪府)〕

現代のクリスタルパレス

インテックス大阪をみて――

本多友常





国際見本市会場「インテックス大阪」は、大阪市臨海部に構想されている「テクノポート大阪計画」の先駆的施設として建設されている。いわば高度情報化社会へ向けての先見性を託されて、いまだ見えぬ仮説的状況への解答を用意しなければならない使命を負わされている。エントランス広場に対面したファサードは、その気概を受け止めようとするかのように、全面をガラスにまとい両袖をいっぱいに広げている。

半円筒形を切断したような大ドームと低層部の本体、エントランスへの導入を指示する三本のチューブ、すべてはガラスのミラー効果によって覆われて、さながらマジックハウスへ入って行く時のような、眩惑への予感が期待をふくらませてくれる。その光沢に包まれたエントランスに誘導されて、いくぶん陰に沈んだホールに入ると、そこにはかすかな心地より裏切りが用意されている。

入ったはずの場内は中庭に通じる半屋外に抜けており、鋭角的な光が射し込んでいるはずの大ドームのインテリアには、むしろ中性的な空間が茫洋として待ち受けている。光が粒子でできているならば、光霧という言葉が生まれたのではないかと思わせるほどに、そこには柔らかい光が充満しているのだ。

これは屋根が光を透過しているためで、テフロン加工されたガラス繊維のキャンバスが天井の全面を覆いつくしている。直射日光はここで乳白な透過光に変換される。会場を訪れた人々の意識をも浮遊させるような、この空間のおおらかさは、見本市会場としての建築に対するひとつの解答を与えてくれているといえよう。無柱の大空間が多目的使用への対応として用意されていることはいうまでもない。しかし、ここで注目したいのは、建築的表現としてのドームの扱いである。夢想を乳化させるほどに柔らかい光をたたえた内部空間と、鋭い光の反射で構成された外部空間はなぜ不連続なのであろう。

この外部から内部空間への質の転換は、低くて暗いホールを通過させる絞り込みによって演出されている。そのためさほどの不自然さは感じさせない。しかし内外空間の不連続性は、建築的にはかなりな冒険ともいえる。なぜならば、たとえば外部を構成するガラスのファサードは、内部空間からくる必然性によって構成される必要はなく、形や材料の決定には自立的な論理が要求されるからだ。ひらたくいえば、なぜ三角ではなく半円でなければならないかったか、なぜアルミでなくガラスであったのかという問いに対して、設計者の好みであること以上の、どれだけの論理性を持ちあわせているかが問題として浮かび上がってくる。

かつて、鉄とガラスによる近代建築は、技術革新の落し子として、世界の都市を席捲しつくしていった。その背景には、経験したことのない急激な技術の進歩があり、石とレンガに縛られていた建築は、重力からの解放という近代美学を生み出していった。あたかも宙に浮いているような建物は、自然に対する技術の勝利であり、とりもなおさずそれは新時代に生きる人々の自由を表現した。ゴシックがどれほど天空に延びようとも、それが重力の束縛を表現する逆説でしかなかった時代とは異なる次元の興奮に酔い痴れていた。

クリスタルパレスの大空間は、当時の人々が求めたクリスタルな夢への時代的願望であったに違いない。いわば大衆の願望が時代感覚を代表する季節を迎えていた。経済も商業も建築も、社会的な事象の大半は大衆の意識に手を指しのべることによって存立する時代へと突入していった。それから約100年、大阪万博会場に架けられたトラスの大空間は、わが国におけるマスプロダクションの頂点を象徴するものとして、未来ユートピア論を造形化した。この屋根のもとに集まった人々は、共同幻想としての同一世界への帰属感に浸っていた。頭上に覆い被さる大架構のごとく、信頼に足る力への崇拝は、天空神への帰依を想わせるほどに熱狂的なものがあった。そして奇しくもそこは、太陽の広場、と名付けられていた。

しかしその時代的興奮は、オイルショックという経済的変調によって急激に冷却され、早くも均質な大衆の終焉が叫ばれ始めてきた。熱狂が覚めて未来指向への虚構性も知らされた。いや、あるいは大衆という名に物象化された人々の欲望は、すでにそのことを知りつくしていたのかもしれない。今、個人主義的多様化への転換によって説明される社会現象も、あるいは大衆のしたたかさの裏がえしなのかもしれない。彼らは再び、新たな夢としてのハイテクノロジーへ熱い視線を送り始めている。

しかし、もはやそこに狂信はない。いわば熱狂しながら覚めており、ある種の虚構性をゲームとして見る心性を拡大させてきている。ＩＣに代表される回路のように、すでに内部への理解は放棄されて、表面のあり様にしか関心を示すことができなくなってきている。インテックス大阪は表面性への問題提起を造形化することによって、ハイタッチ感覚を体現している。人々は内外空間の不連続性に新しさを見いだしている。ハイテックな時代への甘美をゲームとして見つめている。

建築が時代精神を集約するものであるならば、不連続性や虚構性は建築の主要テーマとしては大きな意味をもっているはずだ。しかしそれは両刃の剣でもある。一歩誤れば偽物づくりにつながりかねない。その分かれ目は、テーマをどこまで追求しつくすことができるかにかかっている。その正否については時の判定を待つ必要があろう。ここでいえることはインテックス大阪は潜在的な時代的影響を大きく受けつつも、問題性への執着をスマートにさらりとかわしている点だろう。インテックス大阪には、そのテーマへの固執はない。それはある意味で日本的な感性ともいえる。概念をあらわにすることは必ずしも快いことではない。しかし感性への追従は論理的一貫性からの離間をも意味している。その両義性に対する反応の仕方を見守ることによって、この作品の評価は定められていくだろう。同時にそれは我々の理性と感性に対する生理的反応のバロメーターでもある。

（ほんだ　ともつね　竹中工務店大阪本店設計部）

●書評

水辺は都市の中の〝カラッポ空間〟

上田篤



近年、水辺空間を見直すことへの関心がとみに高まっている。

なぜ〝水辺の生活空間〟なのだろう。

がんがえてみると、昔の都市に〝水辺〟は欠かせなかった。生活用水として。また防火のために。そして何より舟運の必要上。

だが、いまはさまざまな管渠が発達し、交通のほとんどは陸送にかわって、内陸水運は壊滅した。にもかかわらず、水辺の生活空間の復権を呼びかける理由はなんだろう。著者は、近年の都市の巨大化に伴う非人間的な環境は、水辺空間を失ったところからきている、という。

文明は河川流域の肥沃な氾濫原で、農耕地をつくり、そこに都市をつくることから始まった。しかし、産業革命以後都市は巨大化し、都市の河川や海岸の変化は、水の生態系をずたずたに寸断した。自然を征服する技術から、自然を活かす技術、自然と共に生きる技術、こういった水との融和、自然との共存を、利便性が極度に発達した文明社会のなかでいかに回復し、再生し、さらに創造してゆくか、と問題提起している。

かつての都市の中の水辺空間は、うるおいややすらぎ、そして親しみのある空間であった。それを再びとり戻そうという昨今の現象を、人々の本能的動き、としてとらえる。

「親水性」の確保という視点から、近年構想された、水辺に関する日本における事例を中心に、内陸河川の水辺、湖沼・溜池・ダムの水辺・港湾・海岸の水辺、造園・建築の水辺等、生活空間にあらわれる水辺の在り方について、広範囲にわたりふれられている。

著者が一貫して述べるのは、「水は方円にしたがう」こと、つまり、水のもつ本来の性質を、ここでもう一度見直すことから始めることが必要であること。さらには水辺に、自然と人工との新しい共存の道を探ることにあると。

また、内陸河川は、今までの河川改修の方向として、雨水を早く下流へ「流す思想」から「ためる思想」への転換を図り、保水・遊水策を中心とした治水対策にとりくんだ事例を紹介している。

ところで、欧米の都市では、水辺をたいへんに大切にしている。そこには必ずといっていいほど、気持ちのいいプロムナードがある。ときには芝生の敷きつめられた広い公園がある。市民の散策の場であり、憩いの場となっている。水辺に建つアパートは高級住宅にかぎられる。水辺は新しいタイプの公園にちがいない。流れる水は樹木と同じように、自然そのものなのだ。

それなら、公園の少ないわが国の都市では、もっと水辺の活用をかんがえてもいいのではないか。幸い、日本は雨量の多い国である。地形も変化に富んでいる。ために小河川、小水路がやたらと多い。欧米の都市では一都市に一本ぐらいしか川がないのに、日本の都市では、たいてい、数本の川をもっている。これは、都市の〝公園化〟をかんがえるときに、すこぶる有利な条件ではないか。

にもかかわらず、現実の水辺は、荒れ果て、人家や工場が密集し、あるいは埋め立て寸前にある。ところが、そのようなズタズタに引き裂かれた水辺にも人々の生活が息づいている。張りつめたコンクリート擁壁の隙間からも雑草は芽生えているのだ。水辺はまだ死に絶えてはいない。

それに、水辺にはまださらに大きな可能性がある。それは、水辺に展開する都市の風景の中にある。道路を歩いているときには隠されていた都市の貌が水辺では、その表情を見せるのだ。それによって人は町そのものを視ることができ、いま自分の立っている都市の座標を知ることができる。混迷深めていく現代都市におけるそれは迷宮のなかの〝アリアドネの系〟にも比すべきものなのだ。

それというのも、水の上には何もない〝カラッポの空間〟があるからだろう。これを大切にしたい。自然に還る〝水〟と、文化を映し出す〝空間〟の二つの在りようが問われている。

著者の問題提起を受けながら、わたしは水辺について以上のように考える。

（大阪大学教授）

けんちくの眼

嶋田勝次
神戸大学工学部建築学科助教授
生田喜一郎
大阪市都市整備局営繕部設計課長
土肥耕一
東畑建築事務所設計部長
狩野忠正
竹中工務店大阪本店
設計部副部長

7月号から12月号まで上記の4氏が担当

ヒューマンスケープ・アーキテクツ

国際造園会議が今年5月に日本で、その後半は神戸で開かれ、その最終日にはしめくくりとして「創造と環境」と題するパネル討議が行なわれ、内外の造園家の中で、他分野からの神戸人ということからか、私は場ちがいと感じながらも、パネラーの一人として引っ張り出された。

造園家のことをLandscape Architectsという。我々はまだランドスケープにかゝわるものとして造園家をイメージするよりもGardenerの方がぴったりした印象をもっていたので、討議の当初に「皆さんがLandscape Architectsなら同じ〝Architecture＝大芸術〟にかかわるものとして、皆さんも同じTownscape Architectsではないか。ひいてはみんなHumanscape Architectsではないか」と口火を切った。討論は、自然環境保全の問題から各国の造園思想の状況、そして中近東やアフリカの国際情勢にまで発展した。造園家が庭師にとどまらず、フランクに古いものと新しいものから広く深いところまで、テーマを展開する積極姿勢には大いに考えさせられた。

我々も空間軸と時間軸の大きな観点からアプローチする大切さを今更のように思ったのである。(K・S)

当字について

今年は、阪神タイガースが出足よく辷り出し、100試合をすぎて、ラストスパート鋭くトップを走っており、タイガースファンは勿論のこと、関西のスポーツ紙のボルテージは一段と高くなるばかりである。ボルテージが上るのは、それはそれで結構なことであるが、一つ気になるのは、その見出しが強烈になるとともに、その効果を上げるためか、当字が多くなってきていることである。なかにはなるほどと感心させられるものもあるが、ほとんどはこじつけが多くいただけない。最近の大学入試や入社試験において、当字や新造熟語が担当者をなやますとともに、楽しませてくれる？ことが多いと聞くが、こうしたスポーツ紙の当字が、原因の一つになっているのかも知れない。このように当字新造語が次から次へと出てくると、世間に与える影響も少なくないと心配するのは取越し苦労であろうか。

あまり当字がはんらんすると、現在の日本語の一語一語は、我々の祖先が長い時間をかけて、磨き上げた味わい深い言葉であり、その言葉のもつ本当の意味・心が失なわれてしまうのではなかろうか。たかが当字ではないかと、笑われるかも知れないが、本物によってのみ本物の心が知りうることを、心すべきではなかろうか。(K・I)

天の恵み

暑い!!　集合住宅の最上階は真夏陽に灼かれてたっぷりと熱を蓄え、日暮れてからも深夜まで惜しみなく放熱する。ウサギ小屋の哀しさ、扇風機数台を総動員して暑気を払うのに大童となる。こうした情景の中での救いは、蛇口を捻ればサッと水が得られる一事である。喉を潤し、水を浴び、汗蒸した衣類をすすぎ、わずかなベランダに水をまいて涼を呼ぶ。好きな時、好きなように水を使えるのは豊かだとしみじみ思う。

昨夏、近畿の水がめ琵琶湖の水位が下り渇水騒ぎとなった。勿論降水量の多寡にもよろうが、それだけでなく、問題の原因は大地の保水力の低下にあると指摘されている。やたらと舗装されている都市では当然と納得できるが農山村でもそうで、それは「針葉樹林増大と裏腹の関係をなす広葉樹林や草山の著しい減少、コンクリートを用いた谷川の改修、ゴルフ場をはじめとする山間諸施設の拡大」にあるということである。水を使えない事態に立ち至った時、我々は生きてゆくことが覚束ない。それは石油のないことの比ではない。ハイ・テックがハイ・タッチな時代を生む保証はなく、むしろ不安と恐怖の時代を招いている。自然に逆らって「天の恵み」をなおざりにし、心の豊かさまでも失いかねない今、まずハイ・タッチな心を養い「天の恵み」を守りたい。(K・D)

兵馬俑

なぜ、こんな辺境の地にきてしまったのか、しかも、まったくの一人で、お盆休みに中国西安を訪ずれた。シルクロードの起点にある西安のレンガの街は酷暑の中にからからに乾燥していた。5000年の歴史を伝えるにふさわしく人々の生活風景は悠久であった。

40kmほど郊外にある秦始皇帝の兵馬俑坑は発掘中であった。10年前に発見され、8000人の兵俑が現れるのにあと30年はかかる。72人横一列の行進は響く靴音が聞こえてくるほどのリアリズムがある。リアルをこえている。芸術とは、の間をかけるにはあまりにも強力ではないか。2200年前秦始皇帝に仕える兵の殉死する身代に埋葬されたのだ、2000年からみればわずかであるが生きのびたのだ周辺を廻るにつれて背中に寒気がビーンと走った。人形の兵に真剣であり、どこか寂寞とした表情である、顔のない人形、腕のない人形、土をかぶった人形、時間の経過によって作者の意図とは異なるところにきてしまった。異なるところがより迫りくる力を感じさせる。不完全の中により完成されたものが現れている人形の顔をどんどんスケッチした。コンディションの悪い自然の中で鉛筆をすべらせたのはなにか。2000年前の兵への供養であったのか。(T・K)

特集●都市と健康・スポーツ

飽食の時代——現代人は自らの健康やスタイルに気を遣いはじめ、その〝運動ニーズ〟は急速な高まりを見せている。現在、全国で約300ヵ所のスポーツクラブがあり、うち三分の一の約100ヵ所が昨年オープンしたそうである。

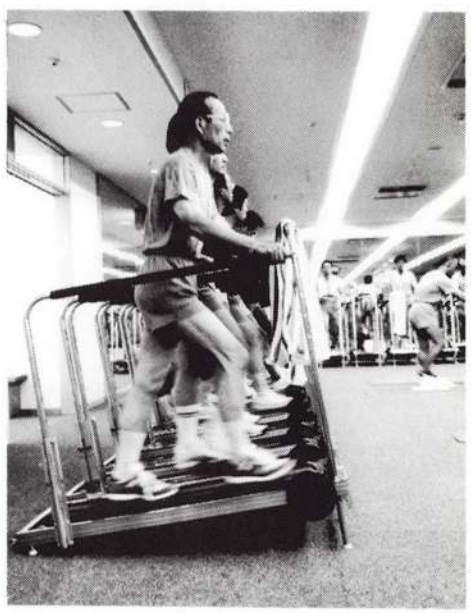
高級ホテルのスポーツクラブは超一流ゴルフ場と同様、一種のステータスシンボルとなり、テニスルックで街を闊歩したり、カラフルなレオタード姿でエアロビクス、ジャズダンスに汗を流す若い女性にとっては、一種のファッションともなっているようである。これらのフィットネス産業には、都市活性化のインパクトとして商業空間的アプローチの中で、ファッション性やカルチャー性を大いにアピールしているものが多いようである。今後、これらの〝産業〟がどうなるのかについては定かではないが、いずれにしても他との個性化・差別化が必要であり、単に〝健康〟だけをめざすのではなく、〝美〟と〝精神的充実感〟をもつ、ファッション性とコミュニティ性の融合した都市活動の魅力的基盤となるべきことが期待される。

また、市民マラソンや神戸のユニバーシアード大会のように、スポーツを単に競技スポーツとせず、都市活性化のモーメントとするイベントとして把える動きも目立つようになった。これらのスポーツイベントの受け皿となるべき空間は、必ずしも従来の体育館、プールといった施設概念ではなく、多様な都市機能をも受容する公共的空間として整備されることも注目される。たとえばマラソンコースやジョギングコース、サイクリングコースとしての街並みの整備、多目的アリーナとしてのコンベンションホール等である。

一方、〝健康〟の中にある〝不健康〟の側面が都市の中でどのように実態化されているかという問題が指摘される。肉体的健康と精神的健康、そしてそれらの不健康…。いまなぜ〝健康〟かという素朴な質問が登場するわけである。都市の中での一見〝不健康〟とされる側面が、意外と人間らしさを求める都会人のオアシスになっていたり、一見〝健康〟をしているとおぼしき行為が実は、歪曲化された都会人の〝不健康〟の象徴であったりして……。

「建築と社会」でこんな特集を取り上げようとした連中が〝健康〟か〝不健康〟かは別にして、日頃、多少なりとも建築や都市のことにあれやこれやとかかわっている皆様にとって、「都市と健康・スポーツ」について語り合う契機となれば幸いである。

今回の特集では、健康づくりの戦略およびその事例を中心に取り上げたが、〝不健康〟についてはもっと不健康な生活をエンジョイして、いずれ特集の第二弾として、別の機会にゆずることにした。（編集幹事 田中直人）



本特集編集幹事
足立啓/岡田信幸/奥村礼子/金澤成保/杉本章子/田附尚/田中直人/中山徹/藤田治彦/舟橋國男/本多友常

総論

余暇市場も成熟化の時代

平　本　一　雄

1　2000年　時間もお金も⅓時代

余暇活動の量・質を決定するのは、自由時間、余暇支出、生活意識の三つの要因である。これらおのおのの動向と相互のバランスが、年々その余暇活動の需給を左右していく。

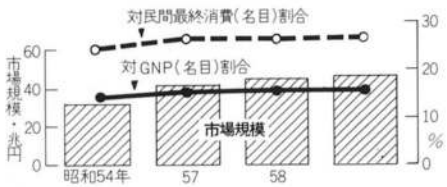
自由時間については、わが国でも昭和40年代から導入され始めた週休２日制が現在では半数以上の企業に浸透し、従業者の⅔以上がその恩恵に浴している。経済審議会の長期展望委員会においては昭和55年には１日の29.8%だった自由時間が75年(2000年)には34%へと増加することを予測している。また、余暇に対する支出についても昭和59年において消費支出に占める割合は27%であるが、2000年においては約32%まで増加することが予測されている(余暇開発センター「余暇将来のビジョン」)。時間もお金も⅓となる本格的な余暇時代の到来である。

一方、生活者の意識も米国の心理学者マズローが提唱した「自己実現型」の余暇が時間とお金に支えられて増大していくものと思われる。三菱総合研究所による関東・関西の有識者200人を対象とした2000年の生活意識動向調査においても、今後の社会経済変化により「自己実現への指向性」が人々の意識の中で最も強まる項目として摘出されている。

このように21世紀は「余暇⅓時代」として位置付けられるが、はたして現実はその通り動きつつあるのだろうか。

2　成熟化しつつある余暇市場

レジャー白書によれば、余暇活動を貨幣タームに換算した市場規模は、昭和54年の30兆９千億円から59年の46兆２千億円と、ほぼ1.5倍の伸びを見せてきている。しかし、この伸びの内訳を見ると、54年から57年までは年平均10.3%の伸びであったのが58／57は5.1%、59／58は6.1%とペースダウンしてきているのが現状だ。民間最終消費支出に対する余暇市場のシェアは安定した微増傾向にあるのを見ると、この傾向は近年の経済情勢が反映されたものと読み取ることができる。



余暇市場の推移
余暇開発センター推計

ただ一方で余暇市場自身が成熟化してきているという懸念が出てきている。レジャービジネス自体に大型のヒット商品が出にくくなり、市場の多様化が進行している傾向にある。これはレジャー活動の流行のライフサイクルが短くなっている点、健康・コミュニティ指向に見られるようにお金を使わないレジャーへの転向が見られる点、ハイテクレジャーの抬頭があるものの市場全体を牽引するところまでは到ってない点などがその原因となっている。

スポーツ・レジャーにおいても、昭和50年以降のブームは56年頃に到り沈静化し、市場の成熟化傾向が顕著となってきた。これはスポーツ用品のメーカーの経営状態に如実に表れている。デサントの業績低迷、カワサキラケットの経営破たんなどを典型に業界全体が低迷している。スポーツ用品店も店も閉じるところが続出し、かつての勢いが消え失せた。

レジャー白書はスポーツの種目別活動回数の減少を指摘している。白書が対象とするスポーツ種目は26だが、そのうち「ジョギング、マラソン」、「野球」、「サッカー」、「テニス」、「乗馬」、「サーフィン、ヨット、スキンダイビング」等の14種目で活動回数が減ってきている。これらのほとんどが54年から57年にかけて活動回数の増加した種目である。しかし、参加人口自体は増加傾向にある。26種目中の16種目で愛好者が増加してきている。活動回数、参加人口ともに大きく増加しているのは「ジャズダンス、エアロビクス」のみという現状だ。

これらの傾向で明らかなことは、テニスならテニス、スキーならスキーにと一つの種目に打ち込んで鍛練して上達を求めていく「マニア型」スポーツマンが減り、サーフィン、スキー、ゴルフ、テニスと何種類もこなし、うまくなるより広く浅く楽

しむ「マルチ型」スポーツマンが主流となってきていることだ。

それでは、余暇市場自体が完全に成熟化して21世紀に向けて量的な成長が見込めないかというと決してそうではない。潜在参加人口はわが国ではまだまだ豊富に存在している。余暇開発センターの59年調査によると、週末余暇への参加に対する希望と実態との間にはまだまだ大きな乖離がある。回答者の希望のベスト5は、①スポーツ、②日帰り行楽、③友人や知人と交際、④けいこごと、⑤スポーツの試合・コンサート・観劇・美術展に出かける、の順となっている。これに対し、実態の方は①テレビ、②街に出かける、③家族や子供と遊ぶ、④友人・知人と交際、⑤日帰り行楽がベスト5であり、この希望と実態の差は潜在参加人口となって、まだまだスポーツやカルチャー活動の参加人口が拡大していく余地があるといえる。

3 スポーツもファッション志向

好みのままいろいろなスポーツにチャレンジしていくというレジャーのマルチ化傾向は新しい現象を引き起こしている。

まず大学のキャンパス、ここでは体育会系の正式のクラブにはもはや人気がなく、同好会が花盛り。それも最近では特定のスポーツ種目を対象とせず、季節に合わせて次から次へと違うスポーツを手がける「オールラウンド・スポーツクラブ」と称するマルチ派が登場してきている。

またスキー場は、今シーズンは降雪に恵まれたものの、前年に比べ、どのスキー場も1～2割客数がダウンしている。これは従来のようにシーズン中に何度もスキー場にやってくるスキーファンというのが減少してきているためである。かつて、スキー場で女性には常にモテていたインストラクターも最近はさっぱり人気がないという。これも「スキーの上手な人」から「スキー場でいろいろな楽しみを与えてくれる人」へと人気が移行してきているせいだ。

軽井沢プリンスホテルは歴史のあるホテルだが、最近は休日ともなると家族連れでいっぱいになる。そして最初の日には夫はゴルフ、妻はテニス、子供はサイクリングをそれぞれ楽しみ、あくる日は全員が乗馬を楽しんで帰っていくというマルチ派の新しい行動パターンが生じてきている。

こうした現象を見て現代の若者やファミリーの軽さを嘆くのは見当違いだ。むしろ、かつて「スポーツ」という言葉を英語に訳したとき、適当な言葉がなく「運動」とか「体育」と訳してしまったことを反省しなくてはいけない。この訳によって、訓練により身体を鍛えるものがスポーツとなり、楽しみの要素が抜け落ちたものとなってしまった。

ある程度スポーツが生活に浸透してきた今、気軽にあちこちでいろいろな層の人がスポーツに手を出す時代になった。スポーツは「運動」や「体育」というよりも、ファッションであり、遊びとなって、人々の間に「スポーツレジャー」として浸透してきている。

現在大流行のエアロビックスがそうだ。エアロビックスは訳すると「有酸素運動」。激しい持続運動を行うNASA開発の軍隊のトレーニング方法だ。これも日本では音楽と組み合わされダンス化し、カラフルなレオタードと組み合わされファッション化することによってミセス層の心を把えたわけだ。

一方、子供のスポーツ教室は、スイミングに限らずあらゆるメニューが揃ってきている。ここではただ多様化という現象以外に専門化の動きも見られるようになった。ジュニア専門の独特のトレーニングを行うテニススクールも各所で誕生している。神奈川県藤沢のあるテニススクールでは米国のトレーニング法を導入した全寮制のテニススクールを開業させ、全国から生徒を集めている。ここに入校した小学生の児童は、父母の元を離れ、寮から近くの小中学校へ通い、残りの時間のすべてをテニスに投入するというスパルタ教育が売り物だ。こうしたスクールは欧米では随所にあるが日本では珍しい。

スポーツはファッション化し、身近なものとなって、その層を拡大しつつ、一部では本人の適性に合わせた本格的なコースが用意される時代になったということであり、ここでも消費物資の市場同様の「分衆の時代」が始まっているといえよう。

この時代においてはスポーツを中心としたレジャー施設にも新しい対応が迫られている。複合化、大規模化、本格化の三つの動きだ。

複合化は、スポーツのマルチ化を反映し、1種目だけでなく何種類もの種目を総合的に揃え、幅広い利用者層を確保しようとするものである。都市型、リゾート型を問わず、この傾向は強い。とくに都市型においてはいろいろな業界がレジャー産業に進出してくるのに伴い、ホテル、ショッピングセンター、カルチャーセンター、スポーツクラブ等を複合化した施設のチェーン展開する動きが盛んである。また、健康とレジャーとの接点を単にスポーツと考えず、本格的な医療機能とレジャーを結びつけようとする試みも一部では出始めている。

大規模化は複合化の延長線にあるものだが、米国のディズニーワールド、仏のラングドック・ルシオンをめざす大規模リゾート開発が、九州や沖縄などで相次いで計画されている。

本格化は、プロ養成をねらうクラブのほか、中心施設として冠大会を開催できる高水準なものを設置したり、特定階層のみを会員としデラックス化を図る例など、施設の個性化戦略の一環として展開されている。

このように、現在の経済状勢に合わせ足踏みをしながらもレジャーに対する意識を次第に変化させ、21世紀に向けて新しい独自の方向を模索しているのが現在のわが国の余暇の動向だといえよう。

（ひらもと　かずお　三菱総合研究所都市経営研究室長）

健康づくりの歩み—ＹＭＣＡ体育よりさぐる—

世　戸　俊　男

日本における体育は、19世紀の終わりごろにはじまったといわれる。ここでＹＭＣＡ体育を振り返ると、三つの時代に大別できる。

(1)体育活動のめばえた時代（1886年～1906年）

(2)近代スポーツの紹介と普及に努めた時代（1907年～1945年）

(3)社会問題に対応する働きが強くなってきた時代

体育を人間の総合的な科学として、その中で健康づくりとして捉えたのはつい最近のことであると考えられる。しかしながら、民間団体であるＹＭＣＡ体育の歴史をみれば、スポーツ活動を通して健康について努力してきたことが理解できる。なぜならば、ＹＭＣＡ体育は、Ｌ．Ｈ．ＧＵＬＩＫがＹＭＣＡの赤三角形（精神・知性・身体）の理念でしめすように、調和のとれた全人教育を目的として体育活動を推進しているからである。

明治時代の体育は、学校体育の確立に重点がおかれ、日本の体育は外からの圧力と行政からの力で開いていったが、民間の社会体育の振興・啓蒙活動も少しずつ開花してきた。

ＹＭＣＡ体育も特別な形態ではあったが、その一翼をになっていた。ＹＭＣＡ体育史をみると、「近人　文弱に流れ　そのための気乏しきを矯正するため　宗教の力と相まって体育の必要を感じ　近頃有志相計り，大阪体育会なるものを組織し　青年館内の庭園にて毎日快活なる運動をなし……」（基督教新聞）[①]の記事もみられる。

大阪ＹＭＣＡは、1886年に大阪体育会を設立した。その後、スポーツ面での啓蒙としては、1905年クロッケー初紹介後、バスケットボール（1909年）、バレーボール（1914年）、ボーリング（1916年）、バドミントン（1928年）等[②]があげられる。これらの普及には、大森兵蔵、宮田守衛、山本邦之助、および北米より来日したフランクリン・Ｈ・ブラウンが活躍した。

1917年、やがて体育スポーツの普及の展開に重要な役割をもつわが国初の総合室内体育館が東京ＹＭＣＡに建設された。その規模と内容は、つぎのようなものであった。温水プール、ボーリング場、シャワー、バス、オーク張りの広大清潔な運動場を有し、当時800名の会員が、2,000名に達したほどであった。

大阪ＹＭＣＡにおいても、1925年W.M.VORIES Company の設計によって大阪ＹＭＣＡ会館が建設された。鉄筋コンクリート５階建の建物のうち、体育関係の施設としては、３階に室内体育場、運動衣預かり室、特別体育室、ロッカー室、風呂、シャワー、医務室、主事室、４階に観覧席、５階にハンドボールコート、屋上運動場が設けられている。この建物は、第二次世界大戦にものこり、1982年まで使用されていた。建物、備品ともアメリカの強い影響をうけていたが、とくに、医務室が体育館に併設されていたことは、体育活動を運営する上で大きな意味をもっていたと考えられる。昭和初年から、医務室で週１回永年にわたって診療をつづけられたのは、緒方準一博士であった。また、この施設の中には、機械運動器具、今でいうチェスト・ウェイト、肋木、自転車エルゴメーターに似かよった、２連式で２名のものが並び、同時にスタートしてスピードと時間をきそいあうようなトレーニングマシーンがあったことには、おどろかざるをえない。

第二次大戦までは、体育普及のために、Ｆ・Ｈ・ブラウンやＳ・ライヤンなどが体操・鉄棒・平行棒・ジムナスティクダンス・フォークダンスなどの講習会を開催し、これらの講習会をとおして多くの体育の指導者が生まれ育ち、体育は大きな進歩をしてきた。

第二次世界大戦後、施設・指導者の不足にもかかわらず、徐々にスポーツやハイキング等のレクリエーション活動は盛んになり、新しい時代をむかえてスポーツの大衆化が進行した。

諸外国においては、西ドイツのゴールデンプラン（1960年）、ノルウェーのトリム運動（1967年）が国策としてスタートした。そして、新しい時代の欲求として、競技スポーツではなく健康のためのスポーツ活動、いわゆる「Sport for all」が展開されている。

社会現象としては、高度に成長した工業化社会の中にあって生活環境が急速に変化し、身体活動の低下、精神的ストレスの増大、成人病の増加にともなう半健康人が多くなり、いわゆる運動不足病が蔓延したことがあげられる。

1962年に来日したスタインハウス博士によって紹介された「フイットネスの理論」にもとづき、「弱くなりつつある現代人」に対しての健康問題について、ＹＭＣＡでのあらたなとりくみがはじまった。大阪ＹＭＣＡは、1964年11月より、体育のにがてな子供たちのための「体育が好きになる教室」を開設した。このプログラムは、少年Physical Fitness Class と呼ばれ、社会に多くの反響をおこした。戦後、生活も安定してきた中で、社会生活のひずみが子供たちの心と身体をむしばんでいたことが明確となり、多くの研究者の協力をえて、プログラムづくりの努力がなされ、それはさらに幼児体育教室へと発展していった。

身体活動を通しての積極的な健康づくりは、体育の指導者のみならず、心理、医師、栄養、発育発達等多くの専門家の協力があってこそ成り立つもので、その上に子供の体育活動が運営されなければならないことが理解されるにしたがって、体育に科学的にとりくむことが新しい歩みとして育ってきたのではないかと考えられる。

＊

アメリカでは、ＨＥＡＬＴＨ⟶ＦＩＴＮＥＳＳ⟶ＷＥＬＬＮＥＳＳと、健康についての新しいとりくみ方が生まれてきた。ＷＨＯは、健康を「単に病気や虚弱でないばかりでなく、肉体的、精神的、社会的に完全に良好な状態をいう」と定義している。この考え方をもう一歩進めて、「肉体的、精神的、知的、情緒的、社会的という多面的な存在としての人間を、より望ましい状態へ高めること」、またその過程、生き方をめざしていくということがＷＥＬＬＮＥＳＳと考えられる。ＷＥＬＬＮＥＳＳとは、価値観であり、ライフスタイルの変革であるといえる。つまり精神的、情緒的な健康状態、知的な生き方、運動面や生活習慣、生活環境への配慮、ストレス、栄養、病気や安全に対する知識や見直しをし、よりよい人生、よりよい生き方をめざすことであると考えられる。

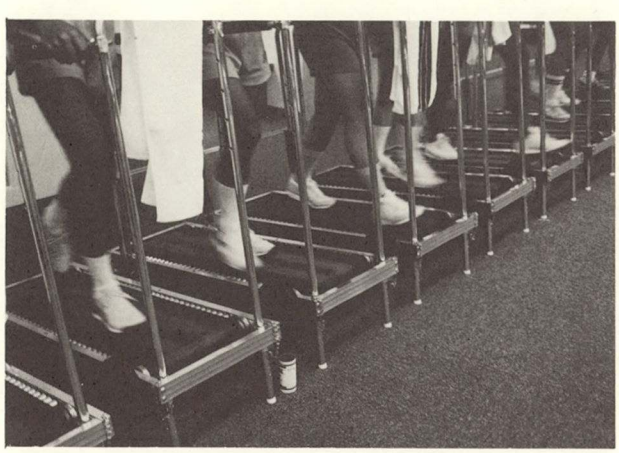
健康づくりに関する価値は、今も昔も変わりがないと思うが、社会環境の変化の中にあって、よりよい生き方を探求することによって、よりよい健康状態が生まれると思う。積極的な意味での０才～100才歳健康づくりの運動こそ、これからの社会の課題と考える。

参考文献　①日本のＹＭＣＡ－100年の歩み－　日本ＹＭＣＡ同盟
②ＹＭＣＡ略年表　〃

（せと　としお　大阪ＹＭＣＡ体育研究所所長）

健康づくりの戦略

フィットネス産業の展望
●
都市ホテルの健康戦略
●
イベントを契機とした都市経営
●
自治体のスポーツ振興・健康づくり施策



フィットネス産業の展望

牧川　優

ここ１～２年のアスレチック、ヘルスクラブの開業ラッシュは予測をはるかに上回った。このことが、一時期を風靡したボウリングのようなブームであるのか、現代社会の必然性の上に不可欠のものであるのかを知ることが、この産業の展望となるために、現在までの経過を追ってみたい。

健康、スポーツブームの動き

高度成長の末期の昭和47～48年頃、ポストボウリングとして、健康産業（会員制のスポーツクラブ事業）が、未来産業、成長産業としてマスコミの脚光を浴びた。その理由は、当時、アメリカではヘルスクラブが全米各地に急速に伸びているときでもあり、ボウリングのつぎのブームとはやしたてたためであった。そのために、大都市を中心に会員制スポーツクラブが各地にオープンした。しかし供給者（経営者）側の思惑とは相反し、需要者（市民）のニーズは低く、金を払ってまで運動するという意識やクラブに対する意識も低く、会員も計画どおりに集まらず、大半のクラブは経営難に陥った状況であった。さらに、昭和48年末のオイルショックがブームに水をさし、低成長期に突入するや、レジャー関連支出も大幅に減少し、経営の悪化に拍車をかけた状況であった。

しかし一方、オイルショックの、国民に与えた意識の変化には、注目をせざるを得ない。個人の置かれている立場、健康問題の再認識、環境・公害問題の提起、また従来の金銭消費型のレジャーから時間消費型レジャー（スポーツ活動ほか）への移行等、現在の健康、スポーツブームの基盤を作ったといえるであろう。

オイルショック以降、健康・スポーツブームが全国に徐々に広がり、昭和50年頃にはジョギングブームとなり、各地で市民マラソン大会が開催されるようになった。その中でも青梅マラソンは、昭和42年の第１回には参加者がわずか百数十名であったのが、今や参加申し込みが殺到し、15,000名に制限せざるを得ないほどの一大スポーツイベントに成長した。また、昭和53年頃からスイミングスクールがブームとなった。これは、団塊の世代の二世がスイミングスクールの適齢期にさしかかると同時に、必要性が認知されたことと、事業としての方法が確立されたためであった。その結果、急速な勢いで全国各地に波及し、昭和55年のピーク時には 110 ヵ所のスイミングクラブがオープンした。また、同時期にテニスにも火がつき、テニススクールもブームとなった。主役は主婦やＯＬであり、既存のテニスクラブの活性化、ボウリング場の転用として実施され、急速に広がっていった。しかし、当然のことながら両者とも過当競争に突入し、今後の生き残り策が各クラブで真剣に検討されていった。

アスレチック、ヘルスクラブ事業の見直しと現況

このような環境の中で、再びアスレチック、ヘルスクラブ事業が見直され、第二次のブームがおこり始めてきた。この理由として、①先発企業の中には、ドゥ・スポーツプラザのように黒字のアスレチッククラブが増えてきた。

②スイミングスクール業界が、過当競争下での生き残り策として、アスレ、ヘルスクラブ事業との複合化を検討していた。
③スポーツブームが定着し、需要が顕在化してきた。
④アスレ、ヘルスクラブの経営ノウハウが蓄積されてきた。
⑤大手企業が、多角経営の一環、遊休地の有効活用として、アスレ、ヘルスクラブの事業の可能性を認めだしてきた。
等々であった。

このような状況の中で、昭和56年は全国各地で11ヵ所、昭和57年は26ヵ所、昭和58年には、南海電鉄のシティ・スポーツ・すみのえ、スイミングスクール運営会社の大手のセントラルスポーツがウィル・セントラルフィットネスクラブを、㈱ピープルがユナイテッドスポーツクラブエグザス青山をオープンし、節目となる年となり、全国各地に40ヵ所オープンした。このように、年々倍増を続け、昭和59年には、明治生命のスパ白金、西武流通グループのリボン館、エグザスチェーン、ウィルセントラルチェーン、ダイエーレジャーランドチェーン等、全国各地に114ヵ所オープンし、スイミングスクールのピーク時と肩をならべる開業数となった。また、本年に入っても、仙台ではキリンビールの工場跡にキリンスポーツクラブ仙台、銀座に三井不動産の健康倶楽部ギンザ等がオープンし、大阪ではオキシー阪急、近鉄の都ヘルスクラブ、さらにグンゼ工場跡に西武のショッピングセンターとならびグンゼスポーツクラブがオープンすることになった。また千代田生命が杉並区に、資生堂が六本木に予定しており、大企業の進出が次々と控えている状況である。

第二次ブームの特徴

つぎに、ここ数年のブームの特徴についてのべてみたい。
①大企業の進出：大企業が自社の遊休地を活用し、この業界へ進出してくることは、既存の中小クラブへの影響は非常に大きく、既存のクラブとしても過当競争下での生き残りに備えての対応が必要となってくるであろう。
②スイミングスクール運営会社が、スクール業界内での生き残り策としてこの業界に進出してきた。
③チェーン展開が始まってきた。
④新規オープンクラブの施設的特徴
・二極化の傾向：大企業の大型施設と、チェーン展開している企業の小規模施設とにわかれてきている。
・59年にオープンした114ヵ所中、ジム単体、もしくはスタジオを備えた小規模クラブが約70ヵ所を占めており、全体の60%強となっている。また、スタジオを付帯したクラブが約80%もあり、ジム＋スタジオが標準パターンとなっている。この傾向は、女性をメインターゲットと考え、エアロビクス人気をあてこんだものであろう。
・ジム＋スタジオの小規模クラブの場合、商業ビルのフロアを利用して開設できるので、設備投資、ランニングコストとも少なくてすむ。そのために、人の集まる、繁華街の好立地であれば会員が多く集まり、高収益体質となる。また逆に、会員が集まらないときでも撤退は容易であるため、この種の事業には参入しやすい。このことが59年オープンしたクラブの大半を占めた理由であろう。
・ラケットボールコート付帯のクラブも59年度には14ヵ所あり、徐々に全国に浸透していっている。
⑤新規オープンクラブの運営面での特徴
・大衆指向、女性指向のため低料金。
・低料金のため、入会しやすく、退会しやすい。
・期限付きの短年度会員制度が中心。
・月会費を収入の柱としている。
・大型スポーツクラブの場合、会員制とスクール制の複合運営形態が多く、料金も若干高額であり、永久会員制を採用している。また、法人無記名の会員制を採用するクラブもあり、総合的な運営により、収益体質の強化を図り、競合施設との差別化を明確にしてきている。

フィットネス産業の展望

つぎにこの業界の今後の展望についてのべてみたい。

一般社会人の健康問題、高齢化社会、余暇社会への対応、文化水準の向上、価値観の変化等により、健康、スポーツへのニーズはますますたかまり、今後も施設はふえていくものと思われる。

スイミングクラブ、テニスクラブ、ゴルフクラブにしても過当競争といわれながらも、ボウリングのような異常な過熱と急激なおちこみはなく、健康・スポーツブームにささえられ、一定水準を確保している。これらに比べて、フィットネス産業は、時代の要請とともに、対象も広いために、今後の発展は期待できると思われる。しかし、現状の問題点をクリアにしなければ、長期的な安定的な発展はのぞめないので、ここ1～2年のクラブ開業ブームの問題提起という形で本稿を終わりたい。

●現状の開業ブームへの問題提起

①安易な進出：小規模クラブの場合、商業ビルのフロアを利用して開業でき、イニシャルコスト、ランニングコストとも、さほどかからないために、ブームにのりおくれまいとして安易にこの業界へ進出してくるケースが多い。無意味な過当競争はさけたがよいと思われる。

②施設がワンパターン化：ジム＋スタジオが標準パターンになりつつある。この傾向は一部成功しているクラブのコピーであり、若い女性を主なターゲットとし、エアロビクス人気をあてこんでいるものと思われる。ターゲットを絞りこんでいるために、若い女性の集まりやすい都市の繁華街立地では成功しやすいが、地方での運営はまだ困難と思われる。立地に応じたクラブの特色づけが必要となってくるであろう。

③ハード先行のソフト不足：急速なチェーン展開による指導スタッフ不足。成功しているクラブのコピーを建設業者やトレーニングマシーン販売業者によって作ってみたものの、運営、指導スタッフ、システムが十分になく、運営に支障をきたすケース。

④過剰投資：5億の投資が事業の適正規模にもかかわらず10億投資したケース。人口10万の都市に19億の建設コストをかけたケース等、往々にある。これらのクラブは、今後の経営で非常な苦戦をしいられるであろう。

⑤立地条件の無視：この産業がブームとなり、花形産業、未来産業としてマスコミに取り上げられると、のりおくれないようにと、いそぎ参入するケースがでてくる。十分なマーケットリサーチを行わずに、自社の遊休地にクラブをつくるケースもある。この事業は日常生活圏型であり、周辺人口の有無がポイントである。非日常生活圏や、リゾート圏での経営は、まだまだ困難といわざるを得ない。

以上のように、アスレ、ヘルスクラブ事業はブームとさわがれているが、数多くの問題点を内在している。基本的な開発計画、運営計画を行わない限り、今後予測される淘汰時代での生き残りは難しいであろう。

最後に、この業界は現時点では施設提供産業であるが、今後は、時代への対応とともに、ソフト産業へと発展する余地を大いに内在していると考えられるし、また、この方向にすすむことが今後の発展につながっていくと思われる。

（まきかわ　まさる　日新製糖株式会社余暇開発本部ドゥ・スポーツプラザ企画管理部）

エグザス

長峰 登

従来のヘルスクラブは、40歳代の男性を中心客層とし、拠点型で、どちらかと言うと重装備の施設づくりをした施設が大半であった。したがって料金設定も比較的高額で、一部の人のためのパーソナル対応型と言える。ユナイテッドスポーツクラブ・エグザスは、20歳、30歳代の男・女性を主力ターゲットとして、だれにでも、気軽に楽しくトレーニングしていただけるようにと創られたスポーツクラブであり、人々の行動形態に合わせて、チェーン化展開をしていこうとするものであり、現在全国に26ヵ所を営業している。施設づくりは、シンプルを基調にした、ターゲット感性の好みの色調を標準化している。

（ながみね　のぼる　株式会社ピープル開発部）

エグザス エックスワン 原宿





設計監理：エグザス スタッフ、フォルテ建築設計事務所

日本エアロビクスセンター

布施木信之

日本エアロビクスセンターは、一般のフィットネス産業とは、ちょっと趣が異なっている。フィットネスとか健康産業という言葉が一般化する以前の昭和51年に、〝健康・教育・文化を育む生命の森〟建設計画（健教都市構想）から始まったもので、その業態探求の結果が、〝世界で最も信頼性の高い健康医学を築きあげた〟と言われるケネス・H・クーパー医学博士と、業務提携する日本エアロビクスセンターの設立となったわけである。

したがって、未だ一部分の完成であり、これから教育の面、文化の面、そして滞在型のレクリエーション施設開発などを手がけ、それらが完成したときに、はじめて全容がかたまることになる。言ってみれば、人間リサイクリング環境システムと言えるような施設づくり・ソフトづくり構想、「人々が不健康な都会から離れて、美しく整備された自然の中で心身共に蘇り、健康や自己学習に自由に行動するための場」をつくることが最終目標である。

しかし、ある意味では、やはりフィットネス産業であるかも知れない。そして立地タイプ別にみれば、市街地型、郊外型に対してリゾート型（滞在型）になると思う。今は市街地型や郊外型に人気が集中しているが、1990年に近づくにつれ、余暇時間の増大と高質化の高まりが一段と強くなって、人々は都会文化を田園に持ち込んでくるようになると私たちはみている。現在、すでに充実余暇・健康レクが叫ばれ、企業内総合福祉の達成がクローズアップされてきていることからも、それは自明のことと考えている。

したがって今、こういったものの火つけ役をかって出ているのであるが、この需要創造にはかなりの手ごたえを感じている。とくに企業における職場ぐるみの利用、たとえば職場健康・スポーツ大会や健康・レク研修、また中高年者のリフレッシュ休暇、クリエイティブ休暇といった長期滞在型のものが増えてきている。個人利用についても、徐々にではあるが新しいタイプのリゾートとしての理解が広まってきているという実感がある。

長年にわたってつくりあげてきた自然、数十万本の花木とさまざまな草花、そして深い緑、これらの美しい自然を縫って走るモミの木皮チップ路面のフィネンバーン・10kmジョギングコース、湖を思わせる全長130mラク・レマン・プール、こういった全体環境に調和させて、総合的健康・スポーツ施設日本エアロビクスセンターはつくられた。さらに加えて、クーパー博士の健康医学ソフトなどが一体をなしたものとしてとらえていただければ、その性格と強み弱みが判然としてくるだろう。

現在は千葉外房有料道路が開通し、都心より車で1時間弱という立地に好転したので、利用者数の上昇カーブは来年あたりから高まってくるものと考えている。

（ふせぎ　のぶゆき　日本エアロビクスセンターマネジメント・コーディネイター）

都市ホテルの健康戦略

舛田英樹

ホテル経営の成功、不成功に関わる重要ポイントとして、商品計画がある。ホテルの建物・設備の質（設計、素材、設備等の質）が、たとえ高品質であっても、市場のニーズ、社会的レベルのニーズ、競合ホテルとの差別化、対象とする顧客の明確な設定等が、商品計画の中に反映されていないホテルは、ホテル投資そのものが危うい。

今日、都市ホテルの商品計画を考えるとき、従来のホテル機能である宿泊、飲食、宴集会の三機能の中での検討だけではなく、これまで、それら三機能を補完する付帯機能であった文化、レジャー、スポーツ、健康、ショッピング、ビジネス機能等が、ここ数年前より急速に一個のホテル商品として確立されてきており、商品構成計画の上で、それら新分野商品をも十分に検討の対象にせざるをえない状況になってきた。

都市ホテルにおいて、文化、レジャー、スポーツ、健康、ショッピング、ビジネス機能等の新分野商品の育ってきた背景は、つぎによるだろう。

(1) 地域開発の核施設として、必ずと言ってよいほど、ホテルが組み込まれていることでも証明されるように、都市ホテルの機能が地域の円滑なる商業活動に、また地域住民のより豊かな生活のための都市機能として、必要不可欠に近い存在になってきた。別の言い方をすれば、都市ホテルは、都市生活に必要な社会的機能の一部を、分担せざるを得ないところまで、都市において、その存在を大きくしてきたと言えよう。

(2) (1)と表裏の関係になるが、昨今の乱立するホテル建設ブームの中で、各ホテルは、いかに他競合ホテルと差別化を計るか、また、いかに自らのホテルがより多くの付加価値を生みだすかという命題の解決を新分野商品の中に求めたことも、都市ホテルにおいて、これら商品が急速に成長した理由でもある。

このようなわけで、今後の都市ホテル経営は、営利性の高い機能、公共的性格の強い機能とを、いかに上手に組み合わせて、ホテル全体として高収益体質を計るかという、高度の営業戦略が要求されてきた。

都市ホテルの商品構成計画の中での〝健康関連〟

以上のような状況の中で、今日、ホテルの新築・改築・増築を計画している経営者、プロジェクト担当者にとって、前述の新分野商品の中から新商品を開発し、その導入を計りたいと考えたとき、最近とくに検討の俎上に乗るのが、〝健康関連〟であろう。

最近のわが国における健康ブームは、目を見張るものがある。これは、国民の生活の中の時間的、経済的余裕の現れとも言えるが、現在、全国のフィットネスクラブの施設は、約290ヵ所といわれており、昨年1年間で約100ヵ所の施設が開業した。このブームは、〝健康〟〝長寿〟という人間の基本的欲求に根ざしているがゆえに、単なる一過性の流行で終わることなく、フィットネス産業はさまざまな業種、業態を生みだしながら、今後とも発展、成長を続けていくだろう。

このような社会的ニーズ、傾向に都市ホテルとしてどのように対処すべきかということは、今後のホテル経営において、大変、重要なテーマである。

フィットネス施設の持つ特性は、運営のソフトを別にすれば、都市ホテルの特性と大変似ているところがある。

(1) 立地産業である。

(2) 装置産業である。

(3) 接客サービス業である。

以上の特性は、都市の中心部に位置する都市ホテルの特性の一部と重複しており、フィットネス施設の導入面において、他産業に比べ、利点を有しているとも言える。

ホテル業界においても、ほんの一部のホテルではあるが、十数年前よりすでにホテルの一商品として、会員制ヘルスクラブという形でフィットネス施設を持っているホテルはあった。しかし、それらの大半はデラックスな施設作りにウエイトがかかり、会員の健康管理システムのソフト面においては必ずしも十分とは言えなかった。

しかし、社会的に健康管理に対する認識、知識、ニーズが増大し、それに対してさまざまの業種、業態のフィットネスクラブが発生しつつある状況の中で、それら専門施設との差別化から、ホテルのフィットネス施設も、明確に、運営基本方針とホテル全体の商品計画の上での位置付けを打ち出す必要性がでてきた。

都市ホテルのフィットネス施設の方向づけ

そこで、最近の都市ホテルのフィットネス施設は、テナント方式は別として、直営施設について言えば、若干の表現の違いはあっても、およそつぎのようなアウトラインで方向づけが固まってきたのではあるまいか。

(1) 対象客を中高年の男女に絞り、会員制とし、男性7、女性3程度の割合とする。理由はつぎによる。

(イ)会員、利用者を、ホテルの他の宿泊、飲食、宴集会施設の利用客としてつなげたいため。中高年の、とくに男性は一番その可能性が高い。

(ロ)フィットネス施設は、ホテル建物の一部に組み込まれているため、土地、建物設備等、イニシアルコストが大変高い関係上、会員から高額の入会金、保証金、年会費を集めねばならず、その支払い能力のある層にターゲットを絞る必要がある。

(2) フィットネス施設の基本運営方針は、フルサービス型の会員制ヘルスクラブであり、対象客が中高年であるので、会員個々の体力に合わせ、個別管理による、エアロビック健康法（有酸素運動健康法）を基本運営方針とする。

(3) ホテルの営業戦略上、ヘルスクラブを持つ目的を、つぎの項目を第一目的にする。

(イ)ホテル全体としての付加価値の向上。

(ロ)他の営業施設への収益面での貢献。

(ハ)常に活性化している顧客の組織化。

(ニ)営業企画面での組み合わせの効果。

上記目的を崩さない範囲でヘルスクラブとしての営利性を追求し、場合によっては、ある程度の赤字は、覚悟する。『損して得とれ』を基本戦略とする。ただし、中高年のヘルスクラブとして、品質的に『本物』を提供する。

以上のような方向づけが、今後のホテルの主流となろう。

九州地方の某都市ホテルの事例であるが、このホテルは、年間約



博多全日空のジム



体力測定機



電動スライドのスカイドームプール

40億円の売上のうち、約4億円がヘルスクラブ会員および利用者が、ヘルスクラブ以外の宿泊、飲食、宴集会施設で消費した額であるという。この売上からくる利益は、ヘルスクラブの赤字を埋めても余りある額であったという。まさしく、『損して得とれ』の目的と結果が一致した事例と言えよう。

また、中国地方の某都市に、健康管理のソフトを有しているという点ではわが国でも最上級に属するホテルヘルスクラブがある。このホテルヘルスクラブは、クラブ単独収支において初年度より黒字経営と聞く。『損して得とれ』が、『得して得とれ』の数少ない事例である。この事例は、高品質の商品に対しては、それなりの対価を支払っても惜しくはないという昨今の社会的傾向を享受した一例であろう。

『本物』の健康商品の開発を

都市ホテルにとって、健康というテーマは今後ますますホテル経営において重要性を増すだろう。

しかし、フィットネス面における先発ホテルが、健康を中高年対象の会員制ヘルスクラブという業態で導入して十数年経たが、二、三の例外は別として、既設クラブの大半は、まだまだ黒字経営までは至ってない。だが、ヘルスクラブ導入により、ホテルの基本的施設である宿泊、飲食、宴集会部門の収益の増大は、数多くの事例が証明している。

いずれにせよ、都市ホテルにとり、健康戦略は今、まさに、やっと幕が切って落とされたに等しく、今後の都市ホテルにおける健康戦略は、地域中高年対象のフルサービス型ヘルスクラブの導入という形態で、また、クラブそのものに営利性を求めるよりも、他営業部門への収益上の貢献を目的とする従来路線は、主流として発展しながらも、市場性、ホテルの性格、競合ホテルとの差別化等から、今後さまざまの健康戦略が、商品開発されていくだろう。

しかし、開発された健康商品のいずれもが、単なる流行の表層をなでたものではなく、地域社会に支持される、『本物』であることが、都市ホテルにおける健康戦略の最重要ポイントである。

（ますだ　ひでき　第一ホテルシステム株式会社開発部長）

都ホテル大阪

小西　捷司

続々と現出する一流といわれる新設ホテルには、必ずといってよいほど附帯施設として「ヘルスクラブ」が見られるということ。これはホテルがたんなる「もてなし」の場の提供というだけにとどまらず、今少し積極的に現代人の肉体、精神の深層部分に介入し、従来のホテルでは味わえなかった充足を与えるというプログレッシブな面を具備することが必要で、その明らかな結論の一つではなかろうかと考える。

この10月3日開業の「都ホテル大阪」が直営する「都ヘルスクラブ」もその例にもれず、関西でも数少ない本格的なクラブとしてデビューすることとなった。かつての運動機械に頼る無機的な雰囲気を極力排し、人と人との触れあいを大切にした気軽な社交の場を目指している。

「シェイプアップルーム」では会員の体力に応じたきめ細かいプログラムを駆使し、無理なく運動を継続できるように考えている。とくに「室内温水プール」はわが国では最大級の規模で、ドーム型の天井はアウトドアー感覚の天窓開閉式を採用し、プールサイドはグリーンやカラフルな草木を多く配し、楽しさづくりに留意している。また「ラケットボール」は今アメリカでブームを呼び、国内で徐々に人気の出てきた知的スポーツで、ストレス解消やシェイプアップに大変効果的である。運動後は「サウナ・浴室」でさっぱりと汗を流し、その後はゆっくりと休める「メンバーズラウンジ」や、プール、ラケットボールコートを見おろしながらくつろげる「ティーラウンジ」等、斬新で充実した内容の諸設備を揃え、「くつろぎと楽しみのある健康づくり」の場を提供しようとするものである。

今後フィットネス産業がホテル同様、私達の生活の中に定着し、文化の中核として捉えられる日もそう遠い先の話ではないと確信する。

（こにし　しょうじ　株式会社都ホテル大阪事業部長）

都ヘルスクラブ施設概要

建設場所　大阪市天王寺区上本町6－1－55　都ホテル大阪東側棟
構造規模　鉄骨2階建、延面積3200㎡
施設内容　室内温水プール(25m×6コース)、ラケットボールコート(2面)、シェイプアップルーム、サウナ・浴室・マッサージルーム、メンバーズラウンジ・ティーラウンジ



イベントを契機とした都市経営—ユニバーシアード神戸大会

宮岡寿雄

神戸市の都市経営が注目されるようになって久しい。市民福祉の向上、住みよい都市づくり、産業・文化の振興など行政本来の業務は、都市経営の手法により、水準以上に維持している。しかし、最近は、1981年のポートピア'81の成功で、商売上手な〝神戸市商法〟とか、〝神戸市株式会社〟とかよく言いはやされる。確かに、高速鉄道、ポートライナー、ロープウェイなどの運輸業、ビル経営、駐車場などの不動産事業、ショッピングセンター、地下街の経営、ホテル、ゴルフ場、海づり公園、農業公園などのレジャー施設の運営、神戸ワインやウォーターの製造・販売など多くの事業を外郭団体や第三セクターで行い、収益を上げている。また、イベントも外郭団体主体で行うのが多い。他の自治体では、このような例が少ないので、神戸の例がマスコミにたびたび登場し、話題を呼ぶことになる。

都市経営の基本理念は、「最小の市民負担で、最大の市民福祉の実現」である。それを実践するため、公共デベロッパー、起債主義、基金造成、外郭団体の活用などの手法をとっている。公共デベロッパーとしては、住宅団地、都市機能用地や工業団地を造成し、道路、地下鉄などの交通網を整備し、生活基盤施設など社会資本の充実に努めている。また、医療、文化、スポーツ施設などを整備して付加価値を高める総合的な街づくりを進め、地下鉄沿線の双方向需要の創出をはかっている。イベントをそれらの施設を利用して開けば、観客輸送、利用率にも寄与することになる。

神戸市の都市経営の柱となるのが、この公共デベロッパーである。それを進めていく底流には、神戸の産業構造を多機能なものに変革していきたいという考えがある。従来の港湾や鉄鋼、造船中心の産業構造を、経済のソフト化、サービス化、情報化、ハイテク化に対応した多種多様な機能をもつ都市にすることを目指している。街にいろいろな顔を持たせようということである。世界有数の国際貿易港の「国際港湾都市」、ハイセンスあふれる「ファッション都市」、国際交流の活発な「コンベンション都市」、ポートピア'81で賑わった「イベント都市」と多種多様の顔を持つようになってきた。今回のユニバーシアード神戸大会を契機に「スポーツ都市」を新たに加え、そのイメージを定着させたいと思っている。

スポーツイベントを都市開発戦略に

今年8月24日（土）から9月4日（水）の12日間、17会場で10競技120種目の熱戦が繰り広げられた。学生のオリンピックといわれるユニバーシアードは、神戸大会で13回を数え、日本での開催は、1967年の東京大会に次いで2回目である。東京大会は、分裂国家の呼称問題でこじれ、社会主義国が参加せず、最近のオリンピックと同じような片肺大会で、34か国、1300人の参加規模であった。神戸大会は、106か国、4,796人の参加を得て、ユニバーシアード大会史上、最大で、かつ最高の大会となった。参加国の過去最高は、1979年のメキシコ大会の88か国、参加人数では1977年のソフィア（ブルガリア）大会の4395人が最高であった。神戸大会はこれらを上回り、東京オリンピックの94か国をこえ、日本で開かれる大規模な国際スポーツ大会としては、今世紀最後ではないかといわれている。

神戸大会は、スポーツの世界に政治が介入せずに、東西の世界、南北の国々が、イデオロギや経済問題をのりこえて、多くの若者が参加するスポーツの祭典にしたいと願った。競技の面でも、各国とも一流選手が参加して、モスクワやロサンゼルスのオリンピックでは見られなかった「東西対決」が実現した。また、神戸大会は、カジア太平洋地域での国際スポーツ大会の先駆的な役割を与えられている。1986年のアジア大会、1988年のオリンピックといずれもソウルで開催されるし、1999年の北京アジア大会と、神戸大会を参考にと多くの調査団が送られてきた。

神戸市は、4年前のポートピア'81と同じように、ユニバーシアード神戸大会を都市づくりの推進力として活用している。文化的行事の博覧会とスポーツのユニバーシアードとはイベントの内容は異なるが、都市開発戦略としては共通している。交通網の整備、スポーツ・文化施設の充実、公園・緑地の整備などイベント開催に合わせて事業を進めてきた。ポートピア'81では、ポートライナー、港湾幹線道路、ポートアイランドの各施設—国際会議場、国際展示場、屋内水泳競技場、下水処理場、公園、遊園地等が完成し、大きく役立った。今回のユニバーシアードでも、交通網、スポーツ施設、住宅、商業施設、公園などの整備が進んだ。

交通網では、市営地下鉄の延長工事がある。従来、西神線（名谷—新長田＝5.7キロメートル）、山手線（新長田—大倉山＝4.3キロメートル）の営業であったが、今年6月、山手線（大倉山—新神戸＝3.3キロメートル）、西神延伸線（名谷—西神ニュータウン）の名谷—学園都市間＝3.5キロメートルが開通した。そして、都心の新神戸・三宮から選手村となる研究学園都市まで開通し、観客の大量輸送機関としての大役を果たした。また、市が開発した須磨ニュータウン、西神ニュータウンが、20分余りで都市部と直結することになった。延伸線の残りの区間は、61年度開通予定で工事が進められており、62年には建設中の北神急行と相互乗り入れが行われ、神戸の西北部地域の交通機能が向上する。

道路では、山麓バイパスが昨年11月開通したので、市街地の東西交通が緩和しただけでなく、開発の進む西北神地域との自動車交通も円滑になり、20分足らずで都心とニュータウンが結ばれた。六甲山系の南の山麓部に建設した延長8.9キロメートルの有料道路で、橋とトンネルの部分が多く、山陽新幹線の神戸トンネルと地中で交差するため、難航した工事個所は新しい工法の採用で乗りきった。その他競技会場付近の道路も整備し、その一部は陸上競技の華とい



われるマラソンコースとして利用されている。

神戸大会に参加した約4000人の選手、役員の宿舎となった選手村は、市が造成中の研究学園都市に建設している公営住宅、公団住宅、公社住宅の773戸が利用された。１ＤＫから４ＤＫの住宅に、戸当たり４～９人が入ることとなった。選手村のサービス施設として、食堂、ショッピングセンター、理美容、銀行などを設けたが、この施設も商業施設ビルを転用して使う。また、選手村本部やレクリエーション施設は、来春移転してくる神戸市外国語大学の学舎を利用した。

新設の競技施設は、17会場のうち４会場である。昨年10月、神戸総合運動公園に陸上競技場とテニス場が、ポートアイランドにポートアイランドホール（ワールド記念ホール）がそれぞれ完成した。陸上競技場は、陸上競技のほか、開会式、閉会式の会場となる。第一種公認全天候型トラック400メートル、フィールド芝生、補助グラウンドもほぼ同規摸の競技場で、国立競技場に次ぐ６万人の観客が入れる。テニスコートは、硬式、軟式にも使える全天候型人工芝コートで16面あり、公式大会からファミリーの利用までできる。ポートアイランドホールは、体操、バレーボールの会場となった。このホールは、屋内陸上競技の機能を持つほか、国際会議、見本市、ショーや音楽会の会場としても利用できる多目的ホールで、音響、照明などにも工夫がこらされ、各種イベント、コンベンションに対応できるようになっている。今年の６月、柔道とバレーボールの会場となった兵庫県立文化体育館が、市内の長田区に完成したので、新設会場はすべてととのった。その他の13会場は、若干の補修や化粧直しを済ませ、準備万端とどこおりなくととのえて、ユニバーシアード大会を迎えた。

イベントは都市活性化への起爆剤

このように、ユニバーシアード神戸大会を契機に、スポーツ・文化施設や関連公共事業を一気に整備できることの効果は大きい。イベントを行うことにより、関連事業を整備、促進する例は、スポーツでは東京、札幌のオリンピックや国民体育大会がある。博覧会では、大阪万博、沖縄海洋博、つくば科学万博の例がある。神戸では４年前のポートピア'81が好例である。

イベントの開催により、景気、産業、文化などの振興をはかることができ、都市の活性化への起爆剤にもなる。神戸大会の経済効果について、太陽神戸銀行調査部が調べた数字では、大会関連公共事業および大会参加者、観客などの消費支出から誘発される生産額は6259億円、所得増加額は2640億円、雇用増加は４万６千人となっている。また、第二次波及効果を含めると１兆3560億円の生産誘発額で、所得増加額6289億円、雇用増10万３千人となる。ポートピア'81の経済効果は、三菱総合研究所の調査で、生産誘発額は約２兆円、所得増加額6973億円、雇用創出効果14万８千人となっており、神戸市を中心とする近畿圏、全国の経済へ与えた影響も大きかった。ユニバーシアード神戸大会も地元への効果は大きい。

国際スポーツ大会であるユニバーシアードを神戸で開くことは、国際都市神戸のイメージアップにつながる。各国から多くの大学生が集まり、スポーツや文化活動の国際交流を通じて、相互の信頼を高めることにより、世界平和の貢献にもなる。また、各国の大学生は、将来その国で指導的な立場に立つ人たちである。とくに、発展途上国では若くしてリーダーになる人が多いので、これらの若者との相互理解を深めることは重要である。開催国の日本、開催都市の神戸をよく理解し、認識してもらうよい機会である。今回の神戸大会は、〝山〟の街にできた総合運動公園、その山の土を母体にして誕生した〝海〟の街ポートアイランドの両方がメイン会場となった。このような神戸の街づくりがあるのだということを、世界の若者に見てもらい、それぞれの国や都市づくりの参考にしてほしいと考えている。

神戸市民にとっても、多くの外国の人々を受け入れるホスピタリティを養う絶好の機会となる。外国人との交流を深めることで、親日派、知日派をより多くし、日本を十分理解してもらえれば、いろいろな摩擦の緩和、解消につながる。

ユニバーシアード神戸大会の、民間の力を活用した運営

大会を成功に導くためには、多くの人の協力が必要である。２年前のカナダ・エドモントン大会では２万人、昨年のロサンゼルス・オリンピックでは５万人のボランティアが、大会の運営、通訳、警備、選手村運営などに参加し、裏方として大会を支え、成功に導く原動力となっていた。神戸大会もボランティアの力に負うところが多かった。募集した通訳ボランティアには、５千人の申し出があった。日本では、大勢のボランティアが参加した経験はあまりないので、このような経験を積み重ねることで、必要な時には社会のために尽くすんだという考えを自然に持つようになればと思う。

過去に日本で開かれた国際総合スポーツ大会は、東京オリンピック、東京ユニバーシアード、札幌オリンピックの三つがあり、いずれも国の補助金があって、運営面で大きなウエイトを占めていた。

今回の神戸大会は、政府の財政再建のおりからその影響を受け、運営費についての補助はない。閣議了解で、入場料と民間の募金、協力等で賄うこととされた。そこで大会運営費の資金調達の方法として、ロサンゼルス・オリンピックの企業参加方式―オフィシャル・スポンサー、サプライヤーの制度を導入することとした。民間企業が大会にオフィシャル企業として参加し、大会のシンボルマークやマスコットマーク等を商品広告、商品の販売促進活動や企業イメージ活動に利用する。その代償として、組織委員会に協賛金や商品、サービスなどを提供する。一業種一社を原則にスポーツメーカー、カメラ、フィルム、清涼飲料、時計、テープ、コンピュータ、金融、保険など各業界を網羅している。選手村の理美容やＶＩＰ用乗用車、聖火用ガスなどの提供があった。

ポートピア'81のときに、多くの民間企業や団体の協力で物品やサービスの提供を受けたが、今回はそのノウハウを最大限に生かした。日本の総合スポーツ大会では、最初のオフィシャル制度であるので、各界から注目されていたが、ほぼ予定額を達成できた。

神戸大会はユニバーシアード大会史上、最高の参加国、人員となったが、それには市民や各団体の協力による〝ユニタン募金〟の力が大きい。大会運営費以外に、大会のマスコットの〝ユニタン〟にちなんだ募金活動が行われた。ロータリークラブ、ライオンズクラブ、キワニスクラブなどの団体や一般市民から１億円以上の募金が集められ、発展途上国の選手の旅費や滞在費の援助にあてられた。この制度を利用しての参加国も多かった。

また、スポーツの交流だけでなく、文化交流として、ユニバーシアードフェスティバル、コウベグリーンエキスポを開催し、多くの人が集い、ふれあい、相互理解が深まることを望んでいる。

イベントは、市民のボランティアと企業の社会的協力と行政の公的信用力との結合によって行われるのがベストである。都市づくりを進めていくうえで、その演出を担うのがイベントである。それを進めるに際しても、都市経営手法の外郭団体の活用、民間資本の導入、基金の運用などと、総合的、複合的に取り入れる必要がある。

（みやおか　としお　神戸市助役）

大阪府

スポーツは、私たちの健康・体力づくりに役立つばかりでなく、楽しみ・生きがいづくりや、豊かなコミュニティの形成にとってもきわめて意義深いものであり、生涯を通じて、健康で明るく活力に満ちた生活を営むうえで欠かすことのできないものの一つである。

昭和59年度に、大阪府民を対象に実施した「健康づくり」についての世論調査の結果、府民の90%が自分の健康づくりに強い関心を示していることがわかった。これは、昭和55年度に実施した「体力づくりとスポーツ」に関する同調査結果にみる府民のスポーツ実施希望89.3%とほぼ一致している。

このことから、健康づくりがスポーツ実践の契機となっていることが推測できるが、実際にスポーツを実施している府民は32.9%にすぎない。

府民のスポーツ実践を阻害している最大の要因として身近なスポーツ施設の不足をあげることができる。

昭和55・56両年度に行った府下スポーツ施設調査報告書によると、昭和55年9月1日現在、国の保健体育審議会が定めた規模以上の施設数は491ヵ所で、これは昭和49年に府スポーツ振興審議会が保健体育審議会の示した基準数を参考にして定めた891カ所の約1/2にすぎないことが報告され、スポーツ施設整備の促進を図ることが課題であると指摘されている。

そこで府教育委員会では、昭和57年度から、公立スポーツ施設整備助成事業を創設し、市町村が建設する体育館、運動場、テニスコート、柔剣道場およびプールに対し、また、昭和59年度からは夜間照明施設をも加えて建設費を府独自で助成することにより、整備の促進を図ってきている。

この結果、昭和60年6月1日現在、前述規模の施設は607カ所に増加している。

また、府立体育会館を府下におけるセンター的スポーツ施設としての役割が果たせるよう、各種機能を併せもった近代的総合体育館として、昭和62年2月開館をめざして現在改築を進めているところである。(57P参照)

一方、既存施設の有効活用を図るという観点から積極的に実施している学校体育施設開放事業は、昭和60年度事業対象校数小・中・高校併せて1,131校に増やし、府民が手軽にスポーツを楽しむことができるよう、場の確保に努めている。

(林田昭喜／大阪府教育委員会保健体育課長)

大阪市

大阪市のスポーツ施設については、主として昭和55年3月の大阪市スポーツ振興審議会の答申にそって整備を進めているところである。その答申の概要は、以下のものである。

(1) 総合スポーツセンター施設の建設

各種のスポーツ施設のある大スポーツランドの建設の立案計画と2万人収容の多目的大体育館の建設が急務であること。

(2) 方面体育館の建設

中央部、北部、西部方面に体育館を建設してきたが、未設置の東部、南部方面体育館を早急に建設すること。

(3) 地域スポーツセンターの建設

地域の自主管理を原則とした市民が手軽に利用できるスポーツセンター（体育館）を各区に設置すること。

(4) 既存の体育・スポーツ施設の効果的利用

市立の全学校の体育施設の開放と公園広場の整備、河川敷や高架下の効果的利用の推進。

(5) スポーツ施設の管理機構の整備

スポーツ行政機構を一元化すること。

市立スポーツ施設数の推移

区分＼年度	50年度末	59年度末	区分＼年度	50年度末	59年度末
陸上競技場	1カ所	1カ所	体育館	5カ所	9カ所
野球場、運動広場	35	32	格技場	1	1
球技場	1	1	弓道場	1	1
庭球場	8	10	相撲場	1	1
多目的大ホール	0	1	屋外プール	9	9
身体障害者スポーツセンター	1	1	屋内プール	2	2
			キャンプ場	1	3

答申以後に整備された主な施設として、多目的大ホール（1万6千人収容）1館、地域スポーツセンター3館があり、小・中学校の体育施設開放は開放可能校数のほぼ上限にあたる97%の413校を開放し、年間延べ320万人余の市民が積極的に利用している。

また、昭和62年春完成を目指して2万人収容の球技場や、海浜スポーツの拠点となるマリーナーを鋭意整備中のほか、河川敷を利用したサイクリングロードや遊歩道などの整備を進めているところである。

さらに昭和58年8月に「新しい時代の創造をめざして」大阪市制100周年記念事業の基本構想が発表された。この事業のうちスポーツにかかわるものとして、現在埋め立て工事が進んでいる北港北地区に約100ha の一大スポーツランドースポーツアイランドを整備すること、公園、水道の配水池、下水道処理場などの公共施設を多目的に利用して市民スポーツプラザとして整備することをあげている。

これらは、いずれもさきの答申を具体化する施策の一環として位置づけられるもので、その早急実現が待望されているところである。

最近急速にスポーツが隆盛し、スポーツ行政に対する要請が多い現状をふまえ、今後の課題として、大阪市のスポーツ施設は大都市施設の一環としてどうあるべきかの視点から、答申を含め整備計画を再検討する必要があると考えるものである。

(大阪市教育委員会事務局社会教育部スポーツ課)

神戸市

1868年の開港以来、神戸港は、国際港湾都市神戸の経済の中心であるばかりでなく、外国からの文化の窓口としても重要な役割を果たしてきた。この港を通して、早い時期から登山やゴルフ・テニス・野球などのスポーツが伝わり、市民の間でも行われた。神戸は、日本の近代スポーツの発祥の地でもある。

この夏、神戸では〝ユニバーシアード神戸大会〟が、世界106か国、約4,400人の選手・役員などが参加して開催された。ユニバーシアード神戸大会では、東西南北の国々の多くの若人がスポーツを通して広く国際交流を行った。また、この大会では世界の一流選手たちの白熱した試合が目の前で繰り広げられ、市民のスポーツへの関心は高まった。この大会を契機として、神戸総合運動公園、陸上競技場や神戸ポートアイランドホールなどの国際的なスポーツ施設が建設され、国際スポーツ都市・神戸の整備が一段と進んだ。

ユニバーシアードなどの〝見るスポーツ〟の振興ばかりでなく、一方では、市民みんなが直接参加できる〝するスポーツ〟の施設や機会づくりも行っている。

市民スポーツの拠点づくりとして、1区に1体育館の建設をはじめ、野球場、テニスコートやバレーボールなどのできる運動広場の建設なども進めている。また、身近なスポーツの場として、学校の校庭や体育館・プールなどを市民が利用できる学校開放も行っている。さらに、だれもが気軽に安全に走れるジョギングコースの設置をはじめ、毎日登山や六甲山全山縦走市民大会の開催など、きめの細かい健康・スポーツ施策を進めている。

今後も、国際スポーツ都市として一流の国際試合を神戸に誘致し、〝見るスポーツ〟の充実に努めるとともに、市民が直接参加でき、気軽に健康づくりが楽しめる〝するスポーツ〟の施設や機会の充実も図っていく。

(神戸市市長総局秘書広報部広報課)

自治体のスポーツ振興・健康づくりの施策

事例

都市生活と健康・スポーツ施設



北須磨文化センター

神戸市立 北須磨文化センター

神戸市須磨区中落合３－１

設　　計　神戸市住宅局営繕部営繕課
建築施工　王子、富士、湊建設共同企業体
敷地面積　24,800　㎡
建築面積　3,671.45㎡
延床面積　7,631.13㎡
構造規模　RC造、地下２階、地上３階
竣工年月　昭和57年７月
オープン　昭和57年７月

「須磨」は昔から景勝の地として知られ、また、古典文学にもよくえがかれている歴史のふるさとでもある。この須磨の北部の丘陵地に、昭和30年代中ごろからニュータウン（計画人口11万３千人）の建設が進められ、現在、その大部分が完成している。

北須磨文化センターは、このニュータウンのほぼ中央部、落合中央公園の中に設けられた。

神戸市では、１区１区民センターの構想を持っており、須磨区にはすでに「須磨区民センター」が設置されていた。しかし、北須磨地区は、約９万５千人の人口を抱える大規模団地で、分区の計画もあり、また、落合クリーンセンター(大規模のゴミ焼却場)建設との関連もあって、区民センターと同じ理念に基づき、本館を新設した。

本館には、各種の会合ができる大小会議室、美術・工芸・音楽・料理等の専用室、図書室（585㎡、蔵書数約３万５千冊)、体育館(996㎡、バスケット１面、バレー・バドミントン各３面、卓球12台)、柔剣道室(216㎡)、トレーニングルーム、温水プール(25ｍ、６コース）等が設けられている。広域的公共施設であり、だれでも利用できるが、利用の実態を他の市立文化センター（区民センター）と比較してみると、地域コミュニティ施設としての性格がより強く出ている。立地条件の違いによるものであるが、本館の場合、ニュータウンの居住者が利用者の80％を占めている。

施設別にみると、やはり、体育施設の利用が多く、利用（効）率は100％に近い。各種スポーツの同好者団体による利用が多い。プールは、地区内住民の利用がほとんどで、夏場はとくに混雑し、整理に困るほどである。図書室は、日曜日の利用者が抜きん出て多く、地域図書館的性格が顕著である。

これらの施設を管理運営する一方、本館では、積極的に市民に働きかけ、文化とスポーツの啓発に努めている。春・秋２回の定例講座のほか、短期講座を随時開いている。スポーツ・健康に関する講座は、各種球技、水泳、トレーニング、ヨガ、ジャズダンス、エアロビックダンス等多岐にわたる。講座の受講者は、主婦が圧倒的に多く、以下、こども、成人男子の順となっている。

地域社会における日常生活の中で、文化・健康・スポーツに関する活動の比重が主婦層を中心として高まりつつあることを、館全体の運営を通じて実感している。

（文責：木村英才／神戸市立北須磨文化センター館長）



会議室、図書室や美術室などを備えた本館棟と、体育館棟、プール棟からなる複合文化・スポーツ施設。センターの冷暖房、温水プールの加温は隣接する落合クリーンセンターの余熱を利用。

本館を中心にしてプール棟(左)と体育館(右)

サンシビック尼崎

尼崎市西御園町93

設　　計　日本設計事務所
建築施工　柄谷工務店
敷地面積　6,279.01㎡
建築面積　2,291.08㎡
延床面積　6,298.73㎡
構造規模　ＲＣ造(一部ＰＣ造)、Ｓ造、地下１階、地上４階
竣工年月　昭和58年３月
オープン　昭和58年４月

尼崎市は、人口が昭和45年の550,000人をピークに減少を始め、現在502,000人まで減っている。市域の北部では微増を続けているにもかかわらず、南部で大幅な減少をみたためである。そのような中で、児童数の減少により、紆余曲折の後、一つの小学校が廃校となり、その跡地に建設されたのが当施設である。尼崎市立屋内プール、地区体育館と市民の集会施設である地区会館からなる複合施設で「サンシビック尼崎」という愛称で呼ばれている。管理運営は、尼崎市の出捐により設立された財団法人尼崎市スポーツ振興事業団が、市から委託されて行っている。

市では、かねてより「健康都市づくり」を目指しており、とくに屋内プールは、市民がいつでも自由に泳ぐことにより健康づくりに取り組めるようにということで建設された施設である。現在、平日の夜間と日・祝日および学校の長期休業期間を、市からの委託事業として一般開放に当て、平日の昼間と一部夜間において、当事業団の自主事業として「サルーススイミングスクール」を行っている。利用状況は、一般開放では昭和59年度で約３万人の利用があり、スイミングスクールでは、現在1,950人の在籍がある。地区体育館は、現在当館以外に５館ある。事業としては、市からの委託事業として、幼児からお年寄りまでを対象とした各種の「健康づくり教室」と、フロアーの個人利用者のための開放および団体貸しがある。また、事業団の自主事業としては、成人を対象とした、ジャズダンス・エアロビクス等の各種「サルーススポーツ教室」を行っている。利用状況としては、健康づくり教室・スポーツ教室ともに、受付開始日にほとんどが定員一杯になるほどの状況である。

人口減のための廃校跡地に建てられた施設にしては、利用率が高い。その理由としては、私鉄の駅に近くて、交通の便がよいことと、とくに、市民の健康づくりへの関心が高まってきていることがあげられる。屋内プール、体育館ともに成人の利用者が多く、夜間コースではキャンセル待ちがあるほどである。

このような状況で、当事業団では、当施設を使って一家の中心である中高年の勤労者を対象とした新規事業を検討中である。

なお、地区会館はスポーツ施設ではないが、管理事務の簡素を考え、当事業団が市から管理運営を受託しているのである。

（文責：小池清三／財団法人尼崎市スポーツ振興事業団庶務係長）



●施設概要
尼崎市立屋内プール
尼崎市立本庁体育館
尼崎市立本庁地区会館

CITY SPORTS すみのえ

大阪市住之江区西住之江１－１－21

設計施工　戸田建設・南海建設共同企業体
敷地面積　28,604.34㎡(商業施設を含む一団地内の一棟)
建築面積　5,777.98㎡
延床面積　5,890.56㎡
構造規模　ＲＣ造一部Ｓ造、地上２階
竣工年月　昭和58年９月
オープン　昭和58年10月

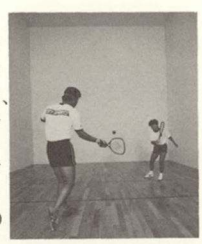
都市型の会員制スポーツクラブ「CITY SPORTS すみのえ」を開設するにあたり、まず、社会的な動きとして、健康や余暇活動を重視するようになり、積極的にスポーツや文化活動に参加しようという人々が増えつつあるが、それを実践するための施設がまだまだ不足の状態であり、公共事業にたずさわる企業として、地域住民に豊かな生活を提供するための施設づくりを行うことを第一目的とした。

南海電鉄流通部門ではCITY展開を行っており、現在、なんばと徳島にあるが、それはCITY思想に基づく生活文化事業の展開ということであり、物販・飲食機能のほかに、スポーツ、カルチャー、通販、ツアー、クレジット等々生活文化全般にわたるものを考え、その一環としてスポーツクラブを展開するものである。また、なんばに近いという点から、現在なんばCITYに欠けているDOスポーツ機能を提供するという役割をも含めて考えた。

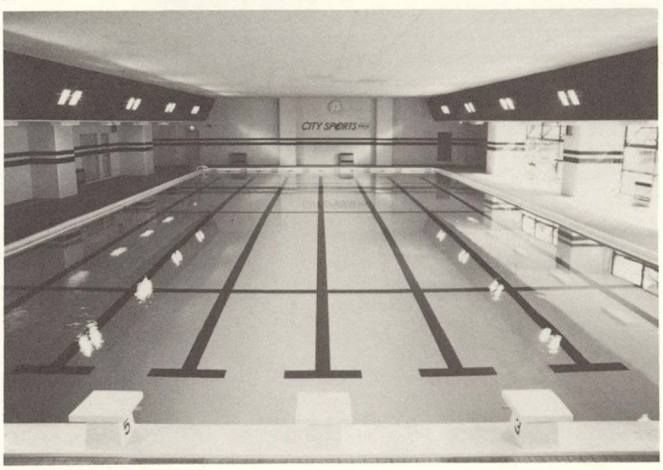
「CITY SPORTS すみのえ」の基本コンセプトは、「スポーツのある健康で豊かな生活の創造」であり、昭和58年10月オープン以来、会員数は幸いにも順調に推移している。

今や、生活の中でスポーツは欠かせないものであり、豊かな生活の重要な一部分となっている。また、人々がスポーツに求めるものも、非常に多様化の傾向を示しており、健康のために、生きがいとして、美容のために、楽しみのために、ファッションとして、コミュニケーションのために等と幅広いものであり、常にそのニーズを意識し、それに対応できる施設作りを目指していく所存である。（文責：上山英樹／南海電気鉄道株式会社流通事業本部スポーツ事業部）

●施設概要
アスレチックジム、ラケットボールコート10面、室内温水プール（25m×７コース）、サウナ、バイブラ、スタジオ、駐車場約100台







フィットネスクラブ オキシー阪急

大阪市北区芝田１－８－１

設計施工　竹中工務店
敷地面積　4,514.74㎡（北野阪急ビル）
建築面積　3,230.72㎡（　〃　）
延床面積　3,745.6 ㎡（オキシーのみ）
構造規模　SRC造、地下２階、地上17階、塔屋３階
（オキシーは３、４Ｆ、５Ｆ屋上）
竣工年月　昭和60年７月９日
オープン　昭和60年７月16日

施設概要
- ３Ｆ　メンバーズサロン、ミーティングルーム、バーコーナー
- ４Ｆ　トレーニングジムおよびダンシングジム(10×80m)、プール(25×8m)、浴室、サウナ
- ５Ｆ　ランニングトラック

熟年化社会の到来による経済的余裕、余暇の増大、健康への関心という一連の社会現象の中で、スポーツは一種の遊び感覚でとらえられつつある。スポーツを単に健康増進のためだけでなく、よりヘルシーに、よりビューティに、そしてよりファッショナブルにという精神のリフレッシュを目的とする人が増えつつある。そしてアフタースポーツの飲食、語らいのための空間も、よりデラックスにしたいという要求も同時にでてきた。

そういった一連の社会的ニーズに答えたハイグレードなリフレッシュ空間を提供するべく誕生したのがフィットネスクラブオキシー阪急である。

ＯＸＹは、北梅田地区にこのほど竣工した北野阪急ビルの３、４階にあり、ターミナルに隣接した都心の便利な場所に位置している。客層は、阪急沿線を中心としたビジネスマンを対象として、比較的リーゾナブルな料金設定で、広範囲な層を狙っている。施設は、この種のものではかなり大規模で、会員数の設定も相当数を見込んでいる。

施設内容は、４階にトレーニングジムおよび多目的スタジオ（10×80m）、スイミングプール(25×８m)、５階屋上にランニングトラック(60×４m)など動的なスペースを配し、３階にはメンバーズサロン、バーコーナー、プレイルーム、ミーティングルームなど静的で安らぎのスペースという構成をとっている。

４階の中央に配置されたロビーから東側のトレーニングジム、西側のプール、南北の男女ロッカールーム入口が、わかりやすく見渡せるよう、サインの要らない明解な動線計画を旨として計画している。動的スペースはできるだけ段差を無くし、視覚的にもロビーや外部へ開放させ、動きのある快適な空間となるように努めた。

インテリアは、新しいシティ感覚をモチーフに、動きのあるスポーティな形、45度パターンや三角形を採用した。仕上げの色調は、白の自由さ、フェアーさを基調にテーマカラーとしてさわやかなライトグリーンを選び、あくまで明るく、健康的なものとした。

照明は間接照明で、スポーツする人の目に直接入らない柔らかい光線とし、また、できるだけ自然採光をとり入れて健康的なムードを高めるとともに、昼間の省エネを考慮した。

プールおよび浴室の設備計画では、全周オーバーフロー方式や循環濾過方式等で、水質の保持や、節水、節電の検討がなされている。

プランニングからディティールにいたるまでのオーナーの情熱的な参画により、機械的で、サービス精神の行き届いた施設となっていることは、特筆すべき点である。

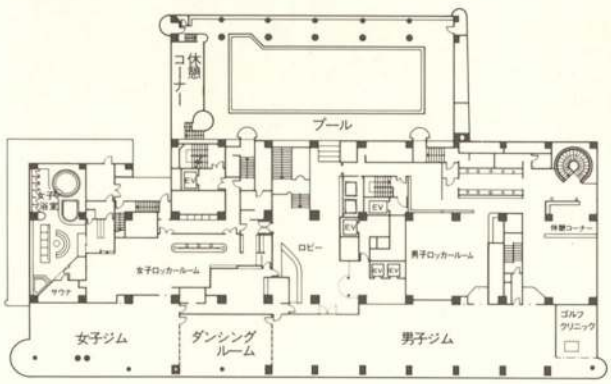
今後、都市の健康づくりの拠点として、利用者が楽しく、なごめる施設となることを期待している。

（文責：酒井利行／竹中工務店設計部）

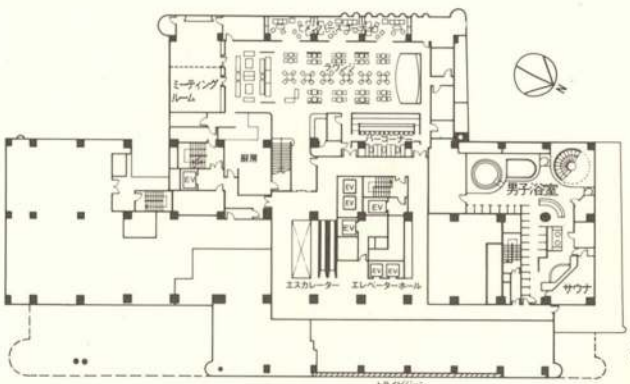








4階



3階

（縮尺1:1000）

瀬田パークアベニュー

東京都世田谷区瀬田４－15

設　　計　東海興業、小松建設工業
建築施工　小松建設工業
敷地面積　12,323.74㎡
建築面積　3,944.09㎡
延床面積　21,445.00㎡（本館17,972㎡、別館3,473㎡）
構造規模　本館　ＲＣ造、地下２階、地上４階、塔屋２階
　　別館　ＲＣ造、地下１階、地上３階、塔屋１階
竣工年月　昭和55年11月

瀬田パークアベニューは、昭和60年代の都市生活様式に対応するショッピングモールを目指している。テーマは、〝太陽と樹木と水それにヘルシーを一体化したショッピングモール〟をうたい、単にモノを売る施設にとどまるのではなく、都市生活がエンジョイできる新しいライフスタイルを提案・提供する商業施設である。敷地は、国道246号線に面し、約4000坪の広大なスペースと樹齢200年をこす松やケヤキなど5000本にもおよぶ樹木が生い茂り、敷地の半分を占める庭園は、噴水が吹きあげ、森林浴の楽しめるジョギングコース、テニスコート、オープンラケットボールコート、そして四つのプールを組み入れている。

館内には、衣食住のファッション商品とグルメ、エアロビクスエクササイズをアメリカより日本に初めて導入した会員制総合スポーツクラブ〝ザ・スポーツコネクション〟、予防医学とスポーツをシステムプログラム化したクラブ〝アクアスパ〟、そしてフロートカプセルクラブ〝レッツフロート〟がある。

ザ・スポーツコネクションとは、ボディをシェイプアップするばかりでなく、スポーツを楽しむ中から健康でありたい、美しくありたいという心を求めさせ、さらに人との触れ合いや交友を広め、社交の場としての演出を打ち出している。

アクアスパとは、適切な運動、適量な栄養、上手なストレス管理の三要素を統合的に捉え、独自のメディカルチェックシステムを考案し、個人にあったスポーツカリキュラムを作成、最適処方するクラブである。

レッツフロートとは、トレーニングで汗を流した後、音と光を遮断したカプセルの中で身体をフロートさせることによりリラックス状態をおこし、ストレスを解消させようとするクラブである。

さらにスキューバーダイビングやウィンドサーフィンなどマリーンを中心としたアウトドアスポーツクラブもてがけ、そのインフォメーション機能を有している。

瀬田パークアベニューは、いま単にモノを売るショッピングセンターではなく、健康（情報を提供する機能を含む）を売るショッピングモールとして大きく躍動している。

（文責：永島重利／南西株式会社瀬田パークアベニュー事業部支配人）

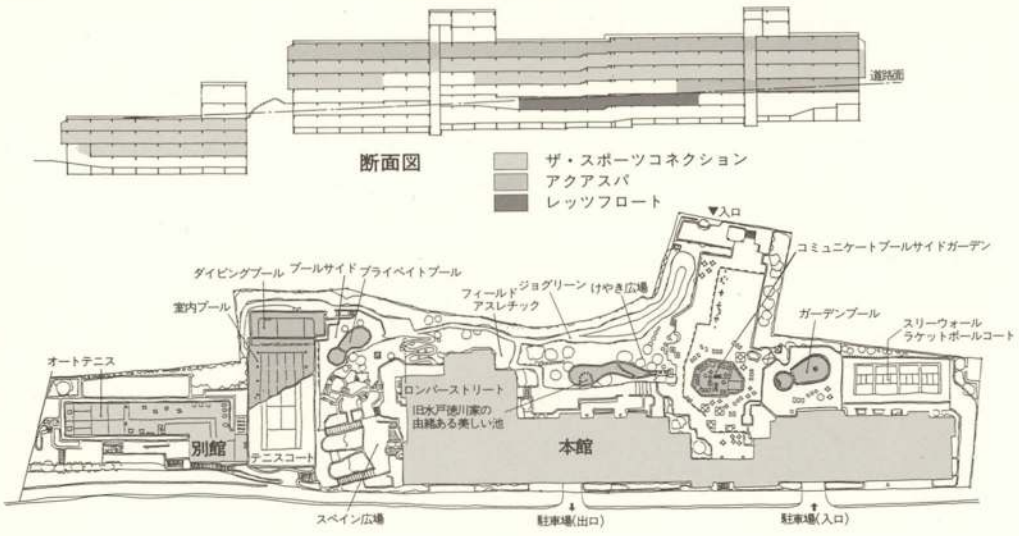

瀬田パークアベニュー全景


パークアベニュー中庭


ザ・スポーツコネクションの室内プール


レッツフロートのカプセル


アクアスパのアクアスタジオ



配置図（縮尺１：2000）

	ザ・スポーツコネクション	アクアスパ	レッツフロート
経営主体	南西㈱	南西㈱	㈱フロートリラックス
施設面積	室内 6,093.65㎡ 室外 1,808.20㎡	室内 2,992.93㎡ 室外 72.00㎡	室内 456.90㎡
オープン	昭和57年２月	昭和60年５月	昭和59年５月
現会員数	9,600名	250名	500名
施設内容	エアロビクススタジオ ヨガスタジオ 太極拳スタジオ ジャズダンススタジオ トレーニングジム タンニングルーム スポーツマッサージルーム 室内プール ダイビングプール ガーデンプール テニスコート オープンラケットボールコート ジョギングコース フィールドアスレチック サウナルーム クラブハウス	総合検診センター ストレスチェックセンター 栄養指導相談室 診断・健康相談室 エアロビクススタジオ トレーニングジム エステティックコーナー アクアスタジオ ウォームアップルーム サウナルーム リフレッシュルーム	トレーニングジム フロートカプセルルーム

関西サイクルスポーツセンター

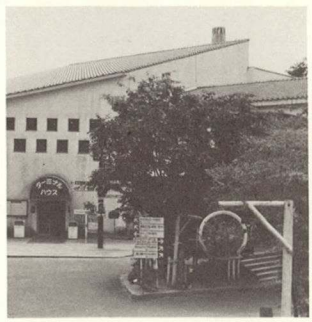
大阪府河内長野市天野町1304

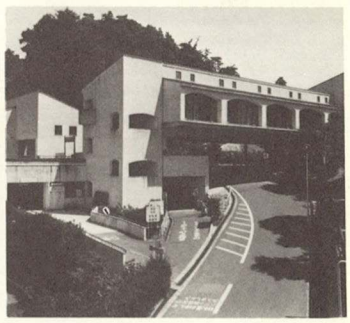
設　　計　住鉱コンサルタント（土木）、安井建築設計事務所（建築）
日本舗道（サイクルスタジアム）
建築施工　奥村組、日本舗道
敷地面積　195,488　㎡
建築面積　3,213　㎡（合計）
延床面積　5,122.46㎡（合計）
構造規模　RC造
竣工年月　昭和49年７月５日
オープン　昭和49年７月10日





関西サイクルスポーツセンター配置図（縮尺1:6000）





関西サイクルスポーツセンターは大阪の南部、金剛生駒国定公園地内に、緑豊かな自然環境を生かし、大衆指向性の施設として、スポーツエリア、アスレチックエリア、レクリエーションエリア等をトータルに設置している。

経営母体は公益法人である財団法人自転車センターで、建設にあたっては日本自転車振興会の競輪収益の社会還元事業にもとづく補助をうけているが、現在は自主自営を目ざし努力中である。

オープンは昭和49年７月で、当初「緑の中で楽しみながら健康づくりができるスポーツ公園」をコンセプトに開場したが、産業経済は機械化や省力化が進み、余暇時間が増大したこと、大衆意識の中に健康希求が大きくクローズアップされたこと、見るスポーツから実践するスポーツへ変化していること、自然回帰の願望から森林浴等が提唱されたことなど、当初計画が時代にうまくマッチし、入場者数は順調に伸びている。

施設づくりのポイントは、以下の通りである。

(1)自らの体を使って利用することにより、健康づくりができる。

(2)スポーツの底辺層の拡大を計るため、大衆指向性のものをとり入れる。

(3)少人数で大きな面積を占有するものをつくらない。

(4)自然を生かし、自然の中で創造的な活動ができることを考慮してつくられた。

〔立地にめぐまれたスポーツ公園〕

関西サイクルスポーツセンターは建設にあたり、候補地を物色していたが、河内長野市に青少年野外体育事業のスポーツ計画があり、誘致の希望があったところから、同市内の天野山金剛寺の寺領を譲りうけ、現在の位置へ決定した。

河内長野市は面積109.6平方キロと、大阪府下では三番目に大きく、その70%が山林で、東は金剛山脈、南は葛城山脈の奈良県、和歌山両県に接し、西は和泉丘陵にそって和泉市、堺市に接し、緑が多く、また有名な古寺や文化財の多い市である。このため利用者も当施設の特色と相まって、大阪府下約60%で、残り40%は奈良、和歌山、兵庫、京都と近畿圏すべてをもうらして、広範囲からの利用となっている。

将来についても外環状の延長、新大阪空港の建設、大阪府のサイクリング道の延長工事と、当センター周辺をとりまく社会環境は大きく変動しようとしており、明るい材料も多いが、これらに対応する施設整備が今後の課題といえよう。

〔施設について〕

サイクルスポーツの中心である３kmのサイクリングコース、公式自転車競技のできるサイクルスタジアム、最も利用率の高く当センターを代表する変わり種サイクルのほか、スカイサイクル、サイクル列車、サイクルヘリコプター、ローリングコースター等あらゆるサイクルスポーツ施設を保有している。

その他、トータルスポーツを指向するため森の中でのアスレチックコース、プール、体力測定、子供の遊びの創造広場、プレイランドやレクリエーションとしてのキャンプ場等のほか、サービスエリアとしてレストラン、喫茶を設置している。

またカルチャー事業として各種サイクルスポーツ教室を開校し、とくに自転車に乗れない方々を対象とした初心者教室は、毎回定員をオーバーする盛況である。また初心者だけでなく、自転車で世界を旅する若者への指導やアドバイスにみられるように、サイクルスポーツに関するあらゆる教室や情報提供を行っている。

また最近大きくクローズアップされているトライアスロン、オリエンテーリング、ウォークラリーなど総合野外スポーツの開催や、公共団体とのタイアップにも積極的に取り組み、当センター内にとどまらず地域社会の体育振興にも貢献している。

（文責：久保多孝行／関西サイクルスポーツセンター広報課課長補佐）

日本エアロビクスセンター

千葉県長生郡長柄町上野521－4

設　　計　松山設計
建築施工　戸田建設
敷地面積　9,813.　㎡（建物のみの敷地）
建築面積　5,213.941㎡
延床面積　13,825.136㎡
構造規模　RC造一部SRC造、S造、地上4階、塔屋1階
竣工年月　昭和60年1月
オープン　昭和60年4月

日本エアロビクスセンターは、エアロビクス運動の創始者ケネス・H・クーパー博士との全面提携による、日本で初めての総合健康管理システムによる健康医学センターである。

当センターは、クリニック部門とアクティビィティ部門とで構成されている。

クリニック部門では、採血、採尿、血圧、心電図、超音波、X線撮影、聴力、視力、眼圧、眼底、肺機能、水中体重、トレッドミルによる最大運動負荷テスト等によるメデイカルチェック、および精神面のストレス管理、栄養指導、健康医学総合指導などが行われる。アクティビィティ部門では、体力測定とメディカルチェックにもとづいて、各個人に合った運動プログラムを作成し、実施指導が行われる。

施設は、1階に総合受付、ロビー、食堂、喫茶、売店を配し、ここからクリニック部門とアクティビィティ部門とに分かれるようになっている。

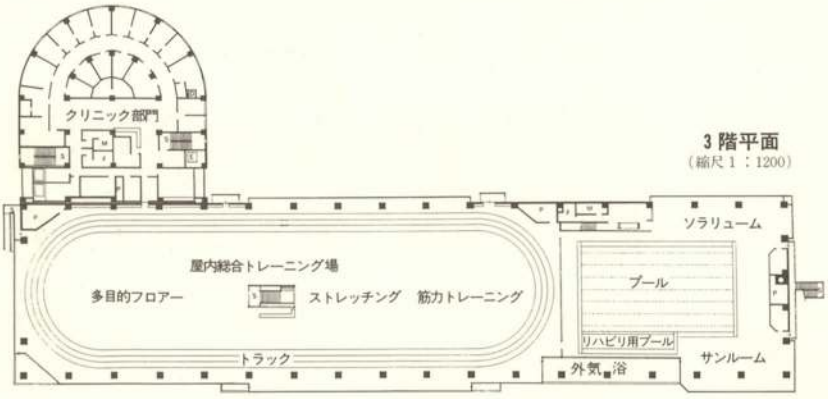
クリニック部門は、南西のR部分で、3階、2階を中心にメディカルチェックおよび指導が行われる。各室は、病院でないので、明るく、なるべく自然の光と空気を入れるように考慮している。

アクティビィティ部門は、3階に、200mトラックを中心にウエイトトレーニングコーナー、ストレッチングコーナーを含む屋内総合トレーニング場、25m6コースの屋内温水プール、リハビリ用15m温水プール、肩タタキ、腰タタキ、ふくらはぎタタキコーナー、人工太陽光線コーナー等がある。この3階の外壁は、できるところはすべて高さ8mのトーメイガラス貼り（プラサード工法）でつくってある。2階には体力測定室、ダンススタジオ、カンファレンスルーム、アクティビィティセンター長室、男子・女子ロッカー室、花崗岩貼りの大浴室、シャワーコーナー、サウナ室、休憩室、仮眠室、化粧室等がある。

また、屋外運動施設として、ウレタン仕上げの400mトラック、スーパーサーキットコーナー、ストレッチングコーナー、多目的フィールド、モミの木の皮を敷きつめたフィンネンバーン・ジョギングコース（10km）、テニスコート（14面）などがある。敷地は、真名C.C.（27H）、ふる里村を含めると330万㎡あり、これをエアロビクスシティーと呼んでいる。

この建物を設計するにあたり考慮した点は、一つには、自然環境との調和である。そのために、外装はボンホル社（スイス）のタイルを使用、屋根は銅板葺きにし、ガラスを多く使用した。二つには、外の自然の中で運動することを主に考え、建物の中にいても、なるべく外の自然の中で運動しているような環境づくりをした。また、あたたかみを出すために、内装はレッドオーク材を多く使用している。三つには、クリニック部門とアクティビィティ部門の一体化をできるだけはかった。このことは、これからの健康医学センターには必要なものであると考えている。

（文責：松山龍夫／株式会社松山設計）



3階平面
（縮尺1：1200）

施設概要

●クリニック部門
心肺機能、成人病を中心にした健康医学的検査・診断のための諸室、栄養指導室、健康医学総合指導室、医局、研究室、図書室、会議室

●アクティビィティ部門
200mのトラックを中心とした屋内総合トレーニング場、温水プール（25m、6コース）、体力測定室、ダンススタジオ、カンファレンスルーム、ロッカー、浴室、サウナ、仮眠・休憩、食堂、喫茶、ロビー

●屋外施設
400mトラック、スーパー・サーキット、多目的フィールド、フィンネンバーン・ジョギングコース（10km）、テニスコート（14面）

日本エアロビクスセンターはエアロビクス・シティ約330万㎡の中の一つの施設である。





大阪府立体育会館(仮称)

大阪市浪速区難波中３－４－36

設　　計　日建設計
建築施工　大林組、戸田建設、鴻池組、村本建設共同企業体
敷地面積　　8,357㎡
建築面積　約 7,100㎡
延床面積　約29,000㎡
構造規模　ＳＲＣ造、地下２階、地上４階、塔屋１階
竣工年月　昭和62年１月
オープン　昭和62年２月

旧大阪府立体育会館は、昭和27年に建設されて以来、大阪府民には、「なんばの体育館」として親しまれ、体育・スポーツ、レクリエーションの普及・振興に多大な貢献をしてきたが、33年の風雪により老朽化が著しく、近年、多様化した府民のスポーツ欲求に応えるためには、手狭で設備も十分とは言えない状況になってきた。昭和60年４月、体育会館を「21世紀のスポーツの殿堂」にふさわしい近代的総合体育会館に改築するため、改築工事に着手。昭和62年２月には、大阪府のセンター的スポーツ施設として、各種機能をあわせもった体育館として開館する予定である。

府立体育会館の改築が話題となったのは、その老朽化が目立ち始めた昭和40年代の後半であり、大阪府府議会をはじめ、府民各界からの同会館改築に対する強い要望を踏まえ、改築問題の具体的検討を図るため、昭和48年に「府立体育会館改築調査委員会」が発足し，以後各種調査等を基礎に多方面かつ多角的な検討のもとに改築事業が進められた。昭和57年度には、現在地での改築を本格的に進めるために基本計画策定を株式会社日建設計に依頼し、府立体育会館の本体構造の基本的設計を行い、昭和58年度に基本設計、翌昭和59年度に実施設計を完了し、改築工事に着手した。

●府立体育会館の主な機能と建築設計上の特長

府立体育会館は、開館以来大阪府の体育の中核的なスポーツ施設として、全日本バレーボール男子・女子選手権大会をはじめとするアマチュアスポーツの会場として、また大相撲三月場所の常設会場として、その機能を果たしてきた。

これらスポーツ競技機能はもとより、今回の改築に当たっては、スポーツ競技以外の機能の充実を図るため、展示会、音楽会等の文化的各種行事の開催およびスポーツに関する情報収集・提供並びにスポーツ指導者の研修・講習会等の開催等、多目的機能を有する体育館として改築する計画である。

現状の限られた敷地（8,357㎡）の中で、旧体育会館よりも機能を大幅に拡充するとともに、新しい機能を付加している。このため競技機能、大規模集会機能をもつ第１競技場関係を地上部２階に持ち上げ、第２競技場を中心とするスポーツセンター機能を地下におさめ、中間層の地上１階部分は、ピロティー、ロビーなど開放的空間で構成している。多機能を集約積層した都市施設であることから、各機能を分割独立して使用することも、複合して一体的に使用することも可能なよう、設計上の配慮を行っている。また体育館の生命とも言うべき床は、体育館として最高と言われているさくら材を用いている。

さらに最大収容人員１万人の大規模施設であるため防災上安全な施設とするため、全館極力外気に面し自然排煙を可能にし、地上部では、建物を２軸対称にして、わかりやすい平面構成にするとともに、片寄りのない避難施設配置としている。

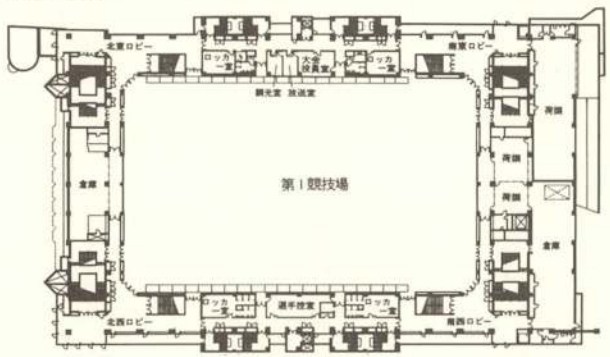
（文責：大阪府教育委員会保健体育課）



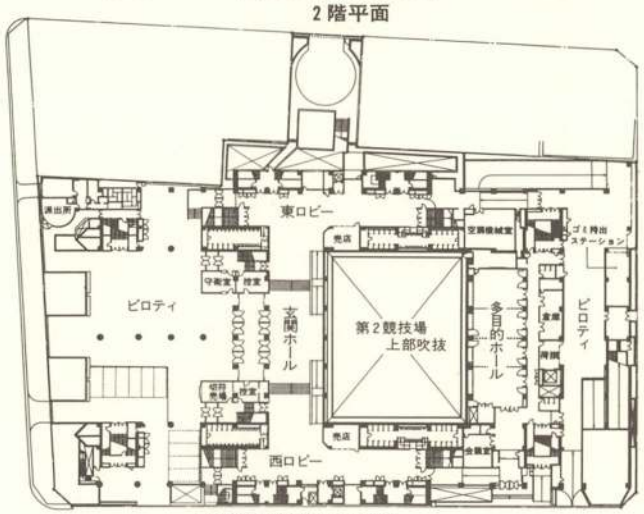
工事期間　昭和60年４月～昭和62年１月
発 注 者　大阪府
主管部局　大阪府教育委員会保健体育課

●総合体育館

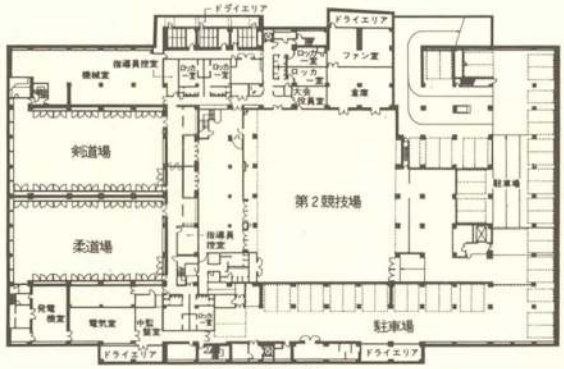
第１競技場〔アリーナ面積3,010㎡(70ｍ×43ｍ)、固定席3,107席、最大収容人員10,000人、バスケットボール４面、バレーボール４面、ハンドボール２面〕
第２競技場〔アリーナ面積912.6㎡(33.8ｍ×27ｍ)〕
柔道場〔460㎡〕、剣道場〔460㎡〕、多目的ホール〔330㎡〕、スポーツ情報コーナー〔140㎡〕、会議室



2階平面



1階平面(縮尺１：1200)



地下２階平面

健康・スポーツ施設一覧—近畿を中心に



近畿におけるフィットネス・クラブ（その1）

都道府県	施設名	所在地	企業名	オープン	施設概要	総会員数
京都	京都ＹＭＣＡ	京都市上京区烏丸今出川下ル西入ル	京都ＹＭＣＡ青少年センター	45. 4	ウエイトトレーニングルーム・体育館	254
	ユナイテッド・スポーツクラブ・エグザス伏見	京都市伏見区南部町60	㈱ピープル	59. 3	マシンジム、スタジオ、プール、サウナ、シャワー	900
	京都アスレティックスイトピア	京都市右京区	㈱京都アスレティッククラブスイトピア		ジム㊢、サウナ、体育館、ゴルフ練習場	8,000
	京都簡易保険会館	京都市左京区松ケ崎修理式町12	簡易保険福祉事業団	48. 12	テニスコート、プール、スポーツサウナ、トレーニングルーム	—
	ホリディ・イン・スポーツクラブKYOTO	京都市左京区高野西開町36	ホリディ・イン京都	59. 4	アスレチック・ジム、プール、レッスンスタジオ、メディカルチェックルーム	—
	福知山ヘルスプラザ	福知山市内記３丁目西山ストアー２Ｆ	個人	58. 5	トレーニングルーム、更衣室	—
大阪	新大阪スペック	大阪市淀川区宮原４－５－30 ホテル共済会館	㈱社会教育センター	54. 11	アスレチックジム、プール、サウナ、ゴルフ練習場	1,200
	肥後橋トレーニングセンター	大阪市西区京町堀１－４－23	大征興業㈱	45. 7	トレーニングルーム、サウナ、シャワー	200
	ホテルドゥ・スポーツプラザ	大阪市南区南船場３－３－17	ホテルドゥ・スポーツ・プラザ	49. 7	トレーニングジム、サウナ、ホテル、宴会場、レストラン、その他	1,300
	天下茶屋トレーニングセンター	大阪市西成区花園南２－７－８	個人	51. 10	アスレチックジム	100
	ロイヤルヘルスクラブ	大阪市北区中之島５－３－68	㈱ロイヤルホテル	50. 7	トレーニングジム、プール	1,100
	日南スポーツクラブ	大阪市大淀区本庄西２－５－23	㈱日南商会	53. 9	トレーニングジム、プール、ゴルフ打放し、サウナ	200（アスレ150）
	レッツヘルスクラブ	大阪市城東区関目２－12－41	㈱東海スポーツ用品	57. 9	トレーニングジム、カルチャールーム、サウナ、ラウンジ、多目的ホール	700(口)（＋法人）
	大阪くずはＹＭＣＡ	枚方市楠葉花園町14－１	大阪くずはＹＭＣＡ	46. 10	トレーニングルーム、体育館、シャワー	120
	ヘルスクラブ・ヴァイキング	豊中市曽根東町３－３－32	㈱スミゼン	57. 12	トレーニングルーム、サウナ	—
	セルシーアスレチッククラブ	豊中市新千里東町１－５－２	千里レジャーセンター㈱	47. 11	アスレチック、プール、卓球、ボウリング、ローラースケート、レーザークレー	460（＋法人）
	サンファイブスポーツプラザ	堺市砂道町３－１－５	㈱五晃	48. 10	アスレチック、プール、スカッシュコート、卓球、サウナ、小体育館	500
	パンジョスポーツセンター	堺市茶山台１－３－１	㈱パンジョ	49. 11	トレーニングルーム、プール、体育室、サウナ	350
	ピープルスポーツクラブ新金岡	堺市金岡町４	㈱ピープル	58. 4	ヘルスジム、スイミング	—
	学校法人履正会館 履正健康クラブ	大阪市淀川区十三本町３－４－21	学校法人履正社	45. 6	プール、トレーニングルーム、サウナ	350
	八尾アスレチックセンター	八尾市弓削南２－４	㈶健康管理開発センター	—	プール、体育館	—
	フィットネスクラブオキシー阪急	大阪市北区芝田１－８－１	阪急スポーツ企画㈱	60. 7	プール、多目的スタジオ、トレーニングジム、サウナ、プロショップ	—
	都ヘルスクラブ	大阪市天王寺区上本町６－１－55 都ホテル大阪	㈱都ホテル大阪	60. 10	プール、シェイプアップルーム、ラケットボールコート、サウナ	—
	ヘルスクリエイトフォーラム・ファイブ	大阪市北区芝田１－10－10 芝田グランドビル	大阪社会体育専門学校	57. 9	トレーニングルーム、シャワー、サウナ	—

立地によるパターン分類	立地パターン			例
	都市部	複合型	ホテルとの併設	ロイヤルヘルスクラブ、ホテルドゥ・スポーツプラザ、都ヘルスクラブ、ホリディ・イン・スポーツクラブKYOTO、神戸ポートピアホテル、奈良ロイヤル・スポーツクラブ
			商業ビルへの立地	セルシー・アスレチック・クラブ、パンジョスポーツクラブ、ハウズ・シェイプジム心斎橋
			既存施設への併設	神戸YMCA総合体育館フィットネスセンター
			ショッピング・センターとの併設	スポーツクラブ・エグザス西宮、エグザス学園前、伏見 （エグザスはこのほか、高槻、和歌山にも立地）
		単独立地型		ヘルスクラブ・ヴァイキング（ボウリング場からの転身） CITY SPORTS すみのえ 兵庫県立健康センター（生協との一体的開発。施設としては独立）
	近郊部	リゾート立地型 大規模開発型		ラフォーレ琵琶湖（宿泊施設、スポーツ施設） 日本エアロビクスセンター（ゴルフ場、別荘地など総合開発の一環）

近畿におけるフィットネス・クラブ（その2）

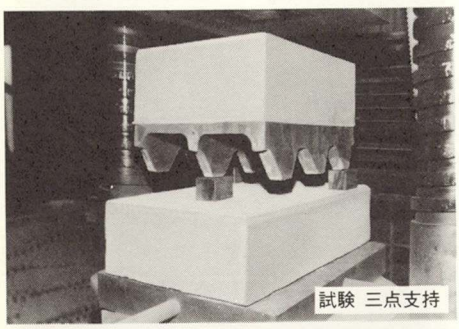
都道府県	施設名	所在地	企業名	オープン	施設概要	総会員数
大阪	大阪ヘルスクラブ	大阪市北区曽根崎新地2－2－16 桜橋東洋ビル	㈱大阪ヘルスクラブ	49. 6	トレーニング室、サウナ、シャワー、ロビー、ロッカールーム	—
	近鉄アカデミアナンバ	大阪市南区難波4－1－5 近鉄難波ビル	㈱近鉄百貨店	54. 4	トレーニングルーム、サウナ、シャワールーム	—
	CITY SPORTS すみのえ	大阪市住之江区西住之江1－1－21	南海電鉄㈱	58. 10	アスレチックジム、ラケットボール、プール、シティスタジオ、サウナ、ミーティングルーム、レストルーム、プロショップ、レストラン、バス	—
	ハウズ・シェイプジム心斎橋	大阪市南区心斎橋筋1－1 プラザ心斎橋ビル	プラザー販売㈱	60. 6	エアロビクススタジオ、シャワー、ロッカー	—
	パイナップルシティー	大阪市南区難波4－63	㈱フィジカルアソシエイツ	58. 10	ダンスフロア、シャワー、バブルバス	1,000
兵庫	神戸YMCA総合体育館フィットネスセンター	神戸市中央区2－7－15	㈶神戸YMCA	47. 10	体育館、ジョギングコース、プール、スポーツサウナ	2,400
	神戸健康開発センター	神戸市中央区楠町3－3－13	㈶順天厚生事業団	45. 12	トレーニング、健康機器、サウナ、バス、その他	—
	神戸21C	神戸市中央区雲井通り5丁目	㈱神戸21C	56. 10	アスレチックジム、ラケットボールコート、プール、サウナ	980
	伊丹グレイスレジャークラブ	伊丹市北本町3－28	大井産業㈱	57. 8	アスレチック、ダンススタジオ、テニスコート、ボウリング、遊技施設、レストラン	1,500 （法人60社）
	ヘルスクラブシーガルシュクガワ	西宮市神楽町9－5	㈱シーガル	57. 12	トレーニングジム、ラケットボール、プール、サウナ	3,000
	マックロイヤルスポーツクラブ鳴尾	西宮市鳴尾浜1－1－1	御堂開発㈱	60. 9	プール、テニスコート、エアロビクス、トレーニングジム、ゴルフ、エステティック、キディルーム、プロショップ、レストラン	—
	スポーツクラブエグザス西宮	西宮市高松町1－45	㈱ピープル	49. 6	ヘルスジム、エアロビクススタジオ、プール、体育館、ランニングトラック、スカッシュコート、ゴルフ練習場、サウナ	6,500㈷
	スポーツハウストライ	姫路市東辻井2－8－45	㈱山田	59. 5	トレーニングジム、ダンススタジオ、サウナ、シャワー、ロッカー	200
	アスレ33	神戸市中央区三宮2－10－7	㈱サンサンアスレチック	54. 9	トレーニングジム、サウナ、レッスンルーム	380
	ヨーロピアンヘルススパ神戸	神戸市琴緒町5 グリーンシャポービル	㈱サンレディ	53. 12	トレーニングルーム、サウナ	1,000
	神戸ポートピアホテル	神戸市中央区	㈱神戸ポートピアホテル	56. 3	ジム㋅、サウナ、駐車場（550台）、宿泊施設、サロン	700
	㈶伊丹スポーツセンター	伊丹市鴻池上王田1－1	伊丹陸上競技会	53. 4	体育館、プール、野球場、テニスコート、ゴルフ	—
奈良	エグザス学園前	奈良市中山町西1－716 SATY	㈱ピープル	59. 3	エアロビクススタジオ、マシンジム、サウナ、テニスコート、プロショップ	500
	健康クラブパラマウントサクライ	桜井市戒重北の町350－3	㈱佐野鉄工	54. 7	運動室、サウナ、バス	—
	奈良ロイヤルスポーツクラブ	奈良市法華寺町254 奈良ロイヤルホテル	シャロン・コーポレーション	60. 3	トレーニング・ルーム、プール、フロートカプセル、サウナ、マッサージ、エステティックサロン、サウナ	—

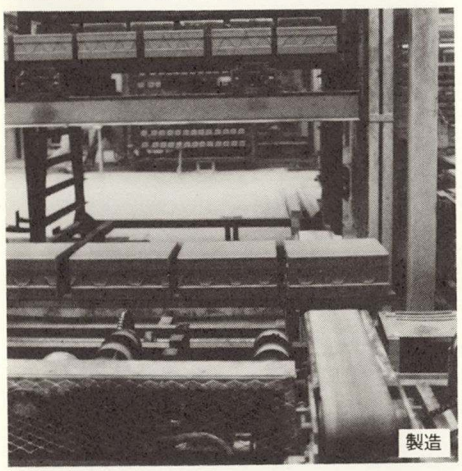
地下工法に技術革新

タマモ SB 地下スラブ湧水処理用れんが（各特許申請中）

建物、駐車場、トンネル等の地下構造は、地中梁部において湧水槽を設ける二重スラブ形式で従来工事されていました。当製品は、湧水槽を削除してフラットスラブ方式とし、その床上において湧水を処理する工法に使用するれんがで、地中工事量の減少等により巨大な利点が得られます。

═使用状態における耐圧試験═





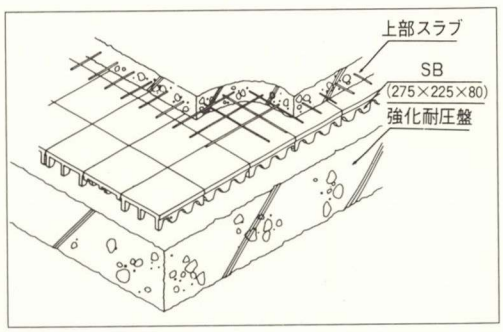
耐圧強度（駐車場設計標準強度 540kg/㎡以上）
95.7t/㎡（最悪条件、三点負荷の場合）

空間率
63.5%

重量
3.8kg/1ヶ　　60.75kg/㎡

吸水率
約5%

脚の接触面積
34.5㎠/1ヶ　　558.9㎠/㎡

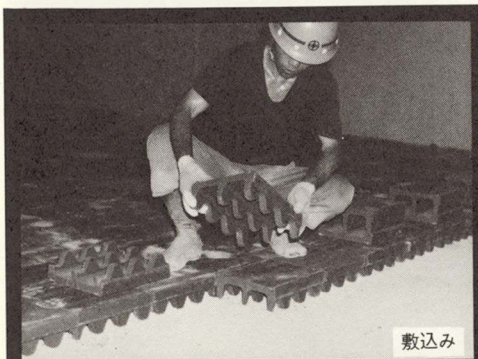


《特長》

材　料▶ ①水の流れが無方向性になる脚を持っている。
②炻器質れんがで、耐久力は半永久的で耐油・耐火・耐薬品にも全く安全である。
③上部に打設したコンクリートの収縮、クラックを防ぐ。(れんがは無収縮のため)
④下部コンクリートの湿気の伝達を防ぐ。

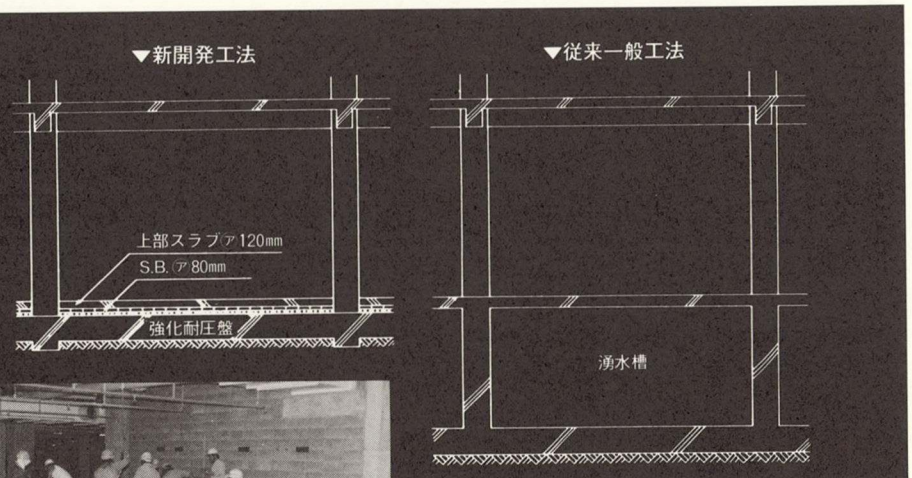
工　事▶ ①作業は単純簡易である。床コンクリート上に敷き並べるだけである。(モルタルは置かない)
②従来、最も問題になった湧水槽内のコンクリート型枠解体の煩雑さがない。
③上部のコンクリート打設時において、局部的衝撃にも強く安全である。

コスト▶ 高級な材料であるが、合理的な製造及び軽量であるため低価格となります。









タマモタイル 技術革新の
西谷陶業株式会社

本社・工場■〒761 高松市鶴市町2029-8　TEL(0878)82-1511(代)
JIS認定工場■〒761 香川県綾歌郡綾南町大字千疋560
NO.781031　(タマモ陶業協業組合)　TEL(0878)77-1121(代)
東京事務所■〒102 東京都千代田区平河町1-5-3　TEL(03)261-2456
大阪事務所■〒565 吹田市山田東1-31A-603　TEL(06)877-9044

施工材料の頁

131 KPMAT工法

阿川　清二

一般的なベタ基礎工法は、地中梁を有する二重スラブ構造であり、その地中梁空間を利用して湧水の処理を行っている。

ここで紹介する工法は、ベタ基礎にアンボンドPC鋼線を用いたフラットスラブを採用し、湧水処理については特殊ブロックにより流水空間を確保して、底盤・地中梁・床板の組み合わせによる施工の複雑さを解消すると同時に、根切底が浅くなり、地下工事量を大幅に低減することを可能とするものである。(**図－1** 参照)

工法の概要

KPMAT工法は、以下の3点をその特徴とする直接基礎工法である。

(a) マットスラブを逆懸垂型アンボンドフラットスラブで形成。(**図－2** 参照)

(b) 設備配管スペースと湧水処理層を、特殊ブロックで形成。

(c) 特殊ブロックの上に厚さ10cmの置きスラブを形成。

また、上記(b)(c)のみを杭基礎の耐水盤にも利用でき、地下室を有する建物の基礎工法として広く応用できる。

特殊ブロック(脚付薄肉硬質レンガ)仕様

(1) 形状・寸法

図－3 に示す。

(2) 耐圧性能

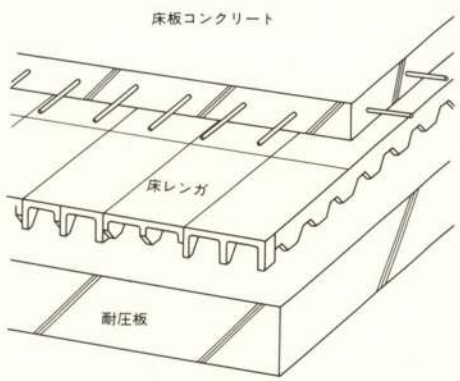
全面載荷、および最悪の場合を想定した3点支持による載荷試験を行った。(**写真－1** 参照)

その結果、**表－1** に示すように、駐車場等の用途に使用しても全く問題のない耐圧性能を有することが確認された。

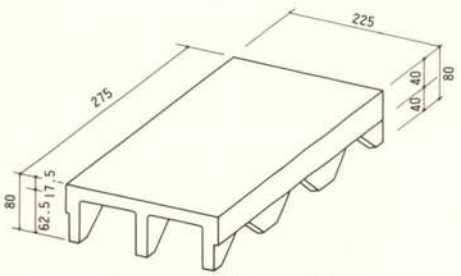
表－1　載荷試験結果

試験項目	最大荷重	耐圧強度
全　荷　重	17,600kg	26.7kg/cm²
三点支持※	6,280kg	9.6kg/cm²

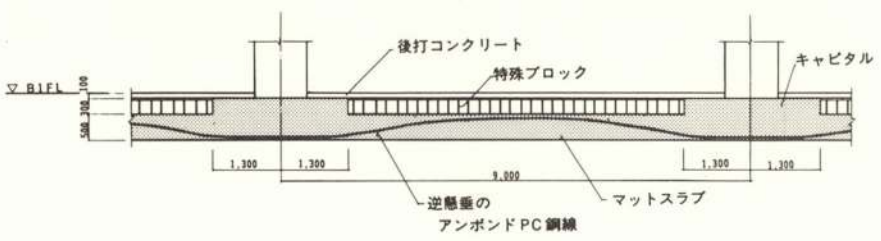
※) このレンガの脚は9点であるが、最悪の場合3点脚支持となるため、当試験を行った。



図－1　工法概略図



図－3　脚付薄肉硬質レンガ



図－2　断面詳細図



写真－1　載荷試験状況

(3) 特徴

(a) 脚形状を逆山型とすることにより、水路空間を十分確保するとともに、上載荷重に対する断面性能を高めている。

(b) レンガの材質として圧縮強度が大きく、また耐火性・耐油性に優れている。

(c) セメント系製品と異なり、遊離カルシウムの発生がなく、流水路が塞がる恐れがない。

KPMAT工法のメリット

(1) 根切量を大幅に低減できる。

(2) アンボンドPC鋼線により接地圧を均一化し、マットスラブの品質を高められる。

(3) コンクリートのクラック幅が小さくなり、鉄筋の腐食を防止できる。

(4) 地下躯体工事の省力化により、工期短縮が図れる。

(5) 置きスラブは非構造材のため、用途変更に対応しやすい。

主な適用例



写真－2　床レンガ敷き込み状況

写真－2 に床レンガの敷き込み状況を示す。また工法を適用した主な事例を、以下に示す。

・徳島駅前西地区市街地再開発（杭基礎の耐水盤に応用）

・稲毛海浜ニュータウン地区センター

・湘南ライフタウンSC

・日本通運大阪自動車支店南ターミナル

おわりに

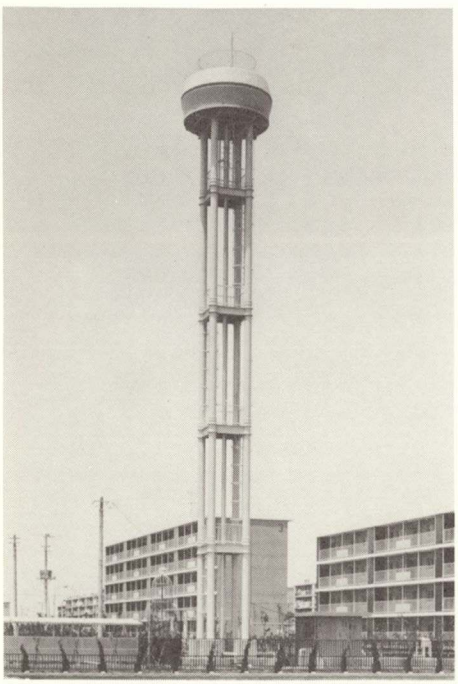
本工法の採用については、床板と流水空間が近接しているため、湿気の上昇を心配して地下階の用途を限定してきたが、実施例ではとくにそのような徴候は見られなかった。したがって、今後は前述のメリットを生かして、より広範囲の用途の建物に採用されるようになると予測される。

（あがわ　せいじ　鹿島建設株式会社大阪支店建築部）

構造の頁

133
高架水槽の耐震設計
―容器構造設計指針案・同解説を踏まえて

松田　充啓



「新耐震設計法(案)」が昭和52年３月に発表され、その後〝伊豆大島近海地震〟(昭和53年１月)および宮城県沖地震(昭和53年６月)が発生し、以来、あらゆる分野にわたって耐震設計の再検討が行われた。昭和56年６月に建築基準法が改正され、建築設備の耐震設計指針として〝建築設備耐震設計・施工指針〟〔(財)日本建築センター昭和57年2月〕が示された。

水槽においては地震被害の収集と解析をもとに、昭和55年１月に「FRP水槽耐震設計基準(案)」が業界自主基準として、昭和56年６月に「FRP水槽構造設計計算法」が本体設計法統一基準として発表された。これらの基準を作成するにあたっては、いくつかの実物実験の結果が大いに役立っている。

昭和59年10月に容器構造設計指針案・同解説が発表され、本指針案は、水槽・サイロの構造設計全般および球形タンク支持構造・地上たて型円筒貯槽の耐震設計に適用し、また高架水槽の耐震設計について具体的に示されている。

１．水槽の耐震設計区分

地震時に万一水槽が破損しても、その内容物である水の流出の程度では、人命に危害を与えるような危険性は高くないと考えられる。しかし、高架水槽などは、住宅地の中心に建てられることや災害時に水そのものが必要となる点を考慮して、水槽の耐震設計区分をつぎのように定める。

個人的に使用する小規模な水槽は、耐震設計区分をⅠとする。用途係数は0.6以上である。

公共用水槽で地震災害中および後に給水機能を保持するものや、とくに設備として重要な水槽、水槽の地震被害が周辺に二次災害を及ぼしそうな水槽は、一般建築物相当以上と見なして、耐震設計区分をⅢとする。用途係数は1.0以上である。

その他の一般の水槽は、耐震設計区分をⅡとする。用途係数は0.8以上である。

２．Housner理論式

Housner理論式は、水槽の耐震設計によく用いられており、水槽振動実験結果とも矛盾しないことが確認されている。Housnerにより自由水、固定水の量、動水圧分布形、水平力としての作用高さ、自由水の一次固有円振動数が導かれる。

３．設計地震荷重

設計地震荷重は、修正震度法またはモード法による。

３－１　修正震度法

水槽は振動系に置換すると、水槽容器が剛な場合、支持構造体を介して支持された水槽容器と固定水よりなる質点の上に、自由水に相当する質点が結合された系と考える。

修正震度法による構造物の基部における水平方向の設計降伏せん断力Qdの算定にあたっては、自由水の一次固有周期が長いので、自由水の地震力への寄与は無視して、(1)式を適用する。

設計加速度応答スペクトル値を求めるときの一次固有周期は、自由水を無視した系における値をとる。

構造体各部の設計降伏せん断力Qdiは、上記の基部におけるQdが高さ方向に逆三角形震度分布しているものとして、(2)式で算出する。

構造特性係数Dsは、振動エネルギの地下逸散減衰については、安全側に考えてその影響を無視し、**表１**の値をとる。

〔１〕

$$Qd=C\cdot W \qquad C=Zs\cdot I\cdot Ds\cdot\frac{Sa_1}{g} \qquad \text{――(1)}$$

ただし、$C\geqq 0.3Zs$とする。

C：設計降伏せん断力係数
W：水槽容器自重、固定水重量および支持構造体重量の和
Zs：地震地域係数(建築基準法による)
I：用途係数
Ds：構造特性係数(表１)
Sa_1：一次固有周期に対する設計加速度応答スペクトル値
g：重力加速度

表１　構造特性係数Ds(高架水槽の場合)

構造種別	構造形式	Ds
金属構造	ラーメン	0.40
	トラス・筋かい	0.40
	壁	0.55
鉄筋コンクリート構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造 プレストレストコンクリート構造	ラーメン	0.40
	壁	0.45

設計応答スペクトル値Svj
設計加速度応答スペクトル値Saj
$Tj<T_G$のとき

$$Svj=156Tj\ (\mathrm{cm/s})$$
$$Saj=980\ (\mathrm{cm/s^2})$$

$Tj\geqq T_G$のとき

$$Svj=156T_G\ (\mathrm{cm/s})$$
$$Saj=980\frac{T_G}{Tj}\ (\mathrm{cm/s^2})$$

Tj：j次の固有周期
T_G：地盤種別によって定まる臨界周期

〔２〕

$$Qdi=Qd\frac{\sum_{m=i}^{n}Wm\cdot hm}{\sum_{m=1}^{n}Wm\cdot hm} \qquad \text{――(2)}$$

Qdi：構造物をi質点振動系とみなした場合のi層の設計降伏せん断力(t)
Wi：i質点の重量(t)
hi：質点の地盤からの高さ(m)
n：質点の総数

３－２　モード法

モード法では、自由水に相当する質点を含む振動系に基づいて、(3)式で設計降伏せん断力を算定する。ただし、構造体重量が容器水量に比較して圧倒的に大きい場合や、自由水と構造体の連成の度がきわめて低い場合では、自由水の存在を無視できる。

$$Qdi=\sqrt{\sum_{j=1}^{K}\left(Ci\sum_{m=i}^{n}Wm\cdot\beta_j\cdot Umj\right)^2} \qquad Cj=Zs\cdot I\cdot Ds\cdot\frac{Saj}{g} \qquad \text{――(3)}$$

ただし、$Qdi\geqq 0.3ZsW$とする。

βj：j次固有振動刺激係数
Uij：i質点のj次の固有モード
K：地震応答に対して影響の大きい振動次数の最高次数
j：固有振動次数
Cj：j次固有振動に対する設計降伏せん断力係数
Saj：j次固有周期に対する設計加速度応答スペクトル値

４．耐震性の検定

水槽は許容応力度による設計を行うため、各部の設計降伏せん断力を構造体の保有水平耐力の短期許容耐力に対する比率Bで除する(4)式によって設計せん断力を定める。

$$Qei=\frac{Qdi}{B} \qquad \text{――(4)}$$

Qdi：i層の設計降伏せん断力(t)

一般にモード法の方が小さな値となり、過小となることを避けるため、修正震度法による値の70％を下回ってはいけない。また、基部における設計降伏せん断力Qdは、$0.3ZsW$を下回らないこととする。

比率Bについては、設計者の判断により実状に応じて1.2より1.5の数値を選ぶ。ただし、トラスまたは軸組筋かい構造については$B=1.0$とする。

基礎構造の設計にあたっては、基部の設計降伏せん断力に、基礎部分の地震力を$k=0.15$によって求めて加え、比率Bを考慮のうえ設計せん断力を定める。

構造各部の詳細設計は、構造特性係数Dsに相当する以上にできるだけ変形能力を確保するようにする。

(まつだ　みつひろ　積水工事株式会社産業機器事業部技術部)

日本建築協会

月間の動き

昭和60年7月分

事業委員会

第3回若い会員の集い小委員会
2日　6時半～8時50分　於本会会議室
出席者　石川副委員長ほか8名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 本年度第1回企画「オーク・ヴィレッジの人々を囲んで(2)」実施報告
(3) 第2回以降の企画、その他

第3回広報小委員会
3日　6時～8時45分　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか7名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 本年度の事業企画、その他

第3回見学会小委員会
4日　6時～8時　於本会会議室
出席者　伊東幹事ほか7名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 6月の見学会実施報告
(3) 7月以降の見学企画、その他

第3回委員会
11日　0時半～2時　於本会会議室
出席者　三品委員長ほか4名
議事　(1) 各小委員会の事業報告ならびに事業企画
(2) 本年度建築関係団体合同忘年懇親会開催
(3) その他

第4回広報小委員会
23日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか11名
議事　本年度の研修会の企画、その他

編集委員会

10月号「これからの住空間」特集第2回編集幹事会
1日　6時～9時　於本会会議室
出席者　荻原特別幹事ほか7名
議事　「これからの住空間」(仮称)特集の企画

11月号「村野藤吾追悼」特集編集幹事会
3日　11時～13時　於本会会議室
出席者　村野漾氏ほか3名
議事　「村野藤吾追悼集」の企画

第4回作品作風小委員会
3日　4時～8時半　於本会会議室
出席者　北村副委員長ほか5名
議事　(1) 掲載状況報告と新建築調査表の選定
(2) 「Gallery」報告と今後の検討
(3) 前回委員会議題のまとめ、その他

東海支部復活25周年記念号特別編集委員会
4日　4時～6時　於愛知県建築士会
出席者　中島一支部長ほか9名　本部1名
議事　11月号予定の支部特集号の企画

設計者のプロフィール取材見学会
6日　1時～6時　於枚方
出席者　加藤力氏ほか11名
13日　1時半～5時　於大阪国際見本市
出席者　本多委員ほか2名

第4回施工材料分科会
10日　4時～6時半　於本会会議室
出席者　水口幹事ほか3名
議事　(1) 昭和60年10月号施工材料特集の企画
(2) 「施工材料の頁」の企画、そのほか

第1回書評委員会
16日　4時～6時　於本会会議室
出席者　太田隆信氏ほか5名
議事　(1) 書評委員会の設置主旨と自己紹介
(2) 9月号以降の書評頁の企画

委員会
18日　4時～5時15分　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか4名
議事　(1) 7月号「大阪国際見本市新会場」特集経過報告
(2) 「建築と水の演出」特集の掲載号について
(3) 8月号「都市と健康・スポーツ」および「神戸研究学園都市の建築・まちづくり」特集経過報告
(4) 9月号「接合—人体と建築の骨組と接合部分—」(仮称)特集報告
(5) 「日建設計」(仮称)特集について
(6) 10月号「これからの住空間」特集の企画
(7) 10月号施工材料特集「屋根」の企画—施工材料分科会報告
(8) 11月号「第32回青年技術者」特集、「村野藤吾追悼集」、および「日本建築協会東海支部復活25周年記念号」の件
(9) 12月号以降の特集企画
(10) 小委員会の報告(投稿欄)
(11) 収支状況報告

第4回広告企画小委員会
23日　4時～5時30分　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか5名
議事　(1) 7月号「大阪国際見本市新会場」特集広告収入報告
(2) 8月号「建築と水の演出」「神戸研究学園都市の建築・まちづくり」特集広告収入経過報告
(3) 9月号「都市と建築・スポーツ」「接合—人体と建築にみる」特集報告
(4) 10月号「日建設計創立35周年記念」「これからの住空間」(仮称)特集報告
(5) 11月号「第32回青年技術者」「村野藤吾追悼」「日本建築協会東海支部復活25周年記念」特集報告
(6) 「屋根」(仮称)特集報告
(7) 収支状況報告、その他

第5回施工材料分科会
23日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　水口幹事ほか5名
議事　昭和60年10月号「屋根」特集の企画の具体化

第4回投稿欄小委員会
24日　6時～8時　於本会会議室
出席者　中馬副委員長ほか3名
議事　8月号以降の企画、その他

4回巻頭グラビア小委員会
26日　6時～8時　於本会会議室
出席者　本多委員ほか2名
議事　「建築と社会」巻頭グラビア頁の企画

出版委員会

設備トラブル研究会懇親会
16日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　●建築設備トラブル研究会メンバー

荒井　清(東畑建築事務所)　大河原勝己(鹿島建設)
大嶋康義(須賀工業)　河津隆之(浦辺建築事務所)
木村正生(鹿島建設)　澤柳　健(高砂熱学工業)
辰己久男(三晃空調)　辻野純徳(浦辺建築事務所)
中村　堯(日建設計)　山本吉之助(西原衛生工業所大阪店)

●舟橋副委員長、学芸出版社(京極迪宏・吉田隆)

建材委員会

18日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか15名
材料説明　ルームラック/旭ダウ化工
議事　(1) 今後の検討建材
(2) 今後の「新建材紹介コーナー」

建築クラブ

朝食会
9日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
当日は、大阪市文化財協会の中尾芳治氏より、大阪アクロポリス計画について、難波宮跡の発掘調査以来現在までの動きについての話を伺った。

役員会
9日　9時半～10時　於大阪グランドホテル
出席者　塚本代表ほか3名
議事　今後のスピーカーについて、その他

建築業務基準委員会

16日　2時～4時　於日本建築士会連合会
出席者　構成団体各委員、建設省石川、西尾両氏
議事　建築業務基準について(継続)

建築防災関係法令研究連絡会

29日　2時～4時　於日本建築家協会
出席者　構成団体各委員
議事　(1) 危険物規制について
(2) 建基法と他法の整理、統合の一般的基準
(3) 次回開催日

7月の入会者　(敬称略)

〔個人会員21名〕

浅野昭夫(浅野建築設計事務所)　池村乃武光(錢高組)　岩田正弘(清水建設)
大田民治(錢高組)　大前高義(錢高組)　岡田満弘(伊藤建築設計事務所)
長村健司(錢高組)　佐々木洋治(錢高組)　佐藤　薫(伊藤建築設計事務所)
塩脇昭司(錢高組)　下土井節男(錢高組)　白野隼男(錢高組)
杉　勝義(錢高組)　田中延久(錢高組)　滝沢修二(滝沢建築設計室)
中島良弘(錢高組)　中村嘉男(錢高組)　西垣　孟(錢高組)
菱本康男(二葉設計事務所)　堀内英樹(住友建設)　吉田　茂(錢高組)

〔準会員1名〕

宮本　久(大工大)

〔団体会員2社〕

大谷女子短期大学図書館
㈱国代耐火工業所

企画：日本建築協会



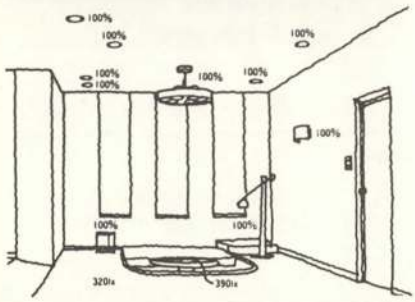
建築技術選書38　A５・176頁・定価1400円

住宅の照明

松下電工常務取締役　**大島 博 監修**

量的なあかりから質的なあかりへ
住まいの表情を一変させる様々な照明手法を
現代のトップレベルの知識と技術で解説

現在，様々な光源が開発され，豊富なデザインの照明器具も出そろっているが，住宅のあかりの質はまだまだレベルが低いようだ．しかし，あかりこそが空間の快適性を高めるポイントなのである．本書は，インテリアスタイルに応じた照明の手法や部屋別のあかりのあり方を詳述し，新しい時代のあかりを追求する．住宅のインテリアをより快適に演出する照明手法をわかりやすく解説した．



目　次

1　あかりの変遷
2　あかりの重要性
3　住まいにおけるあかりのあり方
4　部屋別のあかりのあり方
5　住宅の配線

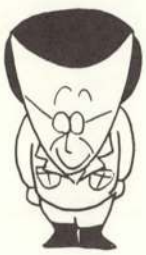


〈目録進呈〉

学芸出版社

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343)0811

企画：日本建築協会



プロのノウハウ

最新刊

……建築に携わる人へのヒント

知りたくても知るすべがなかったこと，書きたくても公には書けなかったさまざまなトラブルの事例・原因・対策から，その解説・ヒントまで——

最新の設備や技術ゆえに起こるトラブルから，いつも失敗をしながら明確な解決策が出されなかったトラブルまで，現場サイドの技術や知識に裏付けられた，実際に起こった事例とその対策の数々．トップレベルの技術者たちの知識と勇気を結集してまとめた．空調設備や衛生設備で失敗しないための方法や技術をすべて盛り込んだ，画期的なトラブル解消のトラの巻である．

空調設備のトラブル50

四六・224頁・定価1800円　**建築設備トラブル研究会著**

●内容概略

1　熱特性にまつわるトラブル
2　梁と天井裏スペースにまつわるトラブル
3　シャフトまわりのトラブル
4　ガラリまわりのトラブル
5　屋上・屋外設置機器まわりのトラブル
6　空調機械室まわりのトラブル
7　居室内のトラブル



衛生設備のトラブル50

四六・224頁・定価1800円　**建築設備トラブル研究会著**



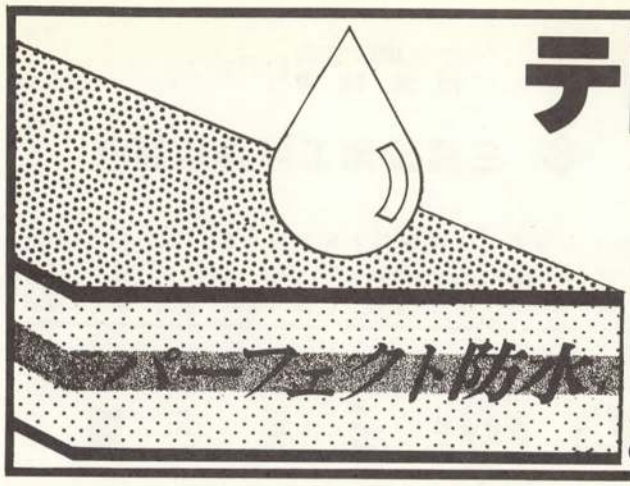
●内容概略

1　地中・床にまつわるトラブル
2　シャフト・壁・便所にまつわるトラブル
3　浴室・外壁にまつわるトラブル
4　地下・屋上にまつわるトラブル
5　腐食にまつわるトラブル
6　給水・給湯にまつわるトラブル
7　排水にまつわるトラブル

〈目録進呈〉

学芸出版社

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343)0811



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪	06（市外局番）371（代表）4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢	0762（市外局番）65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸	078（市外局番）611—7971 631—2021

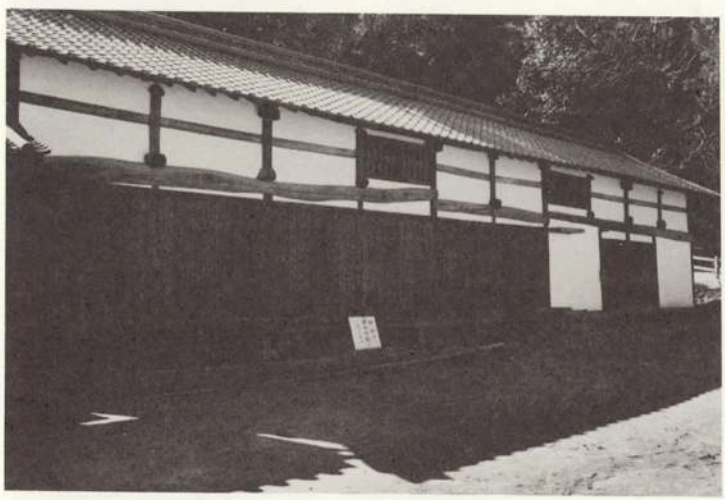
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備 衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生 防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿 新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082—247—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話（06）441-8231（大代）
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話（03）535-5251（大代）
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1,2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768—5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768—1655 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京（03）262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話（06）344—6031（代）
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2（三井第二別館）
電話（03）279—5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
大阪支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06—441—5171（大代表）〒550

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備
公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－448－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)　5101～5・夜間専用(691)　1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備設計施工
換気・除塵設備

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札 幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

総合設備工事〈設計・施工〉
建築・電気・通信・送電線・プラント・計装・空調・土木

住友電設株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本社 大阪市福島区福島7—22—8 Tel 06-452-1151(大代)
東京 東京都港区芝2 — 2 —17 Tel 03-454-7311(大代)
支社 福岡・広島・名古屋・神戸・京都

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 大阪市西区西本町1－13—33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天 理 市 丹 波 市 新 町 50

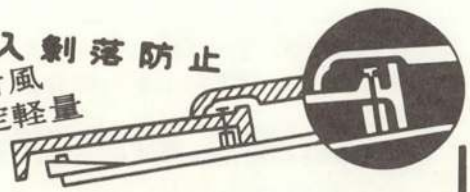
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

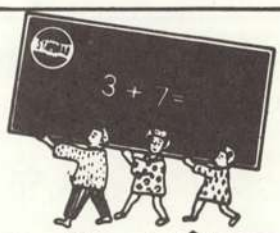
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区難波中一—三—六



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858代

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
O.P.Co
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■ コンクリート用混和剤　■ 無収縮グラウト材
■ 鉄筋コンクリート用防せい剤　■ 工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木３－16－26　☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７　☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル（S M.AC.PC.RC）
カネライトフォーム. ALC. 鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号（千代田ビル）

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューテックス……コンクリート躯体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

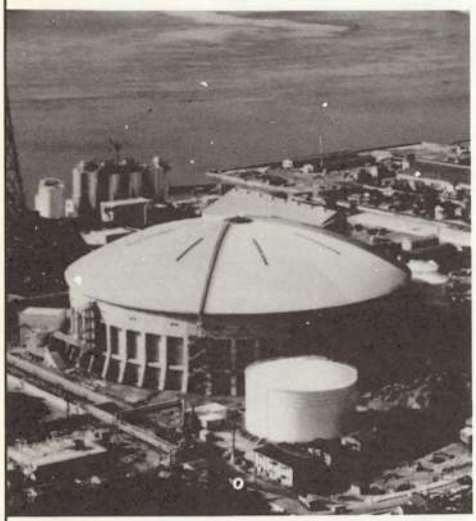
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

井上允彦 著
うっかり間違える構造力学
▼B6・93頁 定価1200円 送200円

北中克己 著
増補 最新場所打ぐい工法
▼A5・341頁 定価3500円 送300円

井上 博・北小路宏 共著
建築配筋詳説本 改訂版
▼B5・162頁 定価3200円 送300円

高橋 昌 著
建築型わく工法マニュアル
▼A5・216頁 定価2600円 送300円

井上 博 著
増補 溶接読本
▼B5・157頁 定価3000円 送300円

同編集部 編
建築構造問題快答集 5
▼A5・366頁 定価3800円 送300円

筒井助幸 著
山形鋼組の応力計算
▼A5・210頁 定価3200円 送300円

西 忠雄 監修
建築の接着工法
▼B5・430頁 定価3000円 送400円

同編集部 編
建築工事 内外装の損傷と補修
▼B5・289頁 定価3600円 送300円

小池正次 著
住宅団地の土木設計
▼B5・113頁 定価1600円 送250円

月刊 建築技術
No.411　11月号予定目次　定価1,000円

天窓の採光計画
—もう一つの昼光利用法—……宮田 紀元
傾斜地を利用したＰＣ集合住宅……住宅・都市整備公団関東支社

▶角形鋼管用鋳鋼ダイヤフラムを用いた柱—はりの接合……松村弘道ほか
▶メッシュ型枠を使った躯体打上工法……江川常次郎
▶ＲＣ構造物の高層化の動向と課題……井上 芳生
▶最近の耐震建築構造と新耐震基準……山内 泰之
▶成人式を迎えた鉄筋屋さんの組合……豊島 光夫
▶建築企画の実務対策(3)……田中 修一

新連載
土留工法のコストスタディ……須賀好富ほか

●建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向　その他

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥12,000 (送料共)

〒160 東京都新宿区北新宿 1-8-1 中島ビル８Ｆ (株)建築技術 ☎東京 03(363)4211(代) 振替口座 東京0-72417番

人の、おしりを洗いたい。



マイコン制御で、洗う、乾かす、暖める…と、すべてをコントロール。
しかもビデ洗浄付です。新しいウォシュレットは、マイコンによる自動温度制御方式。洗浄、乾燥、暖房便座の温度は、すべてこのマイコンがコントロールしてくれます。だから室温、水温の変化に影響されず、春夏秋冬、いつもおしりは快適。お子様、ご老人、身体の不自由な方でも、ラクな姿勢で使え、痔や便秘にも効果的です。また、生理中、妊娠中、出産後など、ふだんより一層清潔に気を配らなければならない女性のために、ビデ洗浄も設けました。カラーも3色揃っています。
特に注目していただきたい、2つのポイント。1. パネル1枚にすべてのスイッチを集めた新設計。ボタンは軽く押すだけのフェザータッチです。
2. 洗浄ノズルは使用時に伸び、洗い終ると縮んで便座の裏に隠れる伸縮式。用便時など汚物が付着しません。しかもノズルは43度（ビデは53度）の角度つき。理由はおしりをキレイに洗うため。60年のトイレづくりから得たTOTOの結論です。ウォシュレットGⅡ（TCF451）〔洗浄・乾燥・ビデ・暖房便座〕水道直結タイプ¥149,000（取付工事費別途）

もっと快適に、増改・取替

TOTO
ウォシュレット

写真はウォシュレットGⅡ（TCF451）



おしりだって、洗ってほしい。

東陶機器㈱大阪支社　〒530 大阪市北区曾根崎2丁目3番7号 梅新第一生命ビル東館
☎(06)364-1181

建築と社会　第66輯第9号
昭和60年9月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可



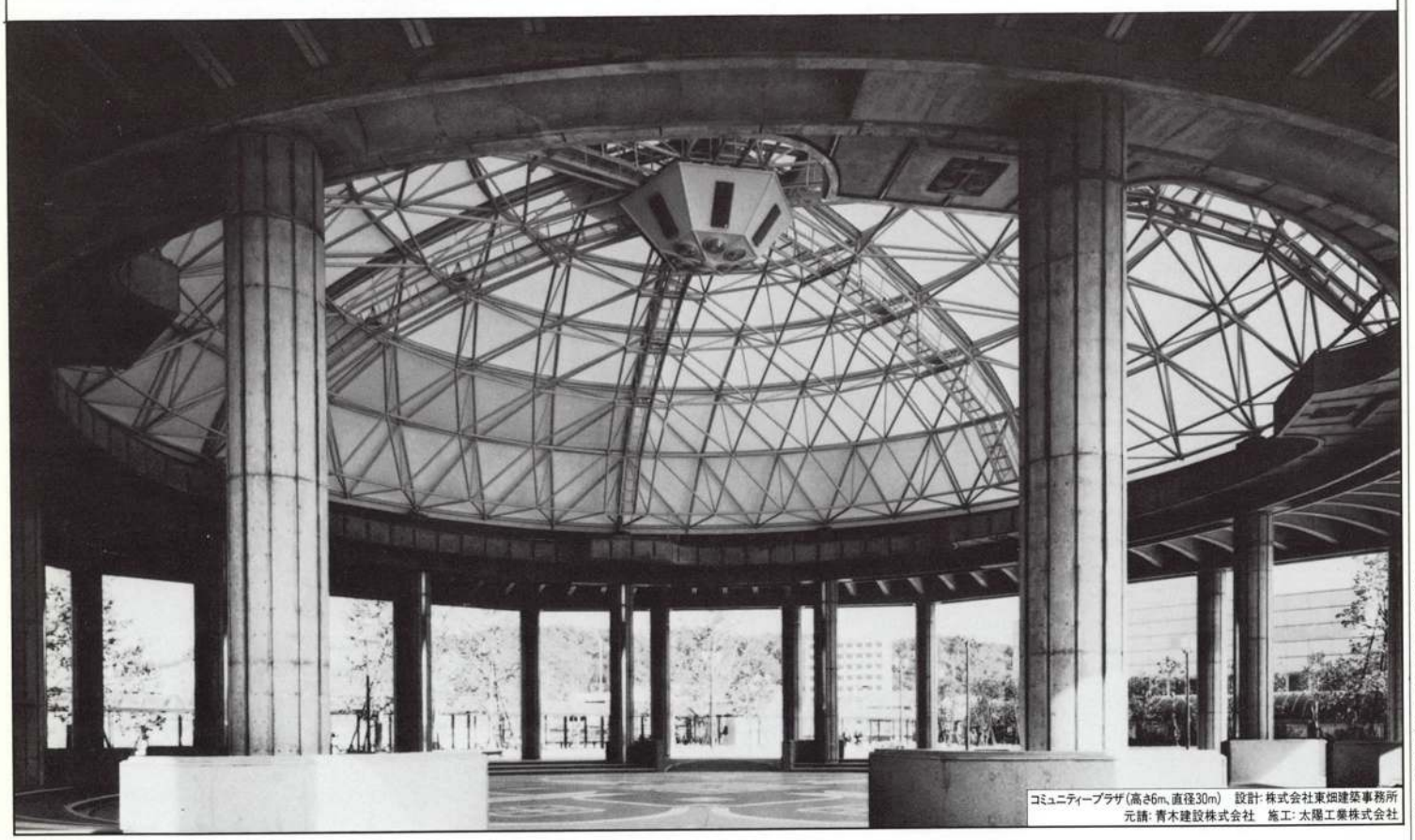
インテックスプラザ（間口40×奥行70×高さ30m）　設計：大阪市都市整備局 株東畑建築事務所
元請：大林組・松村組共同企業体　施工：太陽工業株式会社

21世紀のふれあい空間

光の広場。

新国際見本市会場「インテックス大阪」のインテックスプラザ。神戸ユニバーシアードを契機に建てられた神戸研究学園都市コミュニティプラザ。最先端の膜面技術が生み出した未来空間です。巨大空間を実現したTMトラスと透光性にすぐれたテフロン＆ガラス繊維布の天井など。太陽工業の誇る膜面技術が、新しいふれあい空間づくりに成功。今、大きな感動が生まれています。

太陽工業株式会社
環境事業部
〒532 大阪市淀川区木川東4－8－4　☎(06) 306-3065
〒153 東京都目黒区東山3－22－1　☎(03) 714-3461
〒452 名古屋市西区玉池町2　☎(052)503-3111
●札・幌・仙台・千葉・広島・梅田・サンフランシスコ・シカゴ
●一級建築士事務所●特定建設業者大臣許可(特-59)第3019号●(社)日本膜構造協会正会員



コミュニティープラザ（高さ6m、直径30m）　設計：株式会社東畑建築事務所
元請：青木建設株式会社　施工：太陽工業株式会社

社団法人　日本建築協会　〒530
大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635
（表紙デザイン・吉引顕久）
振替口座大阪一三九九七五番
正会員の購読料は会費にふくめて徴収
定価九五〇円（送料共）